

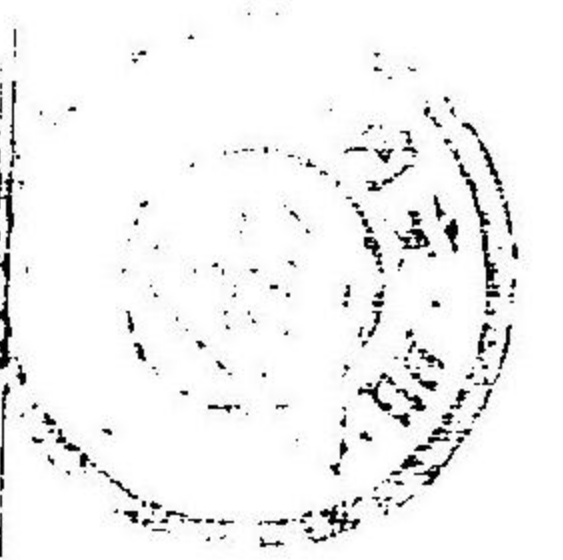
CN
3
015

市岡正一編纂

訂正
日本類典

博聞社藏版

第壹卷



儲言

明治十九年ノ初メニ於テ官民必需ノ現行ノ法令ヲ類聚編纂シテ一部ノ書冊トシ日本類典ト題シテ印刷發行シ爾後毎年新令ヲ編次シ以テ前卷ヲ補足シ改廢消滅ヲ正シタリ而シテ其編次スルモノ既ニ數卷トナリ殊ニ客年來新令ノ發布多クシテ卷中種目亦新ナラサルハナシ故ニ諸卷ノ類目混淆錯雜シテ搜索ニ不便ナルヲ慮リ今回前數卷ニ掲クル處ノ法令中改廢消滅ニ屬セシモノヲ除キ現行ノモノヲ合一シ前卷ニ欠漏スル處ノ法令中官民ニ必要ナルモノヲ選拔シ以テ之カ増補ヲナシ更ニ類ヲ分チ目ヲ正シいろは索引目錄法令目錄等ヲ追加シ訂日本類典ト題ス

- 一 本書ハ太政更始以降本年三月ニ至ル現行ノ法令等ヲ類聚シ分テ二十類トシ相類似スルモノヲ以テ一部類ト爲ス
- 一 本書ハ布告法律勅令等其他主要ノ法令ヲ以テ基トシ布達達閣令省令訓令等ニシテ本令ニ從屬スヘキモノハ相聯掲シテ以テ本令ヲ全タカラシム
- 一 本書ハ簡明ヲ旨トスルヲ以テ既ニ廢止改正消滅ニ係ルモノハ省キテ載セス其主タル法令ニ屬スルモノハ本令ノ前ニ其要領ヲ摘載シ以テ之カ沿革ヲ詳ニシ又本令中改正刪除追加等ニ係ルモノハ本文ニ付テ直ニ之カ加除訂正ヲナシ其結文又ハ前文等ニ發令ノ年月種類番號及加除改正等ノヲ記註ス
- 一 一令ニシテ數類ニ相關涉スルモノハ最モ主タル部類ニ編録シ他ハ其關涉スル部分ニ表目

ノミヲ掲ケテ下ニ本文記入スル處ヲ記註シ或ハ其關涉スル法令ノ齟齬ニ記註シ以テ彼是ノ參看ニ供ス

明治二十二年五月

編者誌

正訂日本類典

總目錄

第一卷

第一類

第一章 憲法 年曆

自第一至第三

第二章 公文式 官報

自第四至第五

第三章 建白 請願

自第六至第七

第四章 官制

自第八至第二十六

第五章 官等俸給

自第二十七至第三十二

第六章 官吏任用

自第三十三至第三十八

第七章 俸給支給 旅費

自第三十九至第四十一

第二類

第一章 位階 勳章 褒章

自第四十二至第四十六

第二章 恩給 恤救

自第四十七至第五十一

總目錄

第三類

第一章 議會

第二章 郡區市町村

第四類

第一章 地所

第二章 道路橋梁

第三章 鐵道

第二卷

第五類

第一章 行政警察 警察官吏

第二章 諸取締ニ係ル條例規則

第三章 禁令

第六類

第一章 監獄 看守押丁

自第五十二至第五十五

自第五十六至第五十九

自第六十至第六十三

自第六十四至第六十五

第六十六

自第六十七至第七十五

自第七十六至第八十八

自第八十九至第九十四

自第九十五至第九十六

第二章 囚人護送 囚徒費用

第七類

第一章 戶籍諸則

第二章 種族 氏名 年齡

第三章 養子婚姻 家督相續 合

家分家絕家 失蹤逃亡

旅行

第四章 墓地埋葬 死亡 忌服

第八類

第一章 醫業 賣藥 藥品

第二章 衛生會 傳染病豫防

第九類

第一章 新聞紙

第二章 出版

自第九十七至第九十八

第九十九

自第一百至第一百四

自第一百五至第一百十

自第一百一十一至第一百十三

自第一百四十四至第一百十八

自第一百十九至第二百二十二

第二百二十三

第二百二十四

第十類

第一章 社寺 神職

第二章 教師 僧侶

第十一類

第一章 會計 出納

第二章 國稅 地方稅

第四章 貨幣 紙幣 證券 兌換

銀行券 印紙類賣捌

第三卷

第十二類

第一章 戒嚴令 徵發令 軍事參

議官

第二章 陸軍

第三章 海軍

自第百二十五至第百二十八
自第百二十九至第百三十一

自第百三十二至第百三十五
自第百三十六至第百五十三

自第百五十四至第百七十六

自第百七十七至第百八十一

自第百八十二至第百九十四

自第百九十五至第百九十九

第四章 陸海軍刑法 治罪法 罰

令

第十三類

第一章 學校

第二章 學位令

第十四類

第一章 勸業

第二章 農業 漁業

第三章 商工

第四章 坑業

第十五類

第一章 郵便 電信

第二章 燈標

第三章 船舶

自第百至第百二十四

自第百五至第百二十九

第二百十

第二百一上下

自第百二十二至第百三十

自第百二十一至第百二十七

第二百二十八

自第百二十九至第百三十三

自第百三十四至第百三十五

自第百三十六至第百四十五

第四卷

第十六類

第一章 賣買讓與 貸借 諸證書

自第二百四十六至第二百五十三

第二章 附托物 利足制限

自第二百五十四至第二百五十六

第三章 雇人 代人

自第二百五十七至第二百五十八

第四章 登記

第二百五十九

第十七類

第一章 代言人 公證人 使丁

自第二百六十至第二百六十二

第二章 裁判所位置管轄區域權限

裁判所諸則

自第二百六十三至第二百六十五

第三章 訴訟取捨 訴訟用印紙

訴答文例

自第二百六十六至第二百七十一

第四章 裁判所喚問 控訴上告

身代限訴訟入費 裁判執

行

第十八類

第一章 刑法

自第二百七十二至第二百七十七

第二章 治罪法

第二百七十八

第十九類

第一章 罰例處斷法 讒謗律

自第二百七十九至第二百八十四

第二十類

第一章 宮城 內務報告例

自第二百八十五至第二百八十六

第二章 氣象測候

自第二百八十七至第二百八十九

第二百八十九

正訂日本類典第一卷目次

○第一類

○第一章 憲法 年曆

●政體ニ係ル沿革要領

【第一】大日本帝國憲法

【二】皇室典範

【三】五ヶ條ノ御誓文

【三】立憲政體ヲ立ル詔勅

●年曆沿革要領

【第二】年號改元ノ詔勅

【第三】改曆ノ詔書

【二】本初子午線經度計算方及標準時ヲ定ム

【二】天象觀測及曆書調製ヲ文部大臣ニ管理セシム

【三】頒曆及略曆出版

一	全	全	全	十	十	十	二	二	二	全	二	二	二	二	二	二
				九	三		十	一	二	二	十	十	十	十	十	十
											二	二	二	二	二	二
											五	四	三	三	三	三

○第二章 公文式 官報

●公文式沿革要領

第四 公文式

- 〔一〕 北海道ニ施行セサル法律規則ハ従前ノ通
- 〔二〕 布告布達到達日數
- 〔三〕 奈良縣香川縣官報到達日數

●官報ニ係ル沿革要領

第五 官報發行

- 〔一〕 官報ニ記載スヘキ事項ハ官報局長ノ斟酌ニ任ス
- 〔二〕 銀行會社等ノ報告類官報ニ掲載ヲ許ス
- 〔三〕 官報定價ヲ定ム

○第三章 建白 請願

●建白ニ係ル沿革要領

第六 建白書差出方

二十五
全
二十六
二十九
全
三十
全
三十一
三十四
全
三十五
全
三十六

〔一〕 公益ニ關スル上書ハ建白ト爲シ元老院ニ於テ取

扱フ

〔二〕 建白書差出方心得

〔三〕 建白ヲ名トシ官吏ニ面謁ヲ求メ抗論喧擾ニ涉ル者處分方

●請願ニ係ル沿革要領

第七 請願規則

- 〔一〕 寄留者諸願伺届等寄留地ノ管廳ヘ差出方
- 〔二〕 寄留者諸願伺届等處分濟本管廳ヘ通達方
- 〔三〕 寄留人願伺届等郡區長〔戸長〕ニ於テ取扱方

●伺指令

●請願規則第四條ノ伺

○第四章 官制

●內閣官制沿革要領

第八 內閣ニ諸大臣ヲ置キ組織ヲ改ム

三十六
全
三十七
全
四十
全
四十一
全
四十四
三

〔一〕	內閣ノ組織ヲ改ムルノ詔勅	四十四
〔二〕	太政大臣內閣改制ノ奏議	全
〔三〕	內閣書記官長官等改正	四十六
〔四〕	內閣書記官ノ官制ヲ改ム	四十七
〔五〕	內閣賞勳局職員及官等年俸	全
〔六〕	法制局官制ヲ定ム	四十九
〔七〕	文官試験委員官制	五十
〔八〕	記録會計官報三局官制	五十三
〔九〕	統計局官制	五十五
〔十〕	會計檢査院官制	五十六
〔十一〕	鐵道局官制	五十八
〔十二〕	従前太政官所屬ノ事務ヲ內閣ニ於テ管轄ス	六十
〔第九〕	樞密院ヲ設ケ官制及事務章程ヲ定ム	全
〔一〕	樞密院ニ屬ヲ置ク	六十五

●宮内省官制沿革要領

〔第十〕	宮中ニ內大臣并宮中顧問官及內大臣秘書官ヲ置キ官制ヲ定ム	六十七
〔第十一〕	宮内省官制ヲ定ム	六十八
〔一〕	主殿寮中門監門監補門部消防監消防監補嚮導消防手ヲ廢シ同寮中皇宮警察署ヲ置キ官制ヲ定ム	七十六
〔二〕	博物館官制	全
〔三〕	式部職中主事主事補ヲ置キ官等ヲ定ム	七十七
〔四〕	帝室會計審査局官制	全
〔五〕	主獵局官制	七十八
〔六〕	式部職中雅樂長以下ヲ廢シ雅樂部長以下ヲ置キ官制ヲ定ム	七十九
〔七〕	華族局ヲ爵位局ト改稱シ官制ヲ定ム	全
〔八〕	內匠寮中匠師匠手匠手補及御料局中技師技手ヲ	全

廢シ内匠寮主馬寮御料局中ニ技官ヲ置キ官等俸
給ヲ定ム

八十

〔九〕主馬寮中馭者馬醫ヲ廢シ更ニ八職ヲ置キ技術官
ヲ以テ之ニ補ス

八十一

〔十〕大膳職中ニ四職ヲ置ク

八十二

●各省官制通則沿革要領

八十三

〔十一〕各省官制通則

全

〔一〕各省事務ヲ總理スルノ綱領ヲ示ス

九十四

●外務省官制沿革要領

百

〔十三〕外務省官制

百一

〔一〕交際官及領事官制

百四

●内務省官制沿革要領

百五

〔十四〕内務省官制

百七

〔一〕中央衛生會官制

百十五

〔二〕集治監官制

百十七

〔三〕衛生試驗所官制

百廿一

〔四〕造神宮使廳官制

百廿二

〔五〕假留監官制ハ集治監官制ニ準據ス

百廿四

〔六〕土木監督區署官制ヲ定ム

全

●大藏省官制沿革要領

百廿五

〔十五〕大藏省官制

百廿七

〔一〕稅關官制

百四十八

〔二〕印刷局官制

百五十

〔三〕造幣局官制

百五十一

〔四〕三池鑛山局官制

百五十三

●陸軍省官制沿革要領

百五十四

〔十六〕陸軍省官制

全

〔一〕臨時砲臺建築部官制

百七十

〔三〕陸軍士官學校官制	百七十二
〔三〕陸軍幼年學校官制	百七十三
〔四〕軍馬育成所官制	百七十四
〔五〕陸軍重症病馬治療所官制	百七十六
〔六〕千住製絨所官制	百七十七
〔七〕陸軍省法官部官制	百七十八
〔八〕陸地測量官官制	百七十九
●參謀官官制沿革要領	百八十
●參謀職制	全
●海軍省官制沿革要領	百八十二
〔第十八〕海軍省官制ヲ改正ス	百八十三
〔一〕鎮守府官制	百八十五
〔二〕海軍軍醫學校官制	二百
〔三〕海軍造兵廠官制	二百一

〔四〕海軍火藥工廠官制	二百三
〔五〕海軍中央文庫官制	二百四
〔六〕海軍機關學校官制	二百五
〔七〕海軍兵學校官制	二百六
〔八〕海軍大學校官制	二百九
〔九〕海軍主計學校官制ヲ改正ス	二百十一
〔十〕海軍軍樂練習所官制	二百十二
〔十一〕小野濱造船所官制	二百十三
●司法省官制沿革要領	二百十五
〔第十九〕司法省官制	二百十六
〔一〕裁判所官制	二百十八
●文部省官制沿革要領	二百二十八
〔第二十〕文部省官制	二百廿九
〔一〕高等師範學校高等中學校高等商業學校東京職工	

學校東京高等女學校東京美術學校東京音樂學校

東京盲啞學校官制

(二) 東京圖書館官制

●農商務省官制沿革要領

第廿一 農商務省官制

(一) 大小林區署官制

(二) 東京農林學校官制

(三) 特許局官制

(四) 三田農具製作所貯木所富岡製絲所新町紡績所官制

●遞信省官制沿革要領

第廿二 遞信省官制ヲ改正ス

(一) 地方遞信官官制

(二) 商船學校官制

(三) 東京電信學校官制

二百三十一

二百三十三

二百三十四

二百三十五

二百四十三

二百四十五

二百四十七

二百四十九

二百五十

全

二百五十三

二百五十五

二百五十六

●元老院官制沿革要領

第廿三 元老院官制ヲ改正ス

●警視廳官制沿革要領

第廿四 警視廳官制

●北海道廳官制沿革要領

第廿五 北海道廳官制改正

(一) 札幌農學校官制

(二) 北海道鐵道事務所官制

●地方官官制沿革要領

第廿六 地方官官制

(一) 尋常師範學校官制

(二) 東京府管下小笠原島ニ島司ヲ置ク

(三) 島根縣下隱岐國ニ島司ヲ置ク

○第五章 官等俸給

二百五十八

全

二百五十九

全

二百七十

全

二百七十六

二百七十七

二百七十八

二百八十一

二百八十八

二百九十

全

●官等俸給沿革要領

第廿七 高等官官等俸給令

- 〔一〕 内閣書記官長ノ官等ヲ改正ス 全 二百九十一
- 〔二〕 帝國大學ノ職員官等 全 二百九十四
- 〔三〕 元老院議長副議長議官書記官ノ官等年俸ヲ改正ス 二百九十五
- 〔四〕 内閣賞勳局職員及官等年俸 二百九十六
- 〔五〕 無任所外交官ノ年俸ヲ定ム 全
- 〔六〕 判任官官等俸給令 二百九十八
- 〔七〕 技術官官等俸給令 二百九十九
- 〔八〕 裁判官檢察官大審院控訴院書記官ノ年俸ヲ頒布ス 三百一
- 〔九〕 地方官官等俸給令 三百二
- 〔十〕 理事錄事ノ官等俸給ヲ定ム 三百四
- 〔十一〕 主事錄事ノ官等俸給ヲ頒布ス 三百五
- 〔十二〕 稅關鑑定官鑑定吏官等俸給 全

- 〔十三〕 特許局審査官及審査官補官等俸給 全
- 〔十四〕 樞密院議長及顧問官年俸 三百六
- 〔十五〕 陸地測量官官等俸給 全
- 〔十六〕 大小林區署判任官官等俸給令 三百七
- 〔十七〕 三等郵便局長ハ判任官官等俸給令ニ依ラス手當ヲ支給ス 三百九
- 〔十八〕 帝國大學其他文部省所轄諸學校ノ教官給額支給方 全
- 〔十九〕 朝鮮國駐在公使附警部ノ官等俸給準據方 全
- 〔二十〕 文官試補見習ヲ命シタル者給料額ヲ定ム 全
- 〔廿一〕 技術官ハ事務ノ繁簡ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ支給ス
ルコトアルヘシトス 全

第廿八 陸軍武官官等表ヲ改正ス

- 〔一〕 陸軍海軍武官ノ官等ヲ頒布ス 全 三百十二
- 〔二〕 在外國公使館附陸軍武官俸給令 全
- 第廿九 海軍武官官等表ヲ改正ス 三百十四
- 〔一〕 海軍高等武官俸給令ヲ頒布ス 三百十六

第三十 宮内省勅任奏任官員ノ官等及年俸改定

三百十八

〔一〕 式部官掌典俸給ヲ廢シ更ニ主事主事補式部官掌典ノ年俸ヲ定ム

三百二十七

〔二〕 雅樂師長雅樂師副長ノ俸給ヲ廢シ雅樂部副長ノ年俸ヲ定ム

三百二十八

〔三〕 爵位局勅任官奏任官年俸ヲ定ム

三百二十九

〔四〕 内匠寮中匠師匠手匠手補及御料局中技師技手ヲ廢シ内匠寮主馬寮御料局中ニ技術官ヲ置キ官等俸給ヲ定ム

全

〔五〕 宮内省勅奏任官等年俸中御料局長官主事主事補官等年俸ヲ改ム

三百三十

〔六〕 内藏頭權頭助權助官等年俸ヲ改正ス

全

〔七〕 調度局長及局次長官等俸給ヲ改ム

三百三十一

〔八〕 皇太后宮亮皇后宮亮官等俸給ヲ改定ス

全

〔九〕 御料局中理事ヲ置キ官等俸給ハ技師ノ等給ニ據ル

三百三十二

第三十一 學習院職員及官等ヲ改定ス

全

〔一〕 華族女學校職員及官等俸給ヲ改定ス

三百二十三

第三十二 交際官並領事費用條例ヲ改正ス

三百二十五

第六章 官吏任用

三百五十四

●官吏選任ニ係ル沿革要領

全

第三十三 文官試験試補及見習規則

三百五十五

〔一〕 文官試補及見習ヲ命セラレタル者待遇方

三百六十三

〔二〕 學務及學術技藝ニ關スル行政官任用ノ件

全

〔三〕 陸海軍士官並同等官以上試験ヲ要セス文官ニ任用方

三百六十四

〔四〕 判任官高等試験ヲ受ケ本官ニ任スルノ件

全

〔五〕 海軍准士官並服役滿期ノ下士試験ヲ要セス判任官ニ任用方

三百六十五

〔六〕 三等郵便局長採用方法

全

〔七〕 營林主事補及森林監守任用方

三百六十六

- 〔八〕陸軍下士文官採用規則 三百六十六
- 〔九〕理事主理試験及試補ノ事務練習方 三百六十八
- 〔十〕三等電信局長選任及手當支給方 全
- 〔十一〕文官試験試補及見習規則ニ關スル細則ヲ定ム 全
- 〔十二〕高等試験及實務練習ヲ要セス司法官ニ任スルノ件 三百七十一
- 〔十三〕郡區長ノ試験科目ハ内務大臣指定スル所ニ依ル 全
- 〔十四〕在職判任官ニテ直ニ本官ニ任スル年限 全
- 〔十五〕文官試験試補見習規則中司法省舊法學校正則部卒業生ニ適用方 全
- 〔十六〕技術官及特別ノ學術技藝ヲ要スル者任用方 三百七十二
- 〔十七〕北海道郡區長試験ヲ要セス判任官ヨリ任用方 全
- 〔十八〕高等商業學校卒業證書ヲ有スル者判任官見習ニ任用方 全
- 〔十九〕郡區長ノ試験ニ關スル條規ヲ定ム 全
- 〔二十〕陸軍下士文官採用細則 三百七十三
- 〔廿一〕營林主事補及森林監守特別採用規則ヲ定ム 三百七十六
- 〔廿二〕三等郵便局長採用規則ヲ定ム 三百八十

- 〔廿三〕東京電信學校ノ卒業證書ヲ有スル者遞信技手ニ任用方 三百八十一
- 〔廿四〕三等郵便局長採用ニ關シ郡區長戶長處辦方 全
- 〔廿五〕三等郵便局長採用手續 全

●同指令

●巡查雇員ヨリ警部補又ハ判任官ニ採用方何指令 三百八十五

第三十四 舊海陸軍刑律ニ依リ文武及武官等ニ補スルヲ禁セラレタル者解禁ノ年限ヲ定ム 三百八十六

〔一〕官吏辭職後再就職ノ年限ヲ定ム 三百八十七

〔二〕辭職ノ官吏再就職ノ制限適用方 全

第三十五 陸軍武官進級條例改正 全

第三十六 海軍高等武官進級條例ヲ改正ス 三百九十一

●官吏服務紀律ニ係ル沿革要領 三百九十五

第三十七 官吏服務紀律ヲ改正ス 全

●官吏懲戒例沿革要領 三百九十八

第三十八 官吏懲戒例ヲ定ム 全

〔一〕官吏懲戒例ニ附屬ノ達

○第七章 俸給支給旅費

●俸給支給方沿革要領

〔第三十九〕俸給支給方

- 〔一〕高等官俸給支給細則
- 〔二〕高等官俸給支給細則附則
- 〔三〕判任官俸給支給細則
- 〔四〕非職官吏俸給支給方
- 〔五〕郡區吏員給料殘額處分方

●同指令

●官吏俸給支給日割ノ同指令

●高等官俸給支給細則ノ照會回答

●旅費規則沿革要領

〔第四十〕内國旅費規則

〔一〕内國旅費規則附則ヲ追加ス

三百九十九

四百

全

四百一

全

四百二

四百三

四百四

全

全

全

四百五

四百六

四百十

〔二〕警察官吏司獄官吏神官及等外吏雇員内國旅費支給方

〔三〕郡區書記ノ旅費支給方

〔四〕地方官内國旅費支給心得方

〔五〕内國旅費支給心得方

〔六〕租稅檢査員旅費支給額

〔七〕學校職員郡區書記戶長旅費支給方

〔八〕私設鐵道條例第廿一條第廿二條警察官吏四徒護送官吏ニ内國旅費支給方

●同指令

●檢田測量巡視等ノ旅費及規則第五條里程計算方ノ同指令

●内國旅費支給方ノ同指令

●管内赴任旅費日當支給方ノ照會回答

●内國旅費第七條ノ件ニ付同指令

●非職任用旅費支給方ノ照會回答

〔第四十一〕外國旅費規則

○第二類

四百十三

全

全

四百十四

全

四百十五

全

○第一章 位階 勳章 褒章

●位階沿革要領

第四十二 叙位條例

(一) 位階奉宣ノ手續

●勳章ニ係ル沿革要領

第四十三 勳章ヲ定ム

(一) 勳章増設ノ詔勅

(二) 勳章等級製式及大勳位菊花頸飾制式

(三) 勳章佩用式

(四) 勳章進叙者下級勳章ヲ還納セシム

(五) 勳章及大勳位菊花章頸飾圖樣ヲ示ス

(六) 勳章還納手續

(七) 勳章佩用式説明

(八) 勳章記章佩用心得

(九) 略章略綬佩用心得

四百廿五

全

全

四百廿六

全

四百廿七

四百三十

全

四百三十二

四百三十三

全

四百三十六

四百三十七

四百三十九

第四十四 外國勳章佩用願規則

全

第四十五 勳章年金褫奪外國勳章佩用免許狀沒收方

四百四十

(一) 勳章年金褫奪及停止取扱手續改正

全

●褒章沿革要領

四百四十二

第四十六 褒章條例

四百四十三

(一) 褒章ト金銀木杯若クハ金圓賜與

四百四十四

(二) 黃綬褒章臨時制定

全

(三) 褒章條例取扱手續

四百四十五

(四) 金銀木杯金圓賜與手續

四百四十六

(五) 賞與取調書式改正

四百四十八

●同指令

●褒章舉行處分方ノ同指令

四百四十九

●難破船救援ノ者褒賞取扱方ノ同指令

全

●人命救助者賞與及救助ノ爲メ溺死セシ者處分方同指令

四百五十

●人命救助者褒賞取扱方ノ同指令

四百五十一

○第二章 恩給 恤救

●恩給沿革要領

第四十七 官吏恩給令

- (一) 陸海軍將官同等軍人及武官ヨリ文官兼任ノ者恩給支給方 四百五十一
- (二) 官吏恩給令附則 全
- (三) 官吏恩給令附則第五條傷痍疾病等差例 四百五十二
- (四) 宮内省官吏恩給例 四百五十八
- (五) 宮内省ト他ノ官廳ト交互轉スル官吏ノ恩給年數計算方 四百六十九
- (六) 文武官恩給令ニ依リ恩給扶助料ヲ受ケタル者權利消絶又ハ支給停止ノトキ取扱方 四百七十一
- (七) 恩給扶助料ヲ受クル者受領地轉換轉籍等取扱順序ヲ定ム 全
- (八) 年金恩給ノ支拂令達ヲ得タル後受給者轉任シ年金恩給及扶助料ヲ受クル者受領地ヲ轉シタルトキ交付方 四百七十三

●同指令

●在官中死亡者恩給下賜ノ同指令

第四十八 陸軍恩給令

全 四百七十四

(一) 舊恩給令ニ依リ恩給扶助料罷役俸罷役恤金ヲ給與シ又ハ給與スヘキ者舊令ニ照シ給與方 四百九十二

(二) 舊陸軍恩給令ニ依リ恩給扶助料給與ノ者改正令發布後其權利移轉等ニ係ルトキ處分方 全

(三) 陸軍恩給取扱規則同諸書式ヲ定ム 全

●同指令

●陸軍恩給令二十三條ノ件ニ付同指令 五百三十四

第四十九 陸軍恩給令

(一) 海軍恩給令發布前退隱料扶助料ヲ給與セシ者給與方 五百五十一

(二) 海軍退隱令ニ依リ退隱料扶助料給與ノ者恩給令發布後其權利移轉等ノ處分方 五百五十二

(三) 海軍恩給扶助料出願中族籍變換改氏名等届出シム 全

●恤救沿革要領

第五十 恤救規則

(一) 三子出産困窮ニシテ孳養行届兼候向養育料給與方 五百五十三

(二) 恤救米及棄兒養育米等石代金下渡方 全 五百五十四

- 〔三〕 救助筋申請ノ砌調査稟議簡條 五百五十四
 - 〔四〕 恤救米及棄兒養育米等渡前月相場調成難成向ハ前々月平均相場ヲ用フ 五百五十五
 - 〔五〕 例規適當ノ分不及伺施行濟恤救取計及救助金受取方 五百五十六
 - 〔六〕 士族平民ヲ論セス救助施行方 全
 - 〔七〕 濟貧恤救施行濟届出方 全
- 第五十一 棄兒養育米被下方 五百五十八
- 〔一〕 棄兒養育米被下半年限及年齢見定方 全
 - 〔二〕 棄兒養育米全月未滿端日數ノ分支給方 五百五十九
 - 〔三〕 寄留人へ養育米下渡方 全
 - 〔四〕 迷兒取扱及費用支辨方 全

○第三類

○第一章 議會

●元老院會議沿革要領

第五十二 元老院條例 全

五百六十一

●帝國議會沿革要領

第五十三 國會開設ノ勅諭 全

五百六十七

〔一〕 議院法 全

五百六十八

〔二〕 衆議院議員選舉法 五百八十三

〔三〕 貴族院令 六百十七

六百十七

〔四〕 衆議院議員選舉法貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目 六百十九

六百十九

●伺指令

●衆議院議員選舉人資格ノ伺指令

六百二十

●府縣會區町村會ニ係ル沿革要領

六百廿一

第五十四 府縣會規則 六百廿二

六百廿二

〔一〕 區郡部會規則 六百廿九

六百廿九

〔二〕 府縣會其議定スヘキ事件ノ細目ニ係ル事項ヲ區町村會等ノ議ニ付スルヲ得 六百三十一

六百三十一

- 〔三〕 府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會往復通信ヲ禁ス 六百三十一
- 〔四〕 府縣會議員選舉規則 六百三十二
- 〔五〕 市制施行ニ付府縣會議員ノ選舉及市公民ノ資格ニ關スル件 六百四十五
- 〔六〕 府縣會審理事務手續 六百四十七
- 〔七〕 府縣會規則第七條ニ依リ内務卿ニ建議スル場合ニ於テ議員上京方 全
- 〔八〕 府縣會規則第廿一條ニ據リ議員改選ノ上就職交替手續 全
- 〔九〕 府縣會規則心得條件 全
- 〔十〕 高等中學校設置區域内府縣委員會規則 六百四十八
- 第五十五 區町村會法 全
- 〔一〕 區町村費及土木費怠納者處分 六百五十
- 〔二〕 區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アル者出訴方 全

- 〔三〕 北海道三縣ニ於テ協議費怠納者處分方並右協議費ニ關シ出訴方 六百五十一
- 〔四〕 土地ニ賦課スル區町村費ノ制限 全
- 〔五〕 水利土功及學事ニ關スル町村聯合會ハ區町村會法ニ依リ市町村制施行後モ存續スルヲ得 全
- 〔六〕 區町村公共ノ共有物ハ區町村會ニ於テ評決セシム 六百五十二
- 〔七〕 區町村費支辨ノ事業ニ關スル寄附金穀物件ノ費途使用方及區町村費ノ雜收入區町村會ノ評決ニ付セシム 全
- 第二章 郡區市町村
 - 郡區町村ニ關スル沿革要領 六百五十三
 - 全 全
- 第五十六 郡區町村編制法 全
- 第五十七 市制町村制
 - 〔一〕 市制町村制理由書ヲ頒布ス 六百五十四
 - 〔二〕 市制施行ニ付府縣會議員ノ選舉及市公民ノ資格ニ關スル件 七百二十七
 - 〔三〕 市制施行ニ付府縣會議員ノ選舉及市公民ノ資格ニ關スル件 七百七十

- 〔三〕市制中東京京都大阪ノ三市ニ特例ヲ設ク 七百七十
- 〔四〕町村制ヲ施行セサル島嶼ヲ指定ス 七百七十一
- 〔五〕町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費浦役場費負擔方 七百七十二
- 〔六〕市制町村制中直接税間接税ノ類別 七百七十三
- 〔七〕市制町村制實施ノ際區戸長區書記役場筆生事務取扱方及區町村經費徵收支出方 全
- 〔八〕市制町村制ニ依リ市町村歲入出豫算表式ヲ定ム 七百七十五
- 〔九〕市制施行地ヲ指定ス 七百八十二
- 〔十〕佐賀縣管下佐賀ヲ市制施行地ニ指定ス 七百八十三
- 第五十八 東京市區改正條例 全
- 〔一〕東京市區改正土地建物處分規則 七百八十五
- 浦役場浦役人ニ係ル沿革要領 七百八十七
- 第五十九 浦役場及浦役人 七百八十九
- 第四類

○第一章 地所

●地所名稱沿革要領

第六十 地所名稱區別

- 〔一〕耕地ノ用水溜池等耕作ノ分借地料及地方税ヲ課セス 七百九十二
- 〔二〕市街郡村ニ屬スル揭示場敷地官有地ヘ編入方 全
- 〔三〕御歴代天皇及皇后皇妃皇子御殯斂地等官有地ヘ編入方 全
- 〔四〕鄉村社以下神社地民有地ニ編入方 全
- 〔五〕官營ニ關スル倉庫家屋等地種編入方 全

●伺指令

●官用地々種組替ノ伺指令

●土地臺帳沿革要領

- 第六十一 地券ヲ廢シ土地臺帳記名者ヨリ地租ヲ徵收ス 七百九十三
- 〔一〕土地臺帳規則 七百九十四
- 〔二〕土地臺帳ハ地券臺帳ヲ充テシム 七百九十五
- 〔三〕土地臺帳ハ地券臺帳ヲ充テシム 七百九十六

●土地賣買沿革要領

第六十二 地所永代賣買ヲ許ス

七百九十六
七百九十七

(一) 地所外國人へ賣渡ヲ禁ス

全

(二) 北海道土地拂下規則ヲ定ム

七百九十八
七百九十九

(三) 官用地貸渡方

全

(四) 官有地拂下並貸下取扱方ヲ定ム

全

(五) 官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等拂下貸下ヲ禁ス

全

(六) 地所年季賣買及地所賣買ノ契約ヲ爲シタル者賣主身代限ノ處分ヲ受ケタル節處分方

全

第六十三 公用土地買上規則

八百三
八百六

(一) 公用土地買上規則人民へ布達方

全

(二) 官省ニ於テ土地ヲ要スルトキ取扱方

全

(三) 明治五年以前潰地又ハ用地申付手當作徳米等給與ノ土地買上方

全

●伺指令

●地方税ニテ土地買上ノ伺指令

八百七

●土地買上ノ際約定證書ニ付伺指令

全

○第二章 道路橋梁

全

●道路ニ係ル沿革要領

全

第六十四 國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ヲ定ム

八百八

(一) 鎮守府ニ達スル道路ヲ國道ニ編入ス

全

(二) 道路等級ヲ更定ス

八百九

(三) 道路ノ敷地貸渡ヲ禁ス

八百十

(四) 道路河川變換ニ付民有地ヲ新道新川敷ト爲スレ舊道舊河敷ヲ代地トシ下渡サシム

全

(五) 國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモノ築造保存方法取調上申方

全

(六) 國道表ヲ定ム

八百十五

(七) 堤塘使用料並木賃渡料地方税ニ合セ土木費ニ使用セシム

全

(八) 堤塘使用料下渡方

八百十六

(九) 地方税又ハ區町村費支辨ノ堤塘使用料道路並木布賃渡料並付木拂代金取扱方

全

●伺指令

●並木處分之儀伺指令 八百十六
●並木拂代金支辨ノ伺指令 八百十七

第六十五

私費ヲ以テ水行ヲ疏シ峻路ヲ開キ橋梁ヲ架設スル等運輸ノ便ヲ興シタル者税金取立方ヲ許ス

全

(一) 川々渡船ノ儀一人タリトモ速ニ出船セシム

八百十八

(二) 橋梁渡船賃額揭示及受取方

全

(三) 道路橋梁渡津等ニ於テ警部巡查區内巡行ノ節賃錢請求ヲ禁ス

全

(四) 人民私費架設ノ橋梁渡津又ハ新道軍隊行進ノ節賃錢請求方ヲ禁ス

全

(五) 人民私費架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等憲兵巡行ノ節賃錢請求方ヲ禁ス

全

(六) 人民私費架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫印鑑所持ノ者賃錢請求方ヲ禁ス

全

(七) 人民私設ノ橋梁渡津及道路等郵便電信局集配人ヨリ賃錢請求ヲ止ム

八百十九

●伺指令

●警部巡查及囚人護送ノ看守押丁并囚人渡津橋梁賃錢請求ヲ止ムルノ伺指令 八百二十

●近衛鎮臺充員召集及後備軍召集ニ際シ令狀所持ノ者並該令狀配達ノ脚夫通行ノ節私費橋梁道路渡津等請求差止ノ伺指令 全

○第三章 鐵道

全

●鐵道諸則沿革要領

八百二十一

第六十六 鐵道畧則

全

(一) 鐵道犯罪罰例

八百廿六

(二) 鐵道畧則及鐵道犯罪罰例私設鐵道ニ適用ス

八百廿八

(三) 私設鐵道條例

全

(四) 私設鐵道條例中政府トアル場合指稱方

八百三十六

(五) 私設鐵道條例第三條ニ列記スル線路圖面工事方法書並工費豫算書細則ヲ定ム

全

〔六〕火藥類鐵道運送條規

八百四十

〔七〕幌内鐵道火藥類運送條規ヲ定ム

八百四十一

●同指令

●鐵道線路敷地免租ノ件ニ付同指令

八百四十二



第一卷目次畢

正訂 日本類典第一卷

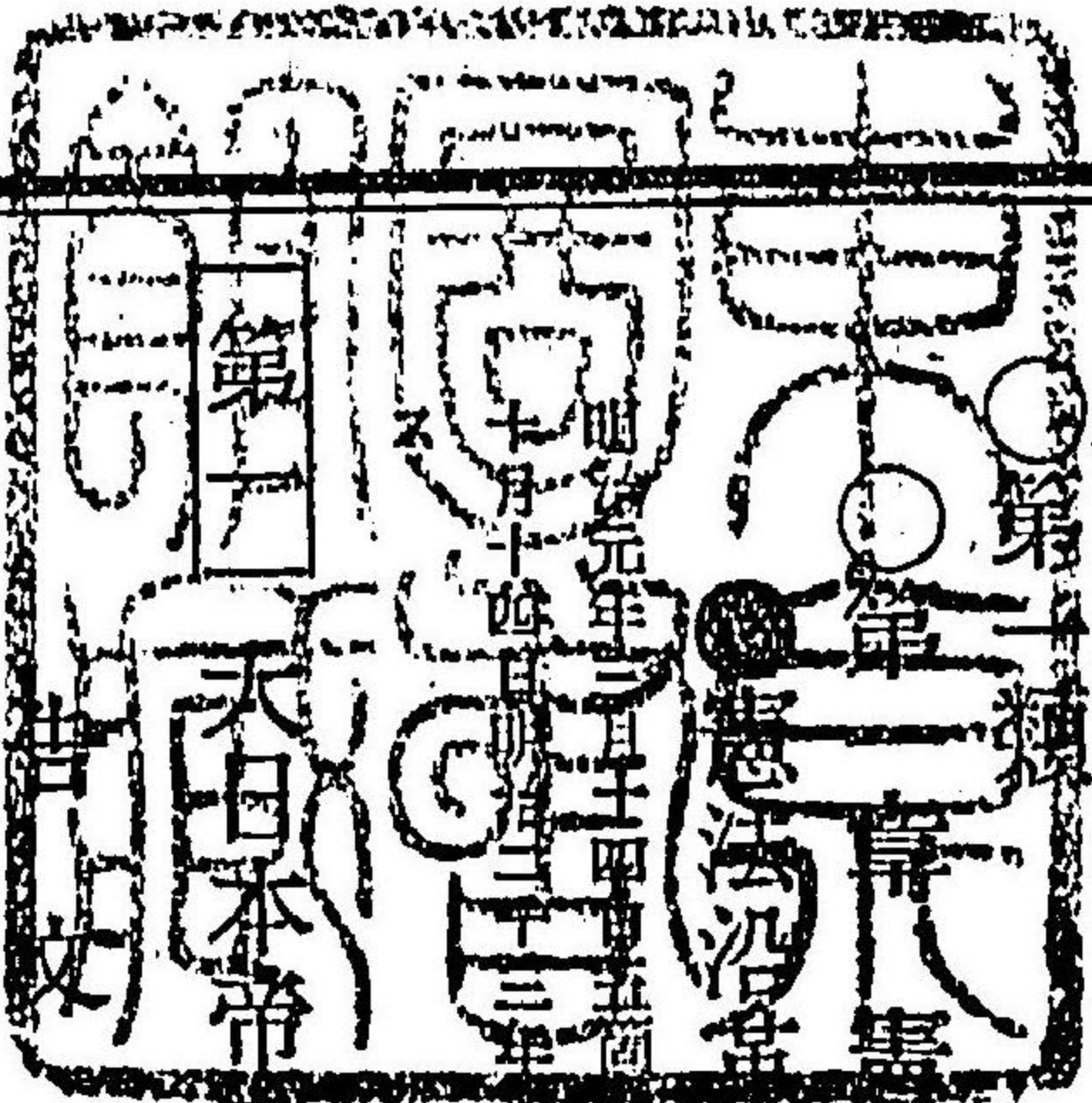
市岡正一編纂



第一類 憲法 年曆

憲法 要領

明治二十二年二月十一日
發布
天日本帝國憲法



皇族レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇族レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ願ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

第一類 第一章 憲法 年曆

W218626/22

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外
ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ不基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶
福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト
俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲサラ
ムコトヲ誓フ庶幾クハ

神靈此レヲ鑒ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現
在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂
レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以
テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子
孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎勵シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ
光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同シクシ此ノ負擔ヲ
分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈
養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿徳良能ヲ發達セシムコトヲ願
ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日
ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル
者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ
憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其
ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシ
ムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼續ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ
朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ
御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵齋藤有禮
- 逓信大臣 伯爵榎本武揚

大日本帝國憲法

第一章 天皇

- 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
- 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
- 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
- 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ
- 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
- 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
- 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス
此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ
- 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス
- 第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ

公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受グルノ權ヲ奪ハルコトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ

及搜索セラレコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サルコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自

由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨ク

ルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セサルモノニ限り軍人ニ

準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組

廿二年法律第
二號ヲ以テ議
院法ヲ頒布ス
第五十ノ一
項

織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得

ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得

但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長

スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及會停ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ會停セララルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日

ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ

爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依

ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲ス

コトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノハ外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ

定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議員ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコ

トナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ

一般ノ法律ニ依リ處分セララルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾

ナクシテ捕逮セララルヘコトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具ソル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルヘコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ

法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ヲ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ

在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合

ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ

充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用非タルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現行ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

〔一〕皇室典範 明治二十二年二月十一日

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ不基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若クハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王妃女王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫アラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之

ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル
 第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其任ヲ讓ルコトナシ
 第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傳

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傳ヲ置キ保育ヲ掌ラシム
 第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傳ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス
 第二十八條 太傳ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス
 第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傳ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章 皇族

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ女王ヲ女王トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ女王王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官寮ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其父母ノ撰舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅撰スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王

女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條 皇族其品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條 皇族蕩產ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任ス

ハシ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼承タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王内親王王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ牴觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

二五箇條ノ御誓文 明治元年二月十四日 布告

御誓文

一廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ
 一上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ
 一官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦サラシメンコトヲ要ス
 一舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
 一知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ
 我國未曾有ノ變革ヲ爲サントシ朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ
 萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

戊辰三月 御諱

勅意宏遠誠ニ以感銘ニ不堪今日ノ急務永世ノ基礎此他ニ出ヘカラス臣等謹テ敬旨ヲ奉體
 シ死ヲ誓ヒ罷勉從事驚クハ以テ宸襟ヲ安シ奉ラン

總 裁
 公 卿
 諸 侯

〔三〕立憲政體ヲ立ル詔勅 明治八年四月十四日
 布告第五十八號

別紙詔書之通被仰出候條此旨布告候事

(別紙)

朕即位ノ初首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸

ニ祖宗ノ靈ト群臣ノカトニ頼リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ願ニ中興日淺ク内治ノ事當ニ振
 作更張スヘキ者少シトセス朕今誓文ノ意ヲ擴充シ茲ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ
 大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ圖リ漸次ニ
 國家立憲ノ政體ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ其慶ニ頼ント欲ス汝衆庶或ハ舊ニ泥ミ故ニ慣ル、コ
 ト莫ク又或ハ進ムニ輕ク爲スニ急ナルコト莫ク其レ能朕カ旨ヲ體シテ翼贊スル所アレ

明治八年四月十四日

●年曆沿革要領

明治元年九月八日布告ヲ以テ年號ヲ改メ自今一聖一元ト爲ス○明治三年二月十日天文曆道ヲ大學ノ管轄ト爲ス○同
 年四月廿二日布告ヲ以テ頒曆授時ノ儀ハ至重ノ典章ニ候間自今弘曆者ノ外取扱ノ儀嚴禁仰出サル○四年七月十八日
 布告ヲ以テ大學ヲ廢シ文部省ヲ置ク○同年八月七日達ヲ以テ文部省職制ヲ定ム○五年十一月第三百六十一號布告ヲ
 以テ來明治六年ニ限リ各地方ニ於テ略曆版刻販賣ヲ許シ太陽曆ヲ標準トシ不替ノ說ヲ加フルヲ禁シ且管轄ノ許可ヲ
 受ケシム○同月第三百六十二號ヲ以テ第三百六十一號布告ニ據リ略曆出版出願ノ者アルト太陽曆ニ照シ檢査ノ上許
 可セシムヘキ旨ヲ府縣ヘ達ス○六年一月第二十號ヲ以テ五年第三百六十一號第三百六十二號布告ノ略曆トハ柱曆ノ
 類ニシテ一枚摺ノ品ニ有之旨ヲ府縣ヘ達ス○九年二月廿四日達ヲ以テ文部省管理編曆ノ事務ヲ内務省ニ屬ス○同年
 十月内務省甲第三十九號布達ヲ以テ來明治十年曆ヨリ本略曆共印紙ヲ貼用セシメ略曆出版ノ儀ハ府縣廳ヲ經テ内務
 省ヘ出願許可ヲ受ケシメ無印紙ノ曆ハ賣買ヲ禁ス○十五年四月第八號布達ヲ以テ九年内務省甲第三十九號布達ヲ廢
 シ本曆並略本曆ハ十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシメ一枚摺略曆ハ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スル
 ヲ得セシム○十九年七月勅令第五十一號ヲ以テ本初子午線經度計算方及標準時ヲ定ム○二十一年十二月勅令第八十

一號ヲ以テ天象觀測及曆書編製ヲ文部大臣ニ管轄セシム

〔第二〕年號改元ノ詔勅 明治元年九月八日

今般御即位御大禮被爲濟先例之通被爲改年號候就而ハ是迄吉凶之象兆ニ隨ヒ屢改號有之候得共自今御一代一號ニ被定候依之改慶應四年可爲明治元年旨被仰出候事

詔書
詔體太乙而登位膺景命以改元洵聖代之典型而萬世之標準也朕雖否德幸賴祖宗之靈祇承鴻緒躬親萬機之政乃改元欲與海內億兆更始一新其改慶應四年爲明治元年自今以後革易舊制一世一元以爲永式主者施行

戊辰九月八日

〔第三〕改曆ノ詔書 明治五年十一月九日

今般改曆之儀別紙詔書ノ通被仰出候條此旨相達候事

(別紙詔書)

朕惟フニ我邦通行ノ曆タル太陰ノ朔望ヲ以テ月ヲ立テ太陽ノ躡度ニ合ス故ニ二三年間必ス閏月ヲ置カサルヲ得ス置閏ノ前後時ニ季候ノ早晚アリ終ニ推歩ノ差ヲ生スルニ至ル殊ニ中下段ニ掲ル所ノ如キハ率ニ安誕無稽ニ屬シ人知ノ開達ヲ妨ルモノ少シトセス蓋シ太陽曆ハ太陽ノ躡度ニ從テ月ヲ立ツ日子多少ノ異アリト雖モ季候早晚ノ變ナク四歲毎ニ一日ノ閏ヲ

置キ七千年ノ後僅ニ一日ノ差ヲ生スルニ過キス之ヲ太陰曆ニ比スレハ最モ精密ニシテ其便不便モ固リ論ヲ俟サルナリ依テ自今舊曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用ヒ天下永世之ヲ遵行セシメン百官有司其レ斯旨ヲ體セヨ

一今般太陰曆ヲ廢シ太陽曆御頒行相成候ニ付來ル十二月三日ヲ以テ明治六年一月一日ト被定候事

但新曆鏤板出來次第頒布候事

一 一ヶ年三百六十五日十二ヶ月ニ分チ四年毎ニ一日ノ閏ヲ置候事

一 時刻ノ儀是迄晝夜長短ニ隨ヒ十二時ニ相分チ候處今後改テ時辰儀時刻晝夜平分二十四時ニ定メ子刻ヨリ午刻迄ヲ十二時ニ分チ午前幾時ト稱シ午刻ヨリ子刻迄ヲ十二時ニ分チ午

後幾時ト稱候事

一 時鐘ノ儀來ル一月一日ヨリ右時刻ニ可改事

但是迄時辰儀時刻ヲ何字ト唱來候處以後何時ト可稱事

一 諸祭典等舊曆月日ヲ新曆月日ニ相當シ施行可致事

(新舊曆日比較及時刻表ハ畧之)

〔一〕本初子午線經度計算方及標準時ヲ定ム 明治十九年七月十三日公布 勅令第五十一號

朕本初子午線經度計算方及標準時ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御 璽

明治十九年七月十二日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
 内務大臣伯爵山縣有朋
 陸軍大臣伯爵大山 巖
 海軍大臣伯爵西郷從道
 文部大臣 森 有禮
 農商務大臣伯爵西郷從道
 遞信大臣 榎本武揚

勅令第五十一號

一英國グリニッチ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度ノ本初子午線トス

一經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ西經ヲ負トス

一明治二十一年一月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ本邦一般ノ標準時ト定ム

〔二〕天象觀測及曆書調製ヲ文部大臣ニ管理セシム 明治廿一年十二月六日公布勅令第八十一號

朕天象觀測及曆書調製ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年二月十五日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第八十一號

天象觀測及曆書調製ハ自今文部大臣ヲシテ之ヲ管理セシム

〔三〕頒曆及曆書出版 明治十五年四月廿六日大政官布達第八號

本曆并略本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシムヘシ

一枚摺略曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得

但明治九年十月内務省甲第三拾九號布達ハ取消ス

右布達候事

二十年勅令第七十六號ヲ以て出版條例ヲ改正ス

第二章 公文式 官報

●公文式沿革要領

明治元年三月定三札野三札ヲ頒テ諸國ノ高札是迄揭示ノ分ヲ除キ改メテ揭示セシム且定三札ハ永年揭示シ覺札ハ時々ノ御布令ニ付進テ取除キ尚御布令有之節ハ覺札ヲ以テ揭示スヘキ旨布告アリ○四年十月四日布告ヲ以テ戊辰三月中揭示高札ノ内第五札ヲ取除カシム○五年正月八日自今布告ノ順次ヲ以テ本文ノ肩ニ番號ヲ朱書シ禁出スニ付各省ニ於テモ同様取計フヘキ旨ヲ諸省ヘ達ス○六年二月第六十八號布告ヲ以テ從來ノ高札面ハ一般熟知ノ事ニ付取除カシメ自今諸布告御條令毎ニ人民熟知ノ爲メ便宜ノ地ニ揭示セシム○同年五月四日全國ニ布令スル制度條例及ヒ勅旨特別ノ事件ハ自今太政大臣ノ名ヲ以テ發付ノ旨ヲ府縣ヘ達ス○同年六月第二四號達ヲ以テ本年第六十八號布告ニ付テハ卷冊ノモノト雖モ盡ク揭示セシム○同月第二十三號達ヲ以テ諸布告類各府縣ヘ到達日數ヲ定ム○同年七月第二十六十四號達ヲ以テ布告達管ノ結文例ヲ定メ府縣ニ於テ管内ヘ揭示スヘキモノト否トヲ區別ス○同年八月二十八日各省使ヨリ布達スル類結文區別方及布告ノ文字ヲ布達ニ換フヘキ旨ヲ各省使ヘ達ス○同年九月第二百八十四號

達ヲ以テ各府縣ヨリ管下へ布達ノ文書等ハ長官ノ名ヲ用ヒシム○同年十一月第三百九十三號ヲ以テ諸布告達等印刷
 發行ノ分承ク遵守スヘキモノハ輪廓ヲ付シ一時心得ヘキモノハ輪廓ヲ付セサル旨ヲ達ス○同年十二月第四百三十
 二號ヲ以テ七年一月ヨリ布告達等ヲ區別シ各自ニ番號ヲ付スル旨ヲ達ス○七年四月第四十八號ヲ以テ六年第六十八
 號第二百四號第二百十三號達ヲ取消シ自今布告布達共到達翌日ヨリ管内簡示マテ附寫等ノ日數ヲ二十日ト定メ其
 翌日ヨリ三十日ヲ經過セハ一般人民知リ得タルト見做スヘキ旨ヲ達ス○八年二月第十七號達ヲ以テ諸布達ハ事理
 辨知シ易キヲ旨トシ可成丈平易ノ文字ヲ用ヒシム○九年三月廿八號ヲ以テ布告布達ノ内規則條例等別ニ冊子表附
 ヲナシタルモノハ其表紙又ハ紙端ニ何年月何號布告達布達制定改正何々等ト標記スヘキ旨ヲ達ス○十四年
 十一月第九十四號達ヲ以テ各省卿ハ主管ノ事務ニ付法律規則ヲ制定シ又ハ之ヲ廢止改正スルヲ要スルヲアルルハ案
 ヲ其ヘテ上奏シ裁ヲ請フヘク凡ソ法律規則布達ノ其主管ノ事務ニ屬スルモノハ各省卿之ニ副書シ執行ノ責ニ任セシ
 ム○同年十二月第一號達ヲ以テ諸省事務章程規則相違候ニ付テハ法律規則ハ布告ヲ以テ發行シ從前諸省限リ布達
 セル條規ハ自今大政官ヨリ布達ヲ以テ發行ス大政官諸省ヨリ一時公布スルニ止ル者ハ皆ホリ以テ發布シ諸省卿ヨリ
 府縣長官へ達ノ儀ハ從前ノ如ク行フ達ス○十五年二月第九號布告ヲ以テ函館札幌樺太ノ三縣ヲ置カレタル處從前
 北海道ニ施行セサル法律規則ハ仍ホ從前ノ如クトス○十六年五月第十七號布告ヲ以テ布告布達施行期限ヲ制定ス○同
 月第十四號布達ヲ以テ布告布達到達日數ヲ定ム○同月廿三號達ヲ以テ官省院廳ノ達並ニ告示ハ官報ニ登載スルヲ
 以テ公布式トス○同年八月第三十號達ヲ以テ六年第三百九十三號達ヲ廢止ス○十八年五月第十九號達ヲ以テ十六年
 第二十二號達第四條ニ但書ヲ追加ス○同年十二月第二十三號布達ヲ以テ布告布達ハ自今官報ニ登載スルヲ以テ公布
 トス○十九年二月勅令第一號ヲ以テ公布式ヲ頒ツ○二十一年十二月勅令第二十二號ヲ以テ奈良縣香川縣官報到達日
 數ヲ定ム

第四 公文式 明治十九年二月二十六日公布
 勅令第一號

朕法律命令ノ格式ヲ制定スルノ必要ヲ認メ茲ニ公文式ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年二月二十四日

内閣總理大臣 伯耆伊藤博文

勅令第一號

公文式

第一 法律命令

- 第一條 法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス
- 法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル
- 第二條 法律勅令ハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ總テ内閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ
- 第三條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ニ副署シ年月日ヲ記入ス其各省主任ノ事務ニ屬スルモノハ内閣總理大臣及主任大臣之ニ副署ス
- 第四條 内閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得
- 第五條 閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス
- 第六條 閣令ハ年月日ヲ記入シ内閣總理大臣之ニ署名ス
- 第七條 省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス
- 第八條 各官廳一般ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定メ各廳處務細則ハ其主任大臣之ヲ

定ム

第九條 内閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ屬スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六條第七條ノ例ニ依ル

第二 布告

第十條 凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ル

第十一條 天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第十二條 北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

島地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラス

第三 印璽

第十四條 國璽御璽ハ内大臣之ヲ尙藏ス

國璽御璽ハ親署ノ後内大臣之ヲ鈐ス

第十五條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐ス

第十六條 國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上勳章ノ勳記ハ

親署ノ後國璽ヲ鈐ス

四等以下勳章ノ勳記ハ國璽ヲ鈐ス

第十七條 勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈐シ奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス

〔一〕北海道ニ施行セサル法律規則ハ從前之通 明治十五年二月九日 第九號布告
今般北海道廳〔函館札幌根室ノ三縣〕ヲ被置候處法律規則ノ從前北海道ニ施行セサルモノハ當分ノ内仍ホ從前ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事

〔二〕布告布達到達日數 明治十六年五月二十六日 大政官布達第十四號

今般第拾七號ヲ以テ布告布達施行期限ヲ改定シタルニ付到達日數左ノ通之ヲ定ム

到達日數

京都府	四日	大坂府	四日
神奈川縣	即日	兵庫縣	四日
長崎縣	十一日	新潟縣	五日
埼玉縣	即日	群馬縣	即日
千葉縣	即日	茨城縣	二日
栃木縣	二日	三重縣	四日
愛知縣	三日	靜岡縣	二日
山梨縣	二日	滋賀縣	四日
岐阜縣	四日	長野縣	四日

十四年第七十
九號達ヲ以テ
郵便線路里程
表ヲ更正ス

宮城縣	五日	福島縣	四日
岩手縣	七日	青森縣	十日
山形縣	五日	秋田縣	八日
福井縣	八日	石川縣	七日
富山縣	六日	鳥取縣	七日
島根縣	八日	岡山縣	六日
廣島縣	七日	山口縣	八日
和歌山縣	六日	徳島縣	六日
愛媛縣	九日	高知縣	八日
福岡縣	九日	大分縣	十一日
佐賀縣	十一日	熊本縣	十一日
宮崎縣	十一日	鹿児島縣	十二日

〔但富山佐賀宮崎ノ三縣ハ開港ノ日マテ舊管廳ノ到達日數ニ依ル〕

右布達候事

〔三〕奈良縣香川縣官報到達日數 明治二十一年十二月二十二日
 官報到達日數奈良縣ハ大坂府ニ香川縣ハ愛媛縣ニ同シ

●官報沿革要領

明治十六年五月第十四號布達ヲ以テ布告布達各府縣到達日數ヲ定ム○同月第二十二號ヲ以テ太政官ニ於テ官報發行

ノ旨ヲ達ス○同月第二十三號達ヲ以テ官省院廳ノ達並ニ告示ハ官報ニ登載スルヲ以テ公布式トス○十八年五月第九號達ヲ以テ十六年第二十二號達第四條ニ但書ヲ追加ス○同年十二月第二十三號布達ヲ以テ布告布達ハ自今官報ニ登載スルヲ以テ公布式トシ別ニ配布セス○同月内閣達第七十七號ヲ以テ官報定價ノ項ニ但書ヲ追加ス○同月内閣達第八十號ヲ以テ十六年第二十二號達中ヲ加除ス○十九年二月勅令第一號ヲ以テ公文式ヲ定ム○同年六月閣令第十七號ヲ以テ十六年第二十二號達中ヲ改ム○二十一年十二月閣令第二十二號ヲ以テ奈良縣香川縣官報到達日數ヲ定ム○同月二十七日官報定價ヲ改ムル旨内閣ヨリ各官廳ニ訓令ス

〔第五〕官報發行 明治十六年五月十日 太政官達第二十二號官省院廳府縣

今般太政官ニ於テ官報ヲ發行候ニ付左ノ條件相達候但シ發行ノ期日ハ追テ可相達事

第一條 太政官中ニ〔文書局〕ヲ置キ官報編輯ノ事ヲ管掌セシム 十八年十二月第七十六號内閣達ヲ以テ文書局ヲ廢シ更ニ官報局ヲ置ク

第二條 官報ハ別紙ニ記シタル事項ヲ掲載スヘキニ付各官廳ニ於テ主任ヲ定メ官報ニ掲載スヘキ書類ヲ取纏メ〔文書局〕ニ當テ送付スヘシ 同上

第三條 各般ノ事項一時ニ掲載スルコト能ハサルトキハ其緩急ヲ量リ順次ニ掲載シ其大部ニ渉ル者ハ數日ニ分載スル等都テ〔文書局長〕ノ意見ニ任ス 同上達ヲ以テ官報局長ヲ置ク

第四條 官報ハ別記定價ヲ以テ官報局ニ於テ發賣セシムルニ付直チニ同局ニ就テ購求スヘシ 十九年六月閣令第十七號ヲ以テ驛遞局ヲ官報局ト改ム

但官報購讀義務者ハ其代價ヲ本官廳ニ前納シ本官廳ハ之ヲ官報局ニ送付スヘシ 十八年政官達第十九號ヲ以テ但書ヲ追加シ十九年六月閣令第十七號ヲ以テ驛遞局ヲ官報局ト改ム

十六年太政官第十四號布達
 廿一年閣令第二十二號ヲ以テ布告布達及官報各府縣ニ到達日數ヲ定ム

同年太政官第二十七號達ヲ以テ本年七月一日ヨリ發行ノ旨ヲ達ス

第五條 各官廳ノ廣告ハ官報ヲ以テスヘシ但シ東京ヲ除キ其他ノ地方ハ本條ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第六條 官廳ノ廣告其官報ヲ以テスルノ外同時他ノ新聞紙ニ掲載スルハ各官廳ノ便宜ニ任ズ但シ其官報ヲ以テスル者ハ廣告料ヲ要セス

第七條 左ニ掲クル者ハ官報ヲ購讀スヘキ義務ヲ有スルモノトス但シ各官廳ハ其定額ヲ以テ購求スヘシ

第一

省院廳府縣裁判所警察署郡役所十八年十二月第八十號内閣達ヲ以テ郡區役所ノ四字ヲ追加ス

參謀本部監軍本部近衛局鎮臺營所鎮守府憲兵本部及屯署

官立學校

第二

上長官以上ノ武官奏任以上ノ文官同上達ヲ以テ文官ノ下ハ及郡區長ノ四字ヲ刪ル

官報

一 詔勅

二 賞勳

三 叙任

四 官令

布告

布達

五 達 公示ヲ妨ケサル官省院廳及東京府ノ達

六 公示 官省院廳及東京府ノ告示

七 官廳廣告

八 雜件

行幸行啓觀謁

參事院回答并審理

諸官廳伺指令

軍艦出入

官吏轉職出入等

雜事

九 外報

公使領事報告

外國新聞抄譯

十 說明正誤

十一 學藝教育ニ關スル事項

- 十二 農工商業及山林ニ關スル事項
- 十三 統計報告
- 十四 氣象報告
- 十五 汽船出入
- 十六 廣告

官報定價

一(官報定價) 配送郵送 金三錢

〔但一箇月分定價金七拾五錢 十八年十二月内閣第七拾七號達ヲ以テ但書ヲ追加ス〕

(二) 官報ニ記載スヘキ事項ハ官報局長ノ斟酌ニ任ス 明治十六年六月廿九日 太政官達第二十九號官報院廳府縣

本年五月第二十二號達中官報ニ記載スヘキ事項ハ其概目ヲ示スモノニ付實際施行ニ臨ミ其概次節目ハ總テ〔文書局長〕ノ斟酌ニ任ス此旨相達候事 十八年十二月第七十六號内閣達ヲ以テ文書局長ヲ廢シ官報局長ヲ置ク

(三) 銀行會社等ノ報告類官報ニ掲載ヲ許ス 明治十八年八月二十六日 太政官布達第十八號

銀行會社等ノ報告類ニシテ法律規則若クハ其定款ニ因リ廣告ヲ要スルモノハ自今官報ニ掲載ヲ請フコトヲ得但其取扱手續ハ官報局長ヨリ公告スヘシ 十九年六月閣令第十八號ヲ以テ隱微總監ヲ官報局長ト改ム

(三) 官報定價ヲ定ム 明治二十一年十二月二十七日 内閣訓令各官廳

明治十六年五月太政官第二十二號達官報定價ハ明治二十二年一月ヨリ一箇月金五十錢一部金貳錢ト改ム

第三章 建白 請願

建白沿革要領

明治元年二月十七日外國交際ヲ始メ萬機悉ク御親裁ニ因リ既往將來ヲ不論忌憚ナク詳論極諫セシムヘキ旨三職諭達ス○同年五月以來書ヲ目安箱ニ投シ建言スルモノハ姓名ヲ記セシム○同年十月御沙汰今般御東幸御署置ニ付御爲筋存付候者ハ不憚忌諱正議直諫セシム○二年二月八日布告ヲ以テ建言スル者ハ書ヲ公議所ニ出サシム○同年三月十三日布告待詔局ヲ建設セラレ草莽有志ノ者ヲシテ建白セシム○同年四月廿五日布告ヲ以テ國家ノ爲メ存付候單ハ昇殿ヲ不願待詔局へ出頭無忌憚建白セシム○同年七月八日待詔局ヲ廢シ待詔院ヲ置ク○同月廿七日布告ヲ以テ目安箱へ書ヲ投スル者ハ居所姓名ヲ記シ捺印セシム○同年八月十五日待詔院ヲ集議院ニ合併ス○同月二十日布告建言ノ單ハ自今集議院へ申出シム○六年六月第九十九號布告ヲ以テ府縣設置ノ目安箱ヲ廢シ上書建白ハ集議院並各地方廳へ差出サシム○同月第二百二十八號布告ヲ以テ集議院ヲ廢シ從前ノ事務ハ左院ニ於テ取扱ハシム○八年四月第五十九號布告ヲ以テ左院ヲ廢ス○同月第六十號布告ヲ以テ諸建白類當分ノ内正院分局へ差出サシム○同月第六十八號ヲ以テ諸建白類自今元老院へ差出スヘキ旨ヲ布告ス○同年十一月第七十八號布告ヲ以テ立法ニ關スル建白ハ元老院へ差出シ其他ハ主任ノ廳へ差出サシム○九年第二號達ヲ以テ建白書元老院へ差出方心得ヲ定ム○十三年十二月第五十三號布告ヲ以テ凡ソ人民ノ上書ノ公益ニ關スルモノハ何等ノ名目ニ拘ハラズ渾テ建白トナシ元老院ニ於テ取扱フ旨ヲ布告ス○二十年九月内務省令第二號ヲ以テ建白ヲ名トシ官吏ニ面謁ヲ求メ抗論喧擾ニ涉ル者處分方ヲ令ス

第六 建白書差出方 明治八年十一月二十五日 布告第七十八號

諸建白書元老院へ可差出旨本年四月第六十八號ヲ以布告候處自今立法ニ關スルモノハ元老院へ其他ハ主任ノ廳へ可差出尤訴訟ニ涉ル事件ニ於テハ成規ノ手續ヲ示シ本人へ可下戻候條此旨布告候事

但東京ノ外各地方ノ人民ハ管轄廳へ差出該廳ヨリ本文同様主任ノ廳へ轉送可致候事
明治十三年十二月九日

〔一〕公益ニ關スル上書ハ建白ト爲シ元老院ニ於テ取扱フ
布告第五
月九日

十三號

凡ソ人民ノ上書一般ノ公益ニ關スルモノハ何等ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラヌ渾テ建白ト爲シ元老院ニ於テ取扱ヒ候條管轄廳ヲ經由シテ同院ニ差出スヘシ此旨布告候事

明治九年一月十五日
太政官達御武藏使府縣(東京府ヲ除ク)

〔二〕建白書差出方心得
立法ニ關スル建白書元老院へ差出方心得別紙ノ通候條此旨爲心得相違候事

別紙

建白書差出方心得

第一條 凡建白書ハ立法ニ關スル事項ニ非サレハ元老院ニ於テ受附セサルヲ以テ若シ誤テ他事ヲ言フ者ハ之ヲ廢棄ス可シ

第二條 凡建白書ハ其本質身分姓名年齢職業住所ヲ誌シ其姓名ノ下ニ實印ヲ捺シ或ハ花押ヲ手書シ且表紙ニ其書ノ大意ヲ記シ必ス正副二本ヲ出ス可シ

第三條 凡建白書ハ普通ノ文ヲ用フ可シ外國ノ文ヲ用フ可カラズ若シ外國ノ語ヲ用ヒサルヲ得サルトキハ其譯附ス可シ

第四條 凡建白書ハ國ノ爲メ意見ヲ上陳スルモノニシテ固ヨリ乞願書ノ類ニ非サレハ其取捨ハ別ニ本人ニ告ケス

〔三〕建白ヲ名トシ官吏ニ面謁ヲ求メ抗論喧擾ニ涉ル者處分方
明治二十年九月二十九日
內務省令第二號

凡ソ意見ヲ建言シ又ハ各自ノ利害ニ關シ請願スル者ハ明治十三年第五十三號布告及十五年第五十八號布告ニ依テ違スヘキ處近來健言ヲ名トシ官吏ニ面謁口陳ヲ求メ從テ抗論喧擾ニ涉ル者アリ右等ハ何等ノ名義ヲ用ユルニ拘ラス其違犯者

十五年第五十八號布告ハ第七三掲出ス

ハ總テ十五年第五十八號布告ニ依リ處分スヘシ

●請願沿革要領

明治五年九月第二百八十四號布告ヲ以テ人民ヨリ官廳へ差出ス書面ハ長官ノ名宛ヲ用ヒシム○六年五月第五百五十九號布告ヲ以テ人民諸願伺及管轄ヨリノ指令等可成丈郵便ヲ以テ遞付セシム○同年十二月第四百四號布告ヲ以テ各地寄留人營業ニ屬スル諸願伺等差出方ヲ定ム○八年四月第五十號ヲ以テ各地方寄留者諸願伺屆等寄留地管轄へ可差出旨ヲ布告ス○同月第五十五號ヲ以テ寄留者諸願伺屆等寄留地管轄ニ於テ取扱方ヲ定ム○十五年三月內務省令第二十號達ヲ以テ寄留人ノ諸願伺屆等郡區長戸長ニ於テ取扱方ヲ定ム○同年十二月第五十八號布告ヲ以テ請願規則ヲ制定ス○二十年九月內務省令第二號以テ健言ヲ名トシ官吏ニ面謁口陳ヲ求メ抗論喧擾ニ涉ル者ハ十五年第五十八號布告ニ依リ處分ス

第七 請願規則
明治十五年十二月十二日
布告第五十八號

請願規則左ノ通制定ス

請願規則

第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルヘシ
第二條 郡區長及戸長職務内ノ事件ハ郡區長戸長ニ請願スヘシ郡區長戸長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルヲ得
府知事縣令警視總監職務内ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警視總監

監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルヲ得

各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

第三條 凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス官署ノ求メニ應シテ開陳スルハ此限ニ在ラス

第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請願スル者ヲ除ク外住所戸長ノ奥印ヲ受クヘシ其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ奥印ヲ受クルハ前ノ例ニ同シ

第五條 府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス但成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニ在ラス

第六條 請願書ヲ上呈スルニハ代人ヲ以テスルコトヲ許サス數人連名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ヒ之ニ委託スヘシ

第七條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

第八條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添フヘシ

第九條 請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セシムヘシ

第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第十二條 請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス

第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス

第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條第八條第十一條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス

第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス

第十七條 條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請フ者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外教唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス

其嘯聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十八條 請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十九條 請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サス犯ス者ハ罪前條第一項

ニ同シ

第二十條 請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス

右奉 勅旨布告候事

〔一〕寄留者諸願伺届等寄留地ノ管廳へ差出方 明治八年四月九日 布告第五十號

各地方寄留ノ者諸願伺届等自今其寄留地ノ管廳へ可差出此旨布告候事

但事柄ニ依リ本管廳へ差出候儀ハ其便宜ニ任スヘキ事

〔二〕寄留者諸願伺届等處分濟本管廳へ通達方 明治八年四月九日 大政官達第五拾五號使府縣

各地方寄留ノ者諸願伺届等自今其寄留地ノ管廳ニ於テ取扱處分濟ノ上本管廳へ通達可致此旨相達候事

但本管ノ地所ニ依リ或ハ家祿奉還等ノ如キ實地取調ノ上ニ無之テハ難及處分事件ハ本管廳へ協議ノ上便宜ノ處ニ於

テ取扱申

〔三〕寄留人願伺届等郡區長(戶長)ニ於テ取扱方 明治十五年三月二十八日 內務省達第七第貳拾貳號府縣

寄留人願伺届取扱方ノ義ニ付明治八年第五十五號公達ノ旨モ有之候處郡區編制地方職制更定相成候ニ付テハ該願伺届

ノ內郡區長又ハ戶長ノ取扱ニ關スルモノハ該公達ニ準シ郡區長又ハ戶長處分ノ上其旨本管郡區長又ハ戶長ニ通報可及

義下心得ヘシ此旨相達候事

● 伺指令

● 請願規則第四條ノ伺 明治十六年六月十九日 大藏省伺

請願規則第四條ニ其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印云々トアリ付テハ社寺ノ財産ノ其相物ニ關シ請願者
アルトキハ其神官住職並共有者各自連署捺印ヲ要スヘキ筋ニ候ヘ共從來社寺財産ノ義ハ他會社等ノ共有物ト其性質
ヲ異ニスルモノニ付實際本條ニ據ル能ハサルヲ以テ明治十四年內務省乙第三十三號達ノ手續ニ依リ請願候者有之ト
キハ受理致シ可然哉此段相伺候也

大政官指令 明治十六年七月二日
伺之通

○ 第四章 官制

● 內閣官制沿革要領

慶應三年十二月十四日布告德川內府大政返上ヲ被開食攝關等ノ職ヲ廢シ總裁議定參與ノ三職ヲ置キ萬機ヲ行フ○明
治元年正月十三日九條道孝ノ邸ヲ以テ大政官代ト爲ス○同月二十七日大政官代ヲ二條城ニ移ス○同年二月五日布告
三職八局徵士貢士ノ制ヲ定ム○同年閏四月廿七日布告本月廿一日官制ヲ改定シ大政官ヲ分テ七官ト爲シ立法行政司
法ノ三權ヲ分掌ス○同年十月東京御藩後萬機御親裁ノ旨ヲ布告ス○二年正月十八日布告議行兩官規則ヲ定ム○同
年七月官制位階ヲ改定シ行政官ヲ以テ大政官ト爲ス○同年八月大政官規則ヲ定ム○同月二十日布告ヲ以テ官位相當
ヲ更定ス○同年十二月布告ヲ以テ大政官規則ヲ更定ス○三年十一月大政官中舍人雅樂兩局ヲ置キ職制ヲ定メ又給仕
ヲ廢シテ小舍人ヲ置ク○同年十一月廿八日布告シテ大舍人以下ノ官位相當ヲ改メ雅樂局ニ中舍人ヲ置キ伶生ヲ廢ス
○同年十二月二日布告ヲ以テ舍人雅樂局ニ撤助ヲ置ク○四年七月十四日辨官ヲ廢ス○同月廿九日布告左右大臣大納
言等ヲ廢シ正院左院右院ヲ置キ大政官ノ職制並三院ノ章程ヲ定メ式部雅樂舍人ノ三局ヲ正院ニ置ク○同年八月十日

布告ヲ以テ官制ヲ改定シ大政官ヲ本官トシ諸省ヲ分官トシ式部兼樂舍人三局ヲ廢シ式部寮ヲ置キ舍人及雅樂ノ事務ヲ管掌セシム○同年廿二日伶官ノ職制等級ヲ定ム○五年正月第十六號布告ヲ以テ官等ヲ改定シ此月大政官中ニ博覽會事務局ヲ設ク○同年二月第五十九號布告ヲ以テ式部寮中ニ大舍人番長ヲ置ク○同年十月廿七日博覽會事務局中正副總裁事務官書記官ヲ置ク○六年十二月廿七日達内閣閣訓ヲ置ク○七年四月四日達正院ニ臺灣蕃地事務局ヲ置ク○八年一月四日達ヲ以テ該事務局ヲ廢ス○八年三月第四十三號達ヲ以テ博覽會事務局ヲ博物館ト改稱シ内務省ニ屬ス○同年四月第四十八號布告ヲ以テ式部寮中伶官ノ官等ヲ改定ス○同月第五十九號布告ヲ以テ左右院ヲ廢シ式部寮ヲ宮内省ヘ附ス○同月第五十七號達ヲ以テ正院中歴史課ヲ修史局ト改ム○同年七月三日達ヲ以テ法制課ヲ廢シ法制局ヲ置ク○同年八月第三十七號達ヲ以テ地方官會議事務局ヲ置キ又第四百十號達ヲ以テ儀則課ヲ置ク○同年九月第百四十二號布告ヲ以テ内外史ヲ廢シ更ニ正權大少史ヲ置ク○同月第五百五十六號達ヲ以テ印書局ヲ大藏省ニ屬ス○同月第六十七號達ヲ以テ内務省地理寮中地誌課ヲ正院ニ附シ修史局ニ合ス○同月第六十八號達ヲ以テ正院中法制局職員ヲ置キ等級ヲ定ム○同月第七十號達ヲ以テ正院諸課諸局ヲ廢ス○同年十月第五百五十一號布告ヲ以テ正權大舍人ヲ廢シ更ニ大舍人ヲ置ク○同年十二月第八十二號布告ヲ以テ宮内省中式部寮ヲ正院ニ屬ス○九年六月第六十二號達ヲ以テ法制局ニ主事ヲ置ク○同年十月第九十六號達ヲ以テ正院中ニ賞勳事務局ヲ置キ職員官等ヲ定ム○同年十二月第九十九號達ヲ以テ賞勳事務局ヲ賞勳局ト改稱ス○十年一月第十號達ヲ以テ正院ノ稱ヲ廢シ大政官中調查局ヲ置キ修史局ヲ廢ス○同月第十五號達ヲ以テ修史館ヲ置キ大政官ニ屬シ職員等級ヲ定ム○同年二月二十二號達ヲ以テ大政官調查局ニ長官ヲ置ク○同年九月第六十四號達ヲ以テ式部寮ヲ宮内省ニ屬ス○同年十月第七十八號達ヲ以テ修史館中監事ヲ置キ等級ヲ定ム○同年十二月第九十二號達ヲ以テ同館中地誌編輯事務局ヲ廢ス○十一年三月第八號達ヲ以テ賞勳局長官ヲ廢シ更ニ總裁副總裁ヲ置キ又法制局中ニ長官ヲ置ク○十二年三月第十四號達ヲ以テ大政官中内閣書記官長以下ヲ置キ官等ヲ定ム○十三年三月第十七號達ヲ以テ法制調查常局ヲ廢シ法制會計軍事内務司法外務ノ六部ヲ置ク○同月第十八號達ヲ以テ大政官中ニ會計検査院ヲ設置シ大藏省検査局ヲ廢ス○同月第十九號達ヲ以

テ會計検査院中院長以下ノ職員ヲ置ク○同月第二十號達ヲ以テ法制部以下六部ノ非常事務局ヲ定ム○十四年二月第六號達ヲ以テ大政官中審理局ヲ置キ事務手續ヲ定ム○同月第八號達ヲ以テ修史館中一等掌理以下ノ月俸ヲ定ム○同年四月第三十號達ヲ以テ會計検査院ノ章程ヲ更定ス○同年五月第四十九號達ヲ以テ大政官中ニ統計院ヲ置キ職制章程ヲ定ム○同年十月第六十號布告ヲ以テ大政官中ニ參事院ヲ置ク○同月第八十八號達ヲ以テ法制部以下六部ヲ廢ス○同月第八十九號達ヲ以テ參事院職制章程ヲ定ム○同月第九十一號達ヲ以テ審理局ヲ廢シ事務手續ヲ定ム○同年十二月修史館職制並俸給ヲ改定ス○同月第九十九號達ヲ以テ大舍人ヲ廢ス○十五年一月第五號達ヲ以テ會計検査院職制章程ヲ改定ス○同年三月第十六號達ヲ以テ統計院職制中ヲ改定ス○十六年十二月第六十四號達ヲ以テ修史館ニ副總裁ヲ置キ職制中ヲ追加ス○十七年一月第二號達ヲ以テ大政官中ニ恩給局ヲ置キ職制ヲ定ム○同年四月第三十四號達ヲ以テ參事院章程ヲ改定ス○同年十二月第一號達ヲ以テ内閣書記官長ヲ勅任トス○十八年五月第二十號達ヲ以テ恩給局職制中ヲ改定ス○同年十二月第六十九號達ヲ以テ大政大臣左右大臣參議各省卿ノ職制ヲ廢シ諸省大臣ヲ置キ内閣ヲ組織ス○同月内閣改制ノ詔書ヲ頒布ス○同月第七十號達ヲ以テ選信省ヲ置キ工部省ヲ廢シ鑛山工作ノ事務ヲ農商務省ニ電信燈臺ノ事務ヲ選信省ニ工部大學ヲ文部省ニ屬セシメ鐵道ノ事務ヲ當分内閣ニ屬セシム○同月第七十一號内閣達ヲ以テ參事院及制度取調局ヲ廢ス○同月第七十二號内閣達ヲ以テ從前大政官所屬ノ事務ヲ内閣ニ於テ管轄ス○同月第七十五號内閣達ヲ以テ内閣ニ法制局ヲ置キ其官制ヲ定ム○同月第七十五號内閣達ヲ以テ内閣書記官ノ官制ヲ改ム○同月内閣達第七十六號ヲ以テ内閣中文書恩給二局ヲ廢シ更ニ記録會計官報ノ三局ヲ置キ其官制ヲ定ム○同月内閣達第七十九號ヲ以テ鐵道局官制ヲ定ム○同月内閣達第八十二號ヲ以テ賞勳局中主事及秘書官ヲ廢シ更ニ職員ヲ置ク○同月内閣達第八十三號ヲ以テ統計院ヲ廢シ内閣ニ統計局ヲ置キ官制ヲ定ム○十九年一月内閣達第二號ヲ以テ修史館ヲ廢シ内閣ニ臨時修史局ヲ置キ職員ヲ定ム○同年三月勅令第十號ヲ以テ更ニ内閣賞勳局職員及官等俸額ヲ頒布ス○同年四月勅令第二十號ヲ以テ會計検査院官制ヲ頒布○二十年七月勅令第三十八號ヲ以テ文官試驗委員官制ヲ定ム○二十一年十月勅令第七十二號ヲ以テ内閣臨時修史局ヲ廢ス

第八 内閣ニ諸大臣ヲ置キ組織ヲ改ム

明治十八年十二月二十二日
太政官達第六十九號官省院廳府縣

今般太政大臣左右大臣參議各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ内閣總理大臣及宮内外務内務大藏陸軍海軍司法文部農商務遞信ノ諸大臣ヲ置ク

内閣總理大臣及外務内務大藏陸軍海軍司法文部農商務遞信ノ諸大臣ヲ以テ内閣ヲ組織ス

明治十八年十二月二十二日

奉勅

太政大臣公卿三條實美

内閣ノ組織ヲ改ムルノ詔勅

明治十八年十二月二十三日
發布

朕惟フニ經國ノ要ハ官其制ヲ定メテ機關各其所ヲ得ルニ在リ内閣ハ萬機親裁專ラ統一簡捷ヲ要スヘシ今其組織ヲ改メ諸大臣ヲシテ各共重責ニ當ラシメ統フルニ内閣總理大臣ヲ以テシ從前各省太政官ニ隸屬シ上申下行經由繁複ナルノ弊ヲ免レシム乃各部ニ至テハ官守ヲ明カニシ以テ濫弊ヲ除キ選叙ヲ精クシ以テ才能ヲ待チ繁文ヲ省キ以テ淹滯ヲ通シ冗費ヲ節シ以テ急要ヲ舉ケ規律ヲ嚴ニシ以テ官記ヲ肅ニシ徐クニ以テ施政ノ整理ヲ圖ラントス是レ朕カ諸大臣ニ望ム所ナリ中興ノ政一タヒハ進ミ一タヒハ退クヘカラス華ヲ去リ實ヲ務メ綱舉リ目張リ永遠繼クヘカラシム諸臣其レ各朕カ意ヲ體シテ奉行スル所アレ

明治十八年十二月二十三日

奉勅

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

太政大臣内閣改制ノ奏議

明治十八年十二月二十三日
發布

奏議

臣躬憂鼎ノ重キヲ荷ヒ日夕憂懼以テ報効ヲ圖ル嚮キニ親シク

陛下内閣ヲ改制スルノ旨ヲ承ク幸ニ微衷ヲ披キテ以テ

聖德ヲ仰クノ機ヲ得タリ竊ニ思フ今日ノ事前途猶遠シ立憲ノ基ヲ建テ以テ中興ノ業ヲ終ヘントセハ區々前轍ニ因習スルノ能ク成スヘキ所ニ非サルナリ維新ノ初

陛下幼冲臣寵撰ヲ叨リニシ大政ヲ董督ス實ニ已ムコトヲ得サルニ出ツ蓋大寶ノ令唐ノ尙

書省ニ倣ヒ太政官ヲ以テ八省ヲ統ヘ八省ハ左右辨ニ分屬シ官符ヲ得テ施行ス明治二年職

員令ヲ定メ六省ヲ置クニ當テ仍大寶ノ制ニ依リ太政官ヲ以テ諸省ノ冠首トシ諸省ヲ以テ

隸屬ノ分官トス此レヨリノ後諸省ハ專ラ指令ヲ太政官ニ仰キ太政官ハ批ヲ下シテ施行セ

シメ凡ソ文書ノ上奏スル者ハ皆太政官ニ經由シ往復ノ間省ノ察ニ於ケルニ均シ此レ蓋一

時ノ權宜ニシテ獨リ親政統一ノ體ヲ得サルノミナラス亦各省長官ノ責任ヲ輕クシ徒ニ曠

滯ノ弊ヲ爲ス者ナリ方ニ今

陛下聖德日ニ躋リ大政ヲ綜攬シ事ヲ内閣ニ視諸宰臣ヲ引見シ文武ノ務親シク奏議ヲ聽キ

玉ヲ而シテ中外ノ事盤錯多端官制宜シク更張スヘク財政宜シク節度ニ就カシムヘク要務

ノ經畫措施スヘキ者一ニシテ足ラス此レ宜シク時宜ヲ斟酌シ古今ヲ變通シ太政官諸省ニ

冠首タルノ制ヲ改メ併セテ太政官諸職ヲ廢シ内閣ヲ以テ宰臣會議

御前ニ事ヲ奏スルノ所トシ萬機ノ政專ラ簡捷敏活ヲ主トシ諸宰臣入テハ大政ニ參シ出テ

ハ各部ノ職ニ就キ均シク
 陛下ノ手足耳目タリ而シテ其中一人ヲ撰ヒ専ラ中外ノ職務ニ當リ旨ヲ承ケテ宣奉シ以テ
 全局ノ平衡ヲ保持シ以テ各部ノ統一ヲ得セシムヘシ此レ乃
 祖宗簡實ノ政親裁ノ體制ニシテ立憲ノ義亦是ニ外ナラス此ノ如クニシテ綱紀振張シ各部
 宰臣均シク其實ニ任シ用ヲ節シ實ヲ務メ以テ立國ノ目的ヲ達スルコトヲ得ハ天下ト之ヲ
 公ニスヘク宇内各邦ト之ヲ競フヘク
 陛下中興ノ大業始メテ成緒ヲ終ヘ微臣犬馬ノ勞亦與カリテ餘榮アラシク若シ其人ニ至テハ必
 陛下ノ聖鑑ニ由リ大局ニ明達シ時務ニ精練ナル者ヲ得テ以テ之ニ任スヘシ而シテ中外多
 端ノ機務ニ當ルカ如キハ實ニ臣カ堪フル所ニ非サルナリ伏テ願クハ
 陛下臣カ誠ヲ察シ今ノ時ニ及テ内閣ノ組織ヲ改メ併セテ臣カ職ヲ解キ臣ヲシテ獎順贊襄
 ノ微忠ニ負カサラシメハ獨臣カ幸ノミニ非サルナリ言非常ナルカ如クニシテ實ニ時宜ノ
 已ムコトヲ得サルニ出ツ惟々
 陛下之ヲ斷シ玉ヘ謹奏
 明治十八年十二月
 太政大臣公爵三條實美

〔三〕内閣書記官官長官等改正
 明治十七年十二月十六日
 太政官達第百壹號官省院廳府縣
 明治十二年三月三拾四號達(太政官中内閣書記官ヲ被置官等左ノ通被定候)中左ノ通改正候條
 此旨相達候事

内閣書記官長 勅任

〔四〕内閣書記官官制ヲ改ム

明治十八年十二月二十四日
内閣達第七十五號省院廳府縣

今般内閣書記官ノ官制ノ官制ヲ改ムルコト左ノ如シ

明治十八年十二月二十四日

奉 勅

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

内閣書記官 四人 奏任

屬 判任

第一條 内閣書記官ハ内閣總理大臣ノ命ヲ承ケテ文書ノ起草査閲淨寫校訂及書類ノ授受ヲ
取扱ヒ並ニ奏任官以上ノ奏薦叙任其他身分ニ關スル文書ヲ掌ル

第二條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記帳簿及計算ノ事ヲ掌ル

〔五〕内閣賞勳局職員及官等年俸
明治十九年三月三十日
公布勅令第十號

朕内閣賞勳局職員及官等年俸ヲ裁可ス

御 名 御 璽

明治十九年三月二十九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第十號

内閣賞勳局職員及官等年俸

第一條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一人

勅任 一等

副總裁 一人

勅任 二等

書記官 二人

奏任自一等至四等

屬

判任

第二條 總裁副總裁及書記官ノ年俸ハ左ノ如ク定ム

總裁 四千圓

副總裁 三千圓

書記官

奏任一等

奏任二等

奏任三等

奏任四等

上下上下上下上下
千千千千千千千千
圓圓圓圓圓圓圓圓
百百百百百百百百
圓圓圓圓圓圓圓圓

〔六〕法制局官制

明治十八年十二月二十三日
内閣達第七十四號省院廳府縣
内閣ニ法制局ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十八年十二月二十三日

奉 勅

法制局官制

第一條 法制局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 一人 勅任

參事官 二十人 奏任

書記官 二人 奏任

屬 判任

第二條 法制局ハ内閣總理大臣ノ管轄ニ屬ス

第三條 法制局ニ左ノ諸部ヲ設ク

行政部

外交内務勸業教育軍制財務遞信ニ關スル法律命令ノ起草審査ヲ掌ル

法制部

民法訴訟法商法刑法治罪法及之ニ關スル命令ノ起草審査ヲ掌ル

司法部

十四年大政官
第九十一號達
ヲ以テ府縣會
審理事務手續
ヲ定メ十八年
第七十八號達
ヲ以テ參事院
議長ヲ法制局
長官ト改ム
(第五十一項
七項)

恩赦特典及諸裁判所ノ官制及行政裁判ヲ掌ル

第四條 長官ハ命ヲ内閣總理大臣ニ承ケ參事官ヲ統督ス

第五條 各部ニ參事官ノ中一人ヲ以テ部長ヲ置ク

第六條 部長ハ長官ノ指揮ヲ承ケ各部主任ノ事務ヲ掌理ス

第七條 參事官ハ各部ニ分屬シ法律命令ノ起草審査ヲ掌ル

第八條 部長及參事官ハ内閣總理大臣ノ命ニ依リ内閣委員トナリテ元老院ニ出頭シ下附ノ議案ヲ辨明ス

第九條 書記官ハ長官ニ屬シ文書ヲ掌ル

〔七〕文官試験委員官制 明治二十年七月二十五日公布

朕文官試験委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年七月二十三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第三十八號

文官試験委員官制

第一條 文官試験委員ハ文官試験局試験委員中央普通試験委員及地方普通試験委員ヲ總稱ス

高等試験

第二條 高等試験ヲ施行シ文官ノ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ラシムル爲ニ文官試験局ヲ置キ内閣總理大臣ノ管轄ニ屬シ職員ヲ置クコト左ノ如シ

長官

試験委員

書記官

屬

第三條 長官一人勅任トス文官試験試補及見習規則ニ關スル一切ノ事務ヲ總理シ兼テ高等試験委員ノ長トナル

第四條 長官ハ文官試験委員ヲ監督シ試験ノ事務ニ關シテ時々報告ヲ命シ又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第五條 長官ハ帝國大學及其他勅令第三十七號ノ試験ニ關スル諸學校ノ試験規程ニ關シテ内閣總理大臣又ハ所屬長官ニ意見ヲ述フルコトヲ得

第六條 長官ハ毎年末ニ於テ試験出願者當選者試補見習並文官任用ノ人員身分年齢族籍等ヲ統計細別シ其意見ヲ具シテ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第七條 長官ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ文官試験試補及見習ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

第八條 文官試験局ノ試験委員ハ内閣總理大臣各官廳ノ勅奏任官及官立學校ノ教官ヨリ

選テ之ニ充ツ

第九條 文官試験局ノ試験委員ハ長官ノ監督ニ屬シ其徵召ニ應シ文官試験補及見習規則及之ニ關スル諸細則ニ依リ高等試験ヲ施行スルコトヲ掌ル

第十條 書記官ハ二人奏任トス長官ノ指揮監督ヲ承ケ文書ヲ整理ス

第十一條 屬ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ヲ掌ル

普通試験

第十二條 普通試験ヲ施行シ及之ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ラシムル爲ニ中央官廳ニ於テハ官廳毎ニ普通試験委員ヲ置キ府縣ニ於テハ府縣毎ニ普通試験委員ヲ置ク

第十三條 中央官廳ノ普通試験委員ハ局長參事官書記官又ハ其他ノ高等官ヨリ選テ各官廳ノ長官之ヲ命スヘシ

第十四條 地方官廳ノ普通試験委員ハ各官廳ノ官吏及官立府縣立學校ノ教官ヨリ選テ各官廳ノ長官之ヲ命シ又ハ囑托スヘシ

第十五條 普通試験ヲ施行スル爲ニ各官廳ノ長官ハ委員中ヨリ選テ普通試験委員長ヲ命スヘシ

第十六條 各官廳ノ長官ニ於テ普通試験委員長及委員ヲ命シ又ハ囑托シタルトキハ其官職姓名ヲ文官試験局長官ニ通知スヘシ

第十七條 普通試験委員長ハ文官試験試補及見習規則ニ依リ所管ノ普通試験ヲ施行シ及

之ニ關スル一切ノ事務ヲ掌リ普通試験委員ヲ監督ス

第十八條 普通試験委員長ハ官立府縣立諸學校ノ試験規程ニ關シテ意見アルトキハ之ヲ文官試験局長官ニ具申ス

第十九條 普通試験委員長ハ毎年末ニ於テ試験出願者當選者事務練習人並文官任用ノ人員身分年齢族籍等ヲ統計細別シ其意見ヲ具シテ文官試験局長官ニ報告スヘシ

第二十條 普通試験委員ハ普通試験委員長ノ徵召ニ應シ文官試験試補及見習規則及之ニ關スル諸細則ニ依リ普通試験ヲ施行シ時々其結末ヲ普通試験委員長ニ報告スルコトヲ掌ル

第二十一條 普通試験ノ事務ニ關シ書記計算簿記ヲ掌ラシムル爲ニ各官廳ニ奉職スル判任官ヲ以テ書記ニ充ツヘシ

〔八〕記録會計官報三局官制 明治十八年十二月二十四日

内閣中文書恩給ノ二局ヲ廢シ更ニ記録會計官報ノ三局ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十八年十二月二十四日

奉 勅

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

官制

第一條 各局ニ局長及次長各一人ヲ置ク奏任トス

第二條 各局ニ屬若干員ヲ置ク判任トス

第一類 第四章 官制

第三條 各局長ハ事ヲ内閣總理大臣ニ承ケ局務ヲ掌理シ所屬僚員ヲ統督シ其一部ノ責ニ任ス

第四條 各局次長ハ局長ヲ助ケテ局務ヲ整理ス

第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記帳簿及計算ノ事ヲ掌ル

記録局

第六條 記録局ハ内閣書記官及内閣各局文書ノ記録編纂及圖書ノ類別保存出入ヲ掌リ事務分掌ノ爲ニ左ノ諸課ヲ置ク

一 記録課

内閣書記官及内閣各局ノ文書ヲ記録編纂シ諸科隨時參觀ノ用ニ供シ其出入及保存ノ事ヲ掌ル

二 圖書課

内閣書記官及内閣各局其他諸官廳所屬ノ圖書ヲ類別保存シ其目錄ヲ整頓シ諸官衙ノ需メニ應シテ時々參觀ノ用ニ供シ其出入ヲ掌ル

會計局

第七條 會計局ハ恩給ノ事務及内閣書記官并内閣各局ノ用度會計ヲ掌リ事務分掌ノ爲ニ左ノ諸課ヲ置ク

一 恩給課

恩給ノ支給ヲ管掌シ陸海軍并文官一般ノ恩給ニ關スル事務ヲ掌ル

二 會計課

内閣書記官及各局ノ經費豫算及決算金錢出納及出納検査所屬地所ノ保管並所屬諸建物ノ建築修繕並取締ノ事ヲ掌ル

官報局

第八條 官報局ハ官報ヲ編輯印刷スルコトヲ掌リ事務分掌ノ爲ニ左ノ諸課ヲ置ク

一 編輯課

官報ニ登載スヘキ書類ノ編輯并印刷ノ監督ヲ掌ル

二 翻譯課

官報ニ登載スヘキ外國文ノ翻譯ヲ掌リ兼テ往復及配送ノ事ヲ掌ル

〔九〕統計局官制

明治十八年十二月二十八日
内閣達第八十三號省院廳府縣

統計院ヲ廢シ内閣ニ統計局ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十八年十二月二十八日

奉 勅

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

第一條 統計局ハ諸般ノ統計ヲ編製スルコトヲ掌リ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人 奏任

次長 一人 奏任

屬

判任

第二條 局長ハ事ヲ内閣總理大臣ニ承ケ局務ヲ掌理シ所屬僚員ヲ統督シ其一部ノ責ニ任ス

第三條 次長ハ局長ヲ助ケテ局務ヲ整理ス

第四條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記帳簿及計算ノ事ヲ掌ル

〔十〕會計検査院官制 明治十九年四月十七日公布

勅令第二十號

朕會計検査院ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年四月十六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第二十號

會計検査院官制

第一條 會計検査院ハ政府ノ會計ヲ検査スル爲ニ左ノ職員ヲ置ク

院長

副院長

書記官

検査官

検査官補

屬

第二條 院長ハ一人勅任一等トス内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ國庫及各廳金錢物品ノ會計官有財産ノ増減作業資本別種金保管金抵當物品ノ會計ヲ審査判定シ歲出入ノ決算報告書ニ對シ其當否ヲ證明スルコトヲ掌ル

審査判定及證明ノ手續ニ關スル検査ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條 院長ハ院中ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第四條 院長ハ各官廳中一部ニ屬スル會計ノ検査ヲ其廳ニ委任シテ之ヲ報告セシムルコトヲ得

第五條 院長ハ検査上必要ト認ムル簿冊書類等ヲ點檢シ及主任官吏ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 院長ハ金庫倉庫及出納ノ實況其他事業ノ審査ヲ要スルトキハ豫メ其旨ヲ通知シ検査官ヲ其廳ニ派遣シ主務官吏ノ立會ヲ求ムルコトヲ得

第七條 院長ハ會計正當ナリト判定シタルトキハ主任官吏ニ對シ認可狀ヲ下付ス其正當ナラサルモノハ該所屬長官ニ通知シ之カ處分ヲ爲サシメ又ハ時宜ニ依リ直ニ内閣總理大臣ニ具狀シ處分ヲ請フコトヲ得

第八條 院長ハ每會計年度ノ終リタル後五箇月以内ニ報告書ヲ調整シテ前年度ノ會計ニ

就キ検査ノ功程ヲ内閣總理大臣ニ上申スヘシ及需費ノ成績ニ就キ行政上ノ意見ヲ開申スルコトヲ得

第九條 副院長ハ一人勅任二等トス院長ノ職務ヲ佐ケ又ハ院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第十條 書記官ハ奏任トシ二人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル

第十一條 検査官ハ奏任トシ十人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ會計検査ノ事務ヲ分掌ス

第十二條 検査官補ハ判任トス検査官ニ分屬シテ會計検査ノ事務ニ従事ス

第十三條 屬ハ判任トス書記官ニ屬シテ書記會計ノ事務ニ従事ス

〔十一〕鐵道局官制 明治十八年十二月二十六日 内閣達第七十九號省院廳府縣

鐵道局官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十八年十二月二十六日

奉 勅

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

鐵道局ハ鐵道建築ノ事業並其運輸ノ事務ヲ管理シ左ノ職員ヲ置ク

長官 勅任

本局主管ノ事務ヲ掌理シ所屬僚員ヲ統督シ判任官以下ノ進退ヲ奉行ス

事務官 奏任

長官ノ命ヲ承ケ各主務ヲ分掌ス

屬 判任

上官ノ指揮ヲ承ケ書記帳簿及計算ノ事ヲ掌ル

技監 三等

大技長 四等

權大技長 五等

少技長 六等

權少技長 七等

一等技手 八等

二等技手 九等

三等技手 十等

四等技手 十一等

五等技手 十二等

六等技手 十三等

七等技手 十四等

八等技手 十五等

九等技手 十六等

十等技手 十七等

技監以下技術官等並俸給ハ明治十七年第四拾貳號太政官達工部省各科工術等級並月給表
中工部省ヲ鐵道局ト改メ其定ムル所ニ依ル

〔十二〕從前太政官所屬ノ事務ヲ内閣ニ於テ管轄ス 明治十八年十二月二十二日

内閣達第七十二號省院廳府縣

從前太政官所屬ノ事務ハ追テ何分ノ儀相達候迄内閣ニ於テ管轄候事

〔第九〕樞密院ヲ設ケ官制及事務章程ヲ定ム 明治二十一年四月三十日公布
勅令第二十二號

朕元勳及練達ノ人ヲ撰ミ國務ヲ諮詢シ其啓沃ノ力ニ倚ルノ必要ヲ察シ樞密院ヲ設ケ朕カ至高顧問ノ府トナサントス茲ニ其官制及事務規程ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年四月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第二十二號

樞密院官制

第一章組織

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス

第二條 樞密院ハ第一議長一人第二副議長一人第三顧問官十二人以上第四書記官長一人及

書記官數人ヲ以テ組織ス

第三條 樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ奏任トス

第四條 何人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非サレハ議長副議長及顧問官ニ任スルコトヲ得ス

第五條 議長ハ書記官ノ内ヲ以テ秘書官ヲ兼ネシムルコトヲ得

第二章 職掌

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付會議ヲ開キ意見ヲ上奏シ勅裁ヲ請フヘシ

一 憲法及憲法ニ附屬スル法律ノ解釋ニ關シ及豫算其他會計上ノ疑義ニ關スル爭議

二 憲法ノ改正又ハ憲法ニ附屬スル法律ノ改正ニ關スル草案

三 重要ナル勅令

四 新法ノ草案又ハ現行法律ノ廢止改正ニ關スル草案列國交渉ノ條約及行政組織ノ計畫

五 前諸項ニ掲クルモノ、外行政又ハ會計上重要ノ事項ニ付特ニ勅命ヲ以テ諮詢セラレタルトキ又ハ法律命令ニ依テ特ニ樞密院ノ諮詢ヲ經ルヲ要スルトキ

第七條 前條第三項ニ掲ケタル勅令ニハ樞密院ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載スヘシ

第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコト

ナシ

第三章 會議及事務

第一類 第四章 官制

第九條 樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十條 樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長之ニ首席ス議長副議長共ニ事故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ

第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有ス又各大臣ハ委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及説明ヲ爲サシムルコトヲ得但表決ノ數ニ加ラス

第十二條 樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス但可否平等ノ場合ニ於テハ會議首席ノ決スル所ニ依ル

第十三條 議長ハ樞密院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス

副議長ハ議長ノ職務ヲ輔佐ス

第十四條 書記官長ハ議長ノ監督ヲ受ケ樞密院ノ常務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辨明ノ任ニ當ル但表決ノ數ニ加ラス

書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ職務ヲ輔佐シ書記官長事故アルトキハ書記官之ヲ代理ス

前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事件質問答辯及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス

第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ審査報告書ヲ調製シ其會議ニ必要ナル書類ト共ニ之

ヲ各員ニ配達シタル後ニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ

樞密院事務規程

第一條 樞密院ハ勅命ニ由リ會議ニ下付セラレタル事項ニ意見ヲ述フ

第二條 樞密院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ官署又ハ臣民ヨリ請願上書其他通信ヲ受領スルコトヲ得ス

第三條 樞密院ハ内閣及各省大臣トノミ公務上ノ交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ有スルコトヲ得ス

第四條 議長ハ樞密院ニ到達スルノ事項ハ書記官長ニ下付シテ之ヲ審査セシメ及會議ニ付スヘキ事項ノ報告ヲ調製セシム

議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ヲ報告ノ任ニ當リ又ハ顧問官一人若クハ數人ニ之ヲ任スルコトヲ得ヘシ

第五條 審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ

臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條ニ載スル件名簿ニ記入スヘシ

第六條 議長ハ審査報告書ヲ整頓スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シテ遷延スルコトヲ許サス

内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日ヲ限定スルコトヲ得
第七條 審査報告書ハ附屬文書ト共ニ其會議ヲ開クノ日ヨリ少クモ三日以前ニ之ヲ各員ニ配達スヘシ

第八條 件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ件名簿ニ登載スヘキ事項ハ第一事件ノ性質第二會議ノ前文書配達ノ日時第三其會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事日程ヲ調製シ其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招狀ヲ兼ヌルモノトス

第九條 樞密院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

第十條 樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ循由シ議長若クハ副議長之ヲ整理スヘシ
書記官長又ハ書記官ハ其事件ノ性質ヲ簡明ニ演述シ議決ヲ取ルヘキ要點ヲ辯明ス次テ各員ヲシテ自由ニ討論セシム何人タリトモ議長ノ許可ヲ受クルニ非レハ發言スルコトヲ得

ス討論既ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ左ノ順序ニ從ヒ表決ヲ爲サシム第一出席ノ各大臣第二席順ニ從ヒ列スル所ノ顧問官トス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス

議決ノ結果ハ議長之ヲ言明スヘシ

第十一條 議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議其當日ニ結了セサルトキハ之ヲ他日ニ延會スルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定式ヲ踐行スルコトヲ要セス

第十二條 樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官又ハ書記官表決ノ結果ニ依リ之ヲ起草シ議長ノ檢閱ヲ請フヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ重要ノ事件ニ就テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘシ

反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト其理由トヲ議事筆記理由書又ハ要領書ニ記入セラレンコトヲ求ムルコトヲ得

第十三條 前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同時ニ内閣總理大臣ニ通報スヘシ
第十四條 樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記官長又ハ出席書記官之ニ署名シ其正確ヲ表明スヘシ

(一) 樞密院ニ屬ヲ置ク 明治二十一年五月二十六日公布 勅令第四十一號

朕樞密院ニ屬ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年五月二十五日

内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆

勅令第四十一號

樞密院ニ屬ヲ置ク判任トス

● 宮内省官制沿革要領

明治二年四月八日内辦事ヲ置キ宮中ノ庶務ヲ掌ラシム○同年四月十四日内廷知事ヲ置ク○同年五月内廷職ヲ置ク○二年七月八日布告宮内省皇太后宮職皇后宮職春宮坊ヲ置キ内廷職ヲ廢ス○同年八月二十日布告シテ官位相當ヲ定メ

宮内省皇太后宮職皇后宮職春宮坊ノ職制ヲ定ム○三年三月廿八日宮内省ニ内膳司ヲ置ク○同年九月十日布告宮並雜
 族家人職員ヲ定ム○同年十一月七日布告ヲ以テ宮内省中ニ次侍從内舍人御殿兩局ヲ置ク○同月二十八日布告内舍人
 權内舍人大取者ノ官位相當ヲ改ム○同年十二月京都宮内省留守官ヲ合併ス○四年八月十日布告官制ヲ改定シ宮内省
 官等ヲ定ム○同年九月廿八日布告侍從長侍從ノ等級ヲ改メ職掌ヲ定ム○同日布告ヲ以テ次侍從ヲ廢ス○同年十一月
 十四日布告宮家令ノ等級ヲ定ム○同月二十二日布告宮内省中ニ内膳ヲ置ク○五年正月第十六號布告ヲ以テ宮内省官
 等ヲ改定ス○同年三月第一號布告ヲ以テ侍從番長ヲ置ク○同月第六號布告ヲ以テ大中少取者ノ官等ヲ改ム○同
 年四月第十號布告ヲ以テ内膳内舍人ヲ廢シ雜掌長雜掌ヲ置ク○六年七月第二十五號布告ヲ以テ内膳内匠調度ノ
 三司ヲ廢ス○同年八月第二十七號布告ヲ以テ皇族家令ノ等級ヲ改定ス○八年一月第五號布告ヲ以テ典醫侍醫取
 者大少監雜掌長ヲ廢シ新官ヲ置キ等級ヲ定ム○同年四月第五十九號布告ヲ以テ式部寮ヲ宮内省ニ附ス○八年十二月
 第九號布告ヲ以テ式部寮ヲ正院ニ屬ス○九年四月第三十七號布告ヲ以テ皇族家人身分取扱方ヲ定ム○十年九
 月第六十三號布告ヲ以テ大少丞以下ヲ廢シ更ニ書記官屬侍補侍從等ヲ置キ官等職制ヲ定ム○同年九月第六十四號布告
 以テ式部寮ヲ宮内省ヘ屬シ同寮中判任以下ヲ廢シ更ニ禮堂典神部等ヲ置ク○同年十月第七十二號布告ヲ以テ侍醫ノ官
 等ヲ改定ス○同年十一月第八十三號布告ヲ以テ式部寮中大人以下ヲ廢シ更ニ伶人伶員ヲ置ク○同年十一月第八十八
 號布告ヲ以テ任人直丁ヲ廢シ更ニ任人ヲ置ク○同年十二月第九號布告ヲ以テ式部寮中大中少監典神部ヲ廢シ更ニ堂典掌
 典補ヲ置ク○十一年二月第六號布告ヲ以テ内務省中陵墓事務ヲ宮内省ヘ屬ス○同年十二月第五十四號布告ヲ以テ宮内省
 中侍補ヲ廢シ更ニ侍補侍從長ヲ置キ官等職制ヲ定ム○十二年十月第四十號布告ヲ以テ侍補ヲ廢ス○十二年十二月第六
 十號布告ヲ以テ宮内省職制事務章程ヲ改定ス○同月第六十七號布告ヲ以テ更ニ職制ヲ改定ス○十四年三月第二十號布告
 以テ宮内省中門監長以下ヲ置キ官等俸給ヲ定ム○十五年五月第三十一號布告ヲ以テ宮内省式部寮職制中ヲ删除ス○同
 年九月第五十三號布告ヲ以テ宮内省中消防長以下ヲ置キ官等ヲ定ム○同年十一月第六十號布告ヲ以テ侍從ノ等級ヲ改定
 ス○同月宮内省達シ第一號ヲ以テ東京京華族部長局ヲ廢シ省中ニ華族局ヲ置ク○十六年九月第四十號布告ヲ以テ京都

ニ宮内省支廳ヲ置ク○同月第四十三號布告ヲ以テ陵墓掌丁及守丁ヲ宮内省ニ屬ス○十七年三月第二十五號布告ヲ以テ侍
 從長侍從試補ヲ廢シ侍從職ヲ置キ官等ヲ定ム○同年四月第三十二號布告ヲ以テ皇居御造營事務局ヲ宮内省ノ直轄ト爲
 ス○同月第三十三號布告ヲ以テ宮内省中内職寮ヲ置キ第四十三號ヲ以テ内職寮ノ職制ヲ達ス○同年八月第七十二號布告
 ヲ以テ宮内省中圖書寮ヲ置キ職制ヲ定ム○同年九月學務院職制及職員名稱等給ヲ定ム○同年十月第八十號布告ヲ以テ
 式部寮ヲ廢シ式部職ヲ置キ職制俸給ヲ定ム○同月第八十一號布告ヲ以テ華族局ノ職制ヲ定ム○同年十一月第九十三號
 布告ヲ以テ侍從職中侍從試補ヲ置キ官等ヲ定ム○同年十二月第九十八號布告ヲ以テ宮内省中ニ舍人ヲ置ク○同月第九十
 九號布告ヲ以テ陵墓掌丁及守丁ヲ廢シ守長守部ヲ置キ等級俸給ヲ定ム○十八年十二月第六十八號布告ヲ以テ宮中ニ内大
 臣並顧問官及内大臣秘書官ヲ置キ官制ヲ定ム○同月第六十九號布告ヲ以テ太政大臣以下各省卿ノ職制ヲ廢シ諸省大臣
 ヲ置ク○同月内閣達第七十三號ヲ以テ宮内省中御料局並内匠寮ヲ置キ職制ヲ定ム○十九年三月宮内省達第一號ヲ以
 テ宮内省ノ官制ヲ頒ツ○同年五月第五號省達主殿寮中門監消防監以下ヲ廢シ皇宮警察署ヲ置キ官制ヲ定ム○二十年
 十二月宮内省達第七號ヲ以テ皇居御造營事務局ヲ廢ス○二十一年一月宮内省達第一號ヲ以テ博物館ヲ圖書寮ニ屬ス
 ○同月宮内省達第二號ヲ以テ博物館官制ヲ定ム○同年三月宮内省第五號布告ヲ以テ式部職中主事主事補ヲ置キ官等ヲ
 定ム○同年四月宮内省達第七號ヲ以テ宮内省中帝室會計審查局ヲ置キ官制ヲ定ム○同月宮内省達第八號ヲ以テ宮内
 省中主税局ヲ置キ官制等給ヲ定ム○同月宮内省達第九號ヲ以テ宮内省官制中ヲ改正ス○同年五月宮内省達第十二號
 ヲ以テ式部職中雅樂長以下ヲ廢シ雅樂部長以下ヲ置キ官制ヲ定ム○四月第十四號省達ヲ以テ宮内省中華族局ノ爵位
 局ト改稱シ官制ヲ定ム○同年六月宮内省達第三十六號ヲ以テ宮内省官制中侍從長ヲ親任トス○同年九月宮内省達第
 十八號ヲ以テ内匠寮中匠師匠手匠手補及御料局中技師技手ヲ廢シ内匠寮主馬寮御料局ニ技術官ヲ置キ官等俸給ヲ更
 ム○同年十一月宮内省達第二十三號ヲ以テ主馬寮中車馬監外八職ヲ置キ取者馬醫ヲ廢止ス○同年十二月宮内省達第
 二十五號ヲ以テ大膳職中膳部長外三職ヲ置ク○同年二月宮内省達第三號ヲ以テ御料局中理事ヲ置キ其官等俸給ヲ定

第十 宮中ニ内大臣并宮中顧問官及内大臣秘書官ヲ置キ官制ヲ定ム

明治十八年十二月二十二日
太政官達第六十八號官省院廳府縣
宮中ニ内大臣并宮中顧問官及内大臣秘書官ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ
明治十八年十二月二十二日

太政大臣公爵三條實美

奉 勅

内大臣 一人

一御璽國璽ヲ尙藏ス

二常侍輔弼シ及宮中顧問官ノ議事ヲ總提ス

宮中顧問官 十五人以内一官ヨリ
三等官ニ至ル

帝室ノ典範儀式ニ係ル事件ニ付諮詢ニ奉對シ意見ヲ具上ス

内大臣秘書官 一人又ハ二人 奏任

内大臣ニ專屬ス

第十一 宮内省官制ヲ定ム
明治十九年二月五日公布
宮内省達第一號省院廳府縣

宮内省官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年二月四日

奉 勅

宮内大臣伯爵伊藤博文

宮内省官制

十八年大政官
達第六十號ヲ
以テ各省卿ノ
職制ヲ廢シ更
ニ各省部大臣
ヲ置ク(第八)

二十一年六月
宮内省達第十
六號ヲ以テ侍
從長ヲ親任ト
ス

宮内大臣

帝室ノ事務ヲ總判シ宮中職員皇族職員ヲ統督シ華族ヲ管理スルコトヲ掌ル

宮内次官

一人 勅任

大臣ヲ輔ケ省務ヲ整理ス大臣事故アルトキハ之ヲ代理スルコトヲ得

書記官

六人 奏任

秘書官

一人 奏任

屬

判任

内事課

課長

一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

省内庶務ヲ掌ル

課次長

一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

外事課

課長

一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

帝室外交ノ事ヲ掌ル

課次長

一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

侍從職

侍從長

一人 勅任

第一類 第四章 官制

廿一年省達第九號ヲ以テ(奏
 長同中雅樂師
 長雅樂師
 師雅樂師
 生雅樂師
 部長以下ヲ置

常侍奉仕ス	常侍奉仕シ及侍從内豎ヲ監督スルコトヲ掌ル	勅任又ハ奏任 <small>二十一年四月十日省達第九號ヲ以テ(奏任)トアルヲ(勅任又ハ奏任)ト改ム</small>
侍從試補	奏任	
内豎	奏任	
屬	判任	
式部職		
長官	一人 勅任	
次官	一人 勅任	
式部官	奏任	
禮式ヲ掌ル		
屬	判任	
掌典長	一人 勅任	
掌典	奏任	
祭典ヲ掌ル		
掌典補	判任	

皇太后宮職		
大夫	一人 勅任	
亮	一人 奏任	
屬	判任	
皇后宮職		
大夫	一人 勅任	
亮	一人 奏任	
屬	判任	
大膳職		
大夫	一人 勅任	
御膳及宴饗賜饌ノ事ヲ掌ル		
亮	一人 奏任	
屬	判任	
内藏寮		
頭	一人 勅任	
帝室財務ノ事ヲ掌ル		
權頭	奏任	頭アレハ之ヲ置カス

二十一年九月
省達第十八號
ヲ以テ本局中
ニ技術官ヲ置
ク又廿二年二
月省達第三號
ヲ以テ局中理
事ヲ置ク

助	一人	奏任	
權助		奏任	助アレハ之ヲ置カス
諸陵寮		判任	
頭	一人	奏任	
諸陵ノ事ヲ掌ル		奏任	頭アレハ之ヲ置カス
權頭	一人	奏任	
助		奏任	助アレハ之ヲ置カス
權助		判任	
屬		判任	
守長		等外	
守部		等外	
御料局	一人	勅任	
長官			
帝室財産ノ事ヲ掌ル	一人	奏任	
主事	一人	奏任	
主事補	二人	奏任	

屬		判任	
侍醫局			
長官	一人	勅任	
侍醫局ノ事務ヲ總掌ス			
侍醫		勅任又ハ奏任	
診候及宮中衛生ノ事ヲ掌ル			
醫員		判任	
藥劑師		判任	
屬		判任	
調度局			
局長	一人	奏任	
御服調度及宮中需用物品ノ事ヲ掌ル			
次長	一人	奏任	
屬		判任	
華族局			
皇族職員			
親王家別當	一人	勅任	

親王ノ家事ヲ掌ル

家令 一人 奏任

家扶 判任

家從 判任

〔一〕主殿寮中門監門監補門部消防監消防監補嚮導消防手ヲ廢シ同寮中皇宮警察署ヲ置キ

官制ヲ定ム 明治十九年五月一日
宮内省達第五號

主殿寮中門監門監補門部消防監消防監補嚮導消防手ヲ廢シ同寮中更ニ皇宮警察署ヲ置キ官制ヲ定ムル左ノ如シ

明治十九年五月一日

宮内大臣伯爵伊藤博文

奉 敕 皇宮警察長 一人 奏任

皇宮警察守門ノ事ヲ掌ル

皇宮警察次長 一人 奏任

皇宮警部 判任

皇宮警部補 判任

皇宮警手 等外

皇宮警察長皇宮警察次長官等俸給

皇宮警察長 奏任二等 上貳千圓

皇宮警察次長 奏任三等 上千五百圓

皇宮警察次長 奏任四等 上千二百圓

皇宮警察次長 奏任五等 上九百圓

中千八百圓
中千四百圓
中千二百圓
中八百圓

下千六百圓
下千三百圓
下千圓
下七百圓

〔二〕博物館官制 明治二十一年一月十八日
宮内省達第二號

本年省達第一號ヲ以テ博物

博物館官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十一年一月十八日

奉 勅

博物館官制

宮内大臣子爵土方久元

館長 一人 奏任

評議員 無定員 勅奏任官ノ内ヨ

學藝委員 五人 奏任待選

屬 判任

〔三〕式部職中主事主事補ヲ置キ官等ヲ定ム 明治二十一年三月八日
宮内省達第五號

式部職中主事主事補ヲ置キ官等ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十一年三月八日

宮内大臣子爵土方久元

奉 勅 主事 一人 奏任一等二等

主事補 二人 奏任三等四等

〔四〕帝室會計審査局官制 明治二十一年四月六日
宮内省達第七號

宮内省中二帝室會計審査局ヲ置キ官制ヲ定ムル左ノ如シ

明治二十一年四月六日

奉 勅 長官 一人 勅任 宮中若クハ省中勅任官ヨリ兼任

帝室一般ノ會計ヲ検査審判スルコトヲ掌ル

宮内大臣子爵土方久元

審査官 三人 奏任 省中奏任官ヨリ兼任
審査官補 十人 判任 内七人ハ省中判任官ヨリ兼任

〔五〕主獵局官制 明治二十一年四月二十日

宮内省中主獵局ヲ置キ官制等給ヲ定ムル左ノ如シ

明治二十一年四月二十日

奉勅

長官 一人 勅任二等

主事 一人 奏任二等二等

屬 判任自一等至十等

主獵官 勅任又ハ奏任俸金ヲ給セズ

監守長 判任

監守 等外

宮内大臣子爵土方久元

主獵局長官主事俸給表

官等	長官		主事
	上	下	
勅任二等	三千五百圓	三千圓	二千四百圓
奏任一等			二千二百圓
奏任二等			一千八百圓

一長官ハ時ニヨリ名譽官トシテ俸金ヲ給セサルコトアルヘシ

〔六〕式部職中雅樂長以下ヲ廢シ雅樂部長以下ヲ置キ官制ヲ定ム

式部職中雅樂長以下ヲ廢シ更ニ雅樂部長以下ヲ置キ官制ヲ定ムル左ノ如シ

明治二十一年五月十九日

奉勅

雅樂部長 一人 式部官掌典ノ内ヨリ之ヲ兼ヌ

式部長官ニ屬シ伶人長樂師長以下ヲ監督ス

雅樂部副長 一人 奏任五等六等

伶人長 判任

伶人 判任

伶員 等外

帝國樂及唐高麗樂等ニ從事ス

樂師長 判任

樂師 判任

樂手 判任

樂生 等外

歐洲吹奏樂及歐洲管絃樂ニ從事ス

〔七〕華族局ヲ爵位局ト改稱シ官制ヲ定ム

宮内省中華族局ヲ爵位局ト改稱シ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十一年五月二十八日

明治二十一年五月十九日

宮内省達第十二號

宮内大臣子爵土方久元

宮内大臣子爵土方久元

奉勅

爵位局官制

第一條 爵位局ハ爵位奉宣ノ事務及ヒ華族ニ關スル一切ノ事務ヲ管理スル所トス
 第二條 爵位局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

次官

審理官 勅委任官ヨリ兼任

主事

主事補

屬

第三條 長官一人勅任一等トス本局ノ事務ヲ總理ス

第四條 次官一人勅任二等トス職掌長官ニ亞ク

第五條 審理官ハ必要ノ時ニ臨ミ長官ノ召喚ニ應ジ華族懲戒審理ノ事ヲ掌ル

第六條 主事一人勅任一等主事補二人勅任三等四等トス長官ノ命ヲ承ケ庶務ヲ幹理ス

第七條 屬判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

〔八〕内匠寮中匠師匠手匠手補及御料局中技師技手ヲ廢シ内匠寮主馬寮御料局中ニ技官ヲ

置キ官等俸給ヲ定ム 明治二十一年九月二十九日 宮内省達第十八號

内匠寮中匠師匠手匠手補及御料局中技師技手ヲ廢シ更ニ内匠寮主馬寮御料局中ニ技術官ヲ置キ官等俸給ヲ定ムル左ノ如シ

明治二十一年九月二十九日

奉勅

技術官官等俸給表

宮内大臣子爵土方久元

技		師	
一	二	一	二
一等技師	二千四百圓	一等技師	二千四百圓
二等技師	二千二百圓	二等技師	二千二百圓
三等技師	千八百圓	三等技師	千八百圓
四等技師	千二百圓	四等技師	千二百圓
五等技師	九百圓	五等技師	九百圓
六等技師	六百圓	六等技師	六百圓
下	二千六百圓	下	二千六百圓

技		手		手		補	
一	二	一	二	一	二	一	二
一等技手	二千四百圓	一等技手	二千四百圓	一等技手	二千四百圓	一等技手	二千四百圓
二等技手	二千二百圓	二等技手	二千二百圓	二等技手	二千二百圓	二等技手	二千二百圓
三等技手	千八百圓	三等技手	千八百圓	三等技手	千八百圓	三等技手	千八百圓
四等技手	千二百圓	四等技手	千二百圓	四等技手	千二百圓	四等技手	千二百圓
五等技手	九百圓	五等技手	九百圓	五等技手	九百圓	五等技手	九百圓
六等技手	六百圓	六等技手	六百圓	六等技手	六百圓	六等技手	六百圓
七等技手	四百圓	七等技手	四百圓	七等技手	四百圓	七等技手	四百圓
八等技手	三百圓	八等技手	三百圓	八等技手	三百圓	八等技手	三百圓
九等技手	二百圓	九等技手	二百圓	九等技手	二百圓	九等技手	二百圓
十等技手	一百圓	十等技手	一百圓	十等技手	一百圓	十等技手	一百圓
下	二千六百圓	下	二千六百圓	下	二千六百圓	下	二千六百圓

〔九〕主馬寮中馭者馬醫ヲ廢シ更ニ八職ヲ置キ技術官ヲ以テ之ニ補ス 明治二十一年十一月六日 宮内省達第二十三號

主馬寮中取者馬醫ヲ廢シ左ノ職名ヲ置キ技術官ヲ以テ之ニ補ス

明治二十一年十一月六日

奉勅

宮内大臣子爵土方久元

車馬監

調馬師

調馬手

馬醫師

馬醫

取者

前騎者

騎取者

掌車

〔十〕大膳職中ニ四職ヲ置ク 明治二十一年十二月二十一日

大膳職中ニ左ノ職員ヲ置ク

明治二十一年十二月二十一日

奉勅

宮内大臣子爵土方久元

膳部長

膳部副長

膳部

膳部補

自判任一等至同三等

自判任四等至同六等

自判任六等至同十等

等外

各省官制通則沿革要領

明治十三年十二月第六十號達ヲ以テ各省使職制并事務章程ヲ改定ス○十四年十一月第九十四號達ヲ以テ各省従前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム○同月第九十五號達ヲ以テ諸省事務章程通則ヲ定メラレタルニ付管掌事務ノ區分ハ従前ノ通執行セシム○十七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス○十八年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ各省大臣ヲ置キ宮内大臣ノ外諸大臣ヲ以テ内閣ヲ組織ス○同月内閣總理大臣ヨリ各省事務整理ノ綱領ヲ示ス○十九年二月勅令第二號ヲ以テ各省官制通則及諸省(宮内省ヲ除ク)官制ヲ定ム

〔第十一〕各省官制通則 明治十九年二月二十七日公布 勅令第二號

朕各省ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年二月二十六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第二號

各省官制

通則

第一條 此命令中各省トアルハ外務省内務省大藏省陸軍省海軍省司法省文部省農商務省遞

信省ヲ合稱ス

此通則ニ依リ難キモノハ其省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第二條 各省大臣ハ其主任ノ事務及今後法律勅令ニ依リ主任ニ屬スル事務ニ付其責ニ任ス

主任ノ事務兩省以上ニ關涉スルトキハ關涉ノ各省大臣ノ間ニ協議ヲ經テ其主任ヲ定メ上
 奏スヘシ若シ各省大臣ノ間協議決定セサルトキハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ
 第三條 各省大臣事故アルトキハ臨時命ヲ承テ他ノ大臣其事務ヲ代理スルコトアルヘシ
 第四條 凡ソ法律勅令ノ各省大臣主任ノ事務ニ屬スルモノハ各省大臣内閣總理大臣ト均シ
 ク之ニ副署ス若シ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ内閣總理大臣及關涉ノ各省大臣均
 シク之ニ連署スヘシ
 第五條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ
 案ヲ具ヘ閣議ニ提出スルコトヲ得
 第六條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ノ範圍内ニ
 於テ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ省令ヲ發スルコトヲ得
 第七條 各省大臣ノ命令ニハ罰金二十五圓以下又ハ禁錮二十五日以内ノ罰則ヲ附スルコト
 ヲ得
 第八條 各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其省中各局課及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ム
 ルコトヲ得
 第九條 法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外各
 省大臣ハ其職務ヲ次官ニ代理セシメ又ハ其職務ノ一部ヲ次官ニ委任スルコトヲ得

第十條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府知事縣令ニ指令又ハ訓令ヲ
 下スコトヲ得
 第十一條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府知事縣令ヲ監督スヘシ若
 シ警視總監北海道廳長官府知事縣令ノ處分又ハ指令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ
 犯スモノアリト認ムルトキハ其處分指令ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得
 第十二條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官以上ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上
 奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス
 第十三條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ叙位叙勳及恩給ヲ上奏スヘシ
 第十四條 各省大臣ハ閣議ノ後裁可ヲ經ルニ非サレハ局課ヲ廢置分合シ又ハ定限ノ外新ニ
 勅奏任官ヲ增加スルコトヲ得ス
 第十五條 各省大臣ハ豫算決定ノ後臨時ニ増額又ハ別途支出ヲ請求スルコトヲ得ス但臨時
 ノ事變及他ノ成規ニ依リ止ムヲ得サルモノハ此限ニアラス
 第十六條 各省大臣ハ俸給豫算額内ニ於テ其省限り定員ヲ設ケ判任官ヲ任用スルコトヲ得
 第十七條 各省大臣ハ臨時ノ須要ニ依リ判任官定員ノ外ニ俸給豫算額内ニ於テ雇員ヲ使
 用スルコトヲ得
 第十八條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付時々ノ狀況ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ
 第十九條 各省大臣ハ每會計年度末ニ於テ前年ノ功程ヲ具ヘ内閣總理大臣ヲ經テ報告書ヲ

上奏スヘシ

第二十條 各省大臣ハ每會計年度末ニ於テ判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時事務ノ爲ニ使
用シタル雇員ノ日數人員及金額ヲ細分統計シ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 各省大臣ハ一周年末ニ其省ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者
ヲ賞與シ之ヲ官報ニ公録スルコトヲ得

第二十二條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲシテ他省ニ涉リ又ハ他省ヨリ兼官セシムルコトヲ得
ス若シ止ムヲ得サル要用アルトキハ之ヲ閣議ニ提出シテ裁可ヲ請フヘシ

第二十三條 各省大臣ハ臨時審査ノ爲メ省中定員ノ内ヲ以テ便宜委員ヲ設クルコトヲ得

第二十四條 各省大臣ハ法律勅令ノ定ムル所ニ從ヒ部下ノ官吏ヲ懲戒ス

第二十五條 各省職員ヲ置ク左ノ如シ

- 次官
- 秘書官
- 書記官
- 局長
- 參事官
- 局次長
- 試補

屬

第二十六條 前條ノ外各省特別ノ職員ヲ置クモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第二十七條 各省次官一人ヲ置ク勅任トス

第二十八條 次官ハ主任大臣ノ命ヲ承ケ第九條ノ範圍内ニ於テ大臣ノ職務ヲ代理シ又ハ大
臣ノ指命シタル範圍内ニ於テ委任ヲ受ク

次官事故アルトキハ大臣其省中ノ官吏ヲシテ臨時其職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第二十九條 次官ハ大臣ノ代理トシテ公文ニ署名スルコトヲ得

第三十條 次官ハ總務局長トナリ命ヲ大臣ニ承ケ各局課ノ事務ヲ監督シ省務ノ全部ヲ整理
スルノ責ニ任ス

第三十一條 各省ニ大臣官房ヲ置ク大臣官房ハ機密文書ヲ掌リ大臣次官ノ官印及省印ヲ管
守ス

第三十二條 大臣官房ハ大臣親展ノ文書機密事務所部官吏ノ進退身分ニ關スル事務及大臣
ニ屬スル一切ノ事務ヲ掌ル

所部官吏ノ進退身分ニ關スル事務ハ各省ノ便宜ニ從ヒ總務局中ノ一課ニ於テ處理スルコ
トヲ得

第三十三條 秘書官ハ奏任トス大臣ニ專屬シテ官房ノ事務ヲ掌ル

秘書官ノ定員ハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第三十四條 秘書官ハ臨時命ヲ承ケ書記官及各局課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ
 各省ノ便宜ニ依リ特ニ秘書官ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム
 第三十五條 各省中省務ノ全部ヲ統轄スル爲ニ總務局ヲ置キ省務ヲ分掌スル爲ニ各局ヲ置ク
 第三十六條 各省總務局ニ文書課往復課報告課及記録課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
 第三十七條 文書課ハ省中各局成案ノ回議ヲ審査シ諸文案ヲ起草スル事ヲ掌ル
 第三十八條 往復課ハ凡テ各省ニ到達スル公文書類及成案文書ヲ接受シ并發送ノ事ヲ掌ル
 第三十九條 報告課ハ各局課ニ就キ統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調整シテ大臣ノ查
 閱ニ供シ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スル事ヲ掌ル
 第四十條 記録課ハ其省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存ス
 各省中記録局ノ設ケアルモノハ別ニ記録課ヲ置カス
 第四十一條 各省ノ便宜ニ依リ特ニ總務局ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ
 定ム
 第四十二條 書記官ハ奏任トス大臣又ハ總務局長ノ命ヲ承ケ各局ノ成案ヲ審査シ文書ヲ掌
 リ又ハ總務局中諸課ノ長ヲ兼テ課務ヲ掌理ス
 書記官ノ定員ハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム
 第四十三條 總務局ノ外各局ニ局長局次長各一人ヲ置ク局長局次長ハ奏任トス各局ニ局長
 アレハ局次長ヲ置カス局次長アレハ局長ヲ置カサルコトアルヘシ

第四十四條 局長ハ大臣又ハ總務局長ノ命ヲ承ケテ其主務ヲ掌理シ及各課ノ事務ヲ指揮ス
 第四十五條 局長又ハ局次長ハ其主任ノ事務ニ付其職權ニ屬シ又ハ特別ノ委任ヲ受クルノ
 事項ハ之ヲ專行スルコトヲ得
 第四十六條 局次長ハ局長ノ事務ヲ佐ク若シ局長ナキトキ又ハ局長事故アルトキハ大臣ノ
 命ニ依リ局長ノ事務ヲ掌理ス
 第四十七條 參事官ハ奏任トス大臣又ハ次官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル
 參事官ノ定員ハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム
 第四十八條 參事官ハ其省ノ便宜ニ從ヒ局課ノ事務ヲ兼任シ若クハ臨時命ヲ承ケテ其事務
 ヲ助クルコトアルヘシ
 各省ノ便宜ニ依リ特ニ參事官ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム
 第四十九條 試補ハ奏任ニ准シ定期間大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習シ任官ヲ待ツモ
 ノトス
 各省試補ノ規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十條 局中各課ニ課長一人ヲ置キ判任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ局長ニ承ク
 各省中特ニ奏任官ヲ以テ課長ヲ兼シムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム
 第五十一條 屬ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記及計算ノ事ニ從フ
 第五十二條 各省中特ニ補助員ヲ要シ又ハ顧問員ヲ要スルトキハ每次狀ヲ具ヘテ閣議ニ提

出シ裁可ヲ請フヘシ

第五十三條 各省處務規程中公文ノ取扱順序ハ左ノ條項ニ依ラシム

第五十四條 各省ニ到達スル文書ハ凡テ總務局往復課ニ接受シ課長之ヲ取纏メ開封シ件名

番號等ヲ簿冊ニ記入シテ總務局長ノ査閲ニ供スヘシ

第五十五條 總務局長ハ其文書ヲ査閲シ事例規ナキカ又ハ重要ナリト認ムルモノハ之ヲ大

臣ノ査閲ニ供シ其他尋常ノ件ハ主務ノ處ヲ指示シ之ニ檢印シテ往復課長ニ下付シ直ニ之

ヲ配付セシム往復課長ヨリ各局ニ配付スル文書ハ之ヲ各局往復主任ノ屬ニ配付ス

第五十六條 大臣親展ノ文書ハ封皮ノ上ニ記號シ記簿ノ後直ニ大臣又ハ秘書官ニ送付スヘ

シ

第五十七條 秘書官ハ大臣親展ノ文書及往復課ヲ經スシテ各局課ヨリ送付スル文書ヲ受領

シタルトキハ其番號ヲ簿冊ニ記シ直ニ之ヲ大臣ニ提出ス決裁濟ノ文書ハ其主務ノ處ニ送

付シ受領者ノ檢印ヲ要スヘシ

第五十八條 凡ソ送付ノ文書ハ送付記銘簿ニ受領者ノ檢印ヲ要スヘシ

第五十九條 各局長ハ大臣又ハ次官ヨリ事務ノ處分方ヲ受ケ又ハ往復課長ヨリ文書ノ配付

ヲ受ケタルトキハ各其主務ニ從ヒ各課長ニ文書ヲ配付シ其緩急ヲ示シ其處分方ヲ授ケテ

速ニ之ニ從事セシムヘシ

第六十條 各局課長ハ受領ノ文書ヲ處理スルニ當リ定期ヲ經過スルヨ得ス若シ事件ノ錯綜

スルカ或ハ數局課ニ聯帶シテ時日ヲ要スルノ見込アルトキハ凡ソ其時日ヲ定メ豫メ次官
ノ允許ヲ受クルヲ要ス但文書ヲ處理スルノ定期ハ各省ノ定ムル所ニ依ル

第六十一條 事ノ數局課ニ聯帶スル文書ハ主務ノ局課ニテ處分案ヲ起草シ關係局課ノ檢印
ヲ要スヘシ若シ彼此見ヲ異ニスルトキハ面議商量シ尙ホ決セサルトキハ直ニ大臣又ハ次
官ニ面陳シテ決裁ヲ請ヒ附箋ヲ以テ應答スルヲ許サス

第六十二條 各局課調査濟ノ成案ハ往復主任ノ屬ヨリ之ヲ往復課ニ回付シ往復課ハ直ニ之
ヲ總務局長ニ提出シ總務局長ハ査閲ノ上大臣ノ決裁ヲ請フヘシ總務局長大臣ノ代理ヲ爲
シ又ハ委任ヲ受クル事件ハ査閲ヲ經テ直ニ施行スヘシ

第六十三條 總務局長ニ於テ各局課ノ成案ニ異議アルトキハ各局長ニ命シテ之ヲ修正セシ
メ又ハ大臣ノ旨ヲ承テ各局長ニ指揮ヲ爲スコトアルヘシ

第六十四條 大臣及次官ノ決裁ヲ經タル文書ハ往復課ニ於テ淨書シ秘書官ニ就キ大臣ノ印
ヲ鈐シ件名番號等ヲ簿冊ニ記入シテ直ニ發送ス其原文書ニハ交付發送ノ年月日ヲ記シ往
復課長之ニ檢印シテ主務ノ處ニ返付スヘシ

各局課長ノ名ヲ以テ施行スルモノハ其局課ニ於テ淨寫押印シ之ヲ往復課ニ移ス往復課ハ
其件名番號等ヲ簿冊ニ記入シテ之ヲ發送ス

第六十五條 總務局ニ於テ起草シタル文案ハ總務局長直ニ大臣ニ提出シ決裁ヲ請フヘシ

第六十六條 事ノ急施ヲ要シ又ハ機密ニ係ルモノハ通常ノ手續ニ依ラヌ直ニ大臣ノ決裁ヲ

請フコトアルヘシ

第六十七條 至急又ハ機密ノ文書ハ通常ノ手續ニ依ラズ便宜主任者ニ於テ自ラ携帶シテ諸局ノ議ヲ取り并官房ニ提出スルコトヲ得其決裁濟施行ニ至ル迄ノ順序モ亦便宜ニ從ヒ別ニ至急機密文書ノ件名簿ヲ調整シテ之ヲ登錄スルコトヲ得

第六十八條 文書調査ノ爲メ他ノ官署ニ照會ヲ要スルトキハ往復課ヲ經ス各局課長ノ名ヲ以テ往復スルコトヲ得

第六十九條 往復課長ハ各局課ニ配付シタル文書ノ日限ヲ計算シ若シ故ナクシテ日限内ニ往復課ニ回付セサルモノアルトキハ其件名及局名ヲ總務局長ニ報告スヘシ

第七十條 大臣ノ命ニ依リ一時處分ヲ爲スヲ要セスシテ留置クヘキ文書ハ總テ總務局ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第七十一條 各局課ノ文書處分濟ノモノハ之ヲ記録局又ハ記録課ニ送付ス其機密ニ屬スル文書ハ別ニ大臣ノ命スル所ニ依リ秘書官之ヲ保管スルコトアルヘシ

第七十二條 各省ノ會計事務ニシテ別段ノ法律命令ニ依テ定メタルモノヲ除クノ外金錢出納ニ關シテハ左ノ條項ニ依ラシム

第七十三條 各省會計局ハ其省及所轄廳費ノ豫算決算省中ノ會計事務及所轄ノ地所建物ニ關スル事務ヲ掌ラシム局中出納課検査課及用度課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第七十四條 出納課ハ其省及所轄廳費ノ豫算決算金錢ノ出納諸帳簿ノ整頓并計算表ノ調整

ヲ掌ル

第七十五條 検査課ハ金錢出納ノ當否及各般ノ證書ヲ検査スルコトヲ掌ル
用度課購入ノ物品ハ臨時局長ノ命ヲ承ケテ検査スルコトアルヘシ

第七十六條 用度課ハ所轄ノ地所建物其他一切ノ需用品ニ關スル事務ヲ掌ル

第七十七條 俸給並旅費其他一切ノ經費并收入ニ關スル事ハ出納課ニ於テ之ヲ管理シ其都度仕出文書ニ依リ出納傳票ニ事由ヲ摘要シテ局長ニ差出シ局長ニ於テ相當ナリト思惟スルトキハ検査課ヲシテ検査セシメ然ル後大臣又ハ次官ノ決裁ヲ請ヒ收入及支出ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第七十八條 出納課ニ於テハ出納傳票ニ捺スル局長并各課經由ノ檢印ヲ認メテ其出納ヲ帳簿ニ登記シ毎日殘額表ヲ製シテ局長ノ査閱ニ供スヘシ

第七十九條 凡ソ記簿上ニ誤寫脱字アルモ一切改描塗抹スルコトヲ許サズ其事由ヲ詳記シテ主務者之ニ捺印スヘシ

第八十條 検査課長ハ局長ノ命ヲ受ケ臨時局中各般ノ帳簿證書ヲ検査スルコトアルヘシ

第八十一條 凡ソ金錢出納ニ關スル仕出文書ハ定期間ニ於テ之ヲ處理スヘシ其錯綜スル事件ト雖モ豫メ局長ノ許可ヲ得スシテ定期ヲ經過スルコトヲ得ス但仕出文書ヲ處理スルノ定期ハ各省定ムル所ニ依ル

第八十二條 營繕ハ用度課ヨリ其申立ヲ爲シ局長ニ於テ相當ナリト思惟スルトキハ検査課

ノ検査ヲ經大臣又ハ次官ノ許可ヲ得タル後用度課ニ於テ之ヲ掌理セシム但從前閣議ヲ經テ施行スルモノハ仍ホ舊ニ依ル

第八十三條 廳中日常須要ノ物品ハ總テ用度課ニ於テ管守シ需用アル毎ニ各局課長ノ證書ヲ以テ之ヲ請求セシムヘシ

第八十四條 用度課ハ省中取締ニ關スル事務ヲ掌リ及各種ノ物品ニ關スル出入帳簿ヲ製シ其出入ヲ明確ナラシムヘシ

第八十五條 前條掲クル外特ニ會計局ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム(各省官制ハ分別掲載ス)

(二) 各省事務ヲ整理スルノ綱領ヲ示ス 明治十八年十二月二十六日

本月二十三日ノ 聖詔ヲ奉體シ左ニ各省事務ヲ整理スルノ綱領ヲ舉ケ以テ將來ノ標準ヲ示ス各省大臣此範圍内ニ於テ便宜斟酌シ案ヲ具ヘテ閣議ニ提出スヘシ

明治十八年十二月二十六日

各省大臣各位閣下

一官守ヲ明ニスル事

我カ官制ハ草創ノ餘未タ限ルニ定員ノ制ヲ以テセス濫弊從テ生シ官愈々多クシテ務愈々繁カルコトヲ免レス十年ニ一タヒ官制ヲ改メ數部省ヲ廢シ内務省ニ併セ各省奏判官ヲ減シテ其過半數ヲ罷メタリ然ルニ當時定員ノ制ヲ設ケテ以テ將來ヲ防範セサリシニ因リ其後又更ニ漸クニ増員シ從テ減シテ從テ加ハリ以テ其初メニ倍スルニ至レリ今ニ於テ各省大臣宜シク 留意ヲ奉體シ左ノ節目ニ依リ各一 内局課ノ設置ヲ定メ官吏ノ員數ヲ限リ節減淘汰ノ意見ヲ具ヘテ閣議ニ付

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

シ各省ヲシテ略均一ナラシメ成案トナシ然ル後上奏シテ裁ヲ請フヘシ

一各省次官一人ニ限ル

一各省書記官ハ其省ノ須要ニ從ヒ定員ヲ限ル

一省中各局ニ屬セサルノ分課ハ其省書記官ノ内ヲ以テ課長ニ充ツ

一省務ノ枝分シテ別ニ一部ヲ爲シ經常ニ繼續スヘキ者ヲ局トス局長一人又ハ局長局次長ヲ置ク

一本省又ハ局中ノ事務ヲ分テ課ヲ設クルハ各省ノ便宜ニ從フ

一局長及局次長ハ奏任トス局中ノ課長ハ判任ヲ以テ之ニ充ツ

一局ノ等級ヲ分テ一等局二等局トナスハ事務ノ繁簡輕重ニ從ヒ各省大臣ノ具狀スル所ニ依リ裁定ヲ經ヘシ

一局課ノ設置一定ノ後省務ノ變更ニ依リ新ニ廢置ヲ要シ又ハ新ニ奏任官ノ定員ヲ増サント要スルトキハ理由ヲ具ヘテ閣議ノ後裁可ヲ請フヘシ

一各省ノ須要スル所ニ從ヒ定員ヲ限リ參事官ヲ置キ審議立案ノ職ニ供フルコトヲ得

一以上定員ノ外出仕又ハ御用掛ノ名義ヲ以テ補任スルコトヲ得ス

一各省大臣ハ局課ノ規程ヲ定メ局長課長ヲシテ責任スル所ヲ知ラシムルヲ要ス

前項ノ規程ハ可成各省均一ヲ要スル爲ニ閣議ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

一八等官以下ハ各省ノ須要ニ從ヒ定額俸給項内ニ於テ各省大臣之ヲ判任スヘシ

一各省大臣ハ臨時事務ノ爲ニ判任常員ノ外ニ定額内ニ於テ備員ヲ使用スルコトヲ得

一學術專科ニ係ル官制及警視收稅典獄ノ類ハ別ニ定ムル所ニ依ル

一特ニ一事件ヲ審査セシムル爲ニ委員ヲ設ケ又ハ臨時ノ事務ヲ擔當セシムル爲ニ掛ヲ設ケ省中定員ノ人ヲ使用スルハ各省大臣ノ權内トス

一各省ニ試験ヲ經タル試補ヲ置キ省局ノ事務ヲ練習セシメ閣官アルヲ待チテ補任ス各省試補ノ數ハ閣議ノ定ムル所ニ

依ル

一 試補ニ關スル規則ハ追テ裁定ヲ經公布スヘシ
 一 官吏一省内ニ於テ二ツノ事務ヲ兼テシムルコトヲ得ルモ二省ニ涉リテ兼スルコトヲ得ス若シ止ムヲ得サルノ要用ニ依リテ兼官セシムルモ兼官ハ一年ヲ過クルコトヲ得ス
 一 他省ニ涉リテ兼官スルモノハ兼ヌル所ノ官俸三分ノ一ヲ増給スヘシ但武官ニシテ文官ニ任スルハ此例外タリ
 以上ハ官制ノ綱領トス各省案成ルノ後裁可ヲ經一定公布スル所アルヘシ
 奏任以上ハ官ニ職權アリテ各機關ノ一部ニ當ル者ナリ屬官ハ使用ヲ受ル者ナリ從前官制ノ區別明ナラスシテ屬等外ノ年ヲ經タル者ハ進テ屬官ニ昇リ屬官ノ年資ヲ經タル者ハ進テ奏任ニ列ス是レ試験法ナキノ致ス所ニ由ル今既ニ試験法ヲ定ムルトキハ凡ソ奏任ノ官ハ必ス高等試験ヲ經ル者ニ限リ屬官ノ年勞ヲ積ム者ハ漸クニ其俸給ヲ増シ奏任初等官即現七ト相匹等セシムルコトヲ得ヘシ其陞テ奏任トナスニ至テハ必異常功績アリテ大臣ヨリ狀ヲ具ヘ奏請シ又ハ高等試験ヲ經ル者ニ限ルヘシ此皆冗濫ヲ防クノ道ナリ
 明治四年ニ官等ヲ定メテ以來俸給ヲシテ官等ト相配當セシメテオヲ使フノ道ヲ狹限シタリ今之ヲ改正シ凡ソ何ノ官ヲ論セス試験ニ由テ進ム者ハ各官簡ニ從ヒ各ノ數等俸ヲ定メ次第ニ陞テ增俸ヲ得セシムヘシ本項俸給ニ關スル規則ハ追テ閣議ノ後裁可ヲ經テ公布スル所アルヘシ

二 選叙ノ事

選叙ノ法未ク定マラスシテ人各ノ知ル所ヲ擧ク而シテ成學ノ士或ハ其進ム所ヲ失フ此レ皆制度ノ未ク備ラサル者ニシテ勢ノ免レサル所ナリ今官制一タヒ定マリ官任限アルニ及テ選叙ノ法仍ホ設ケサルトキハ情弊ノ至ル所其失ニ堪ヘス而シテ行政部局其人ヲ得ルニ由ナカラントス
 選叙ノ法ヲ行フニハ事創始ニ屬スルヲ以テ其規則節目ノ詳ナルハ委員ヲシテ審査セシメ閣議ヲ經ルノ後成案トナシ裁可ヲ請フヘシ今其大要ヲ擧ケテ以テ標準ヲ示ス

第一 仕進ハ試験ニ由ラシムル事

第二 試験ニ學術試験ト普通試験ヲ分ツ事

第三 學術試験ニ初等試験ト高等試験ヲ分ツ事

第四 學術試験普通試験ノ外ニ專科試験ヲ設クル事 會計官吏ハ記簿法ヲ試験シ外務官吏ハ外國語ヲ試験シ其他技術ヲ試験スルノ類

第五 試験人ハ定リタル試験科目ノ外ニ隨意ニ其學ヲ所ノ專門學ノ試験ヲ受クルコトヲ得セシメ試験委員ニ於テ他ノ科目ト斟酌シテ之ヲ採取シ其優等ナル者ハ別ニ優等証ヲ付シ以テオヲ試ミルニ遺漏ナカラシムル事

第六 内閣中ニ試験委員ヲ設クル事

第七 各省ニ許可ヲ得テ設クル專科試験法ハ試験委員ト各省大臣トノ間ニ叶議制定セシムル事

第八 試験ニ依リ進ムヘキ官吏ノ出身ハ年齡性行健全才能ノ四件ヲ合セテ共ニ試験委員ノ審査ヲ經然ル後選用スル事

第九 學術試験合格者ハ一定ノ期限内試補トナシ事務ヲ見習シメ又ハ候補辦ニ登記スル事

第十 現勤判任官ヨリ奏任ニ昇ル者ハ少クトモ初等學術試験ヲ經セシムル事

第十一 判任ノ欠官又ハ需要アルトキハ普通試験ヲ行ヒ選用スル事

第十二 現勤等外及雇ヨリ等内官又ハ本官ニ任スル者其判任官ハ皆普通試験ヲ經セシムル事 但特ニ一藝アル者ハ選用ヲ許ス

第十三 現勤判任及准奏判任御用掛屬等外官ニシテ學術試験ヲ請フ者ハ其情願ニ任スル事

第十四 試験委員ノ紀律ヲ嚴ニシ其公正ヲ保タシムル事

第十五 地方ノ屬官ヲ試験スルハ別段ノ方法ニ依ル事

右ハ其概略ノ目的ヲ定ムル者ニシテ之ヲ實行スルニ至テハ更ニ委員ヲ命シ精確ノ審査ヲ經セシメントス

三 繁文ヲ省ク事

維新ノ後舊ヲ變シ新ニ就クノ際下司ノ上司ニ稟請シ命ヲ得テ始メテ施行スルヲ例トシ細大多端往復續ルカ如ク相因テ一ノ慣習ヲ成シ一令出ルニトニ疑問百出經伺ノ文辦積テ堆ヲ爲シ往々半年或ハ一年ニシテ始メテ定マル此レ從前各省

及太政官ノ事務繁劇官吏冗多ナル所以ニシテ始メハ已ムヲ得サルノ勢ニ出テ終リニ因習ノ弊ニ墮ヘサル者ナリ文書繁多ノ弊ハ

第一 事務ヲ淹滞シテ疏通便捷ナラサラシメ公私ノ障害タリ

第二 官吏ヲ冗多ナラシム

第三 一部ヲ擔任スルノ官僚ヲシテ文書ニ倚賴シテ責任ノ意ヲ輕カラシム
今此弊ヲ除カントセハ左ノ方法ニ依ルヘシ

第一 凡ソ布告ノ法律ハ疑問ナカラシムル爲ニ其説明ヲ要スル者ハ可成説明書ヲ附シ各官廳ニ達スル事

第二 府縣長官及其他一局部ノ長タル者ハ法律命令ヲ施行スルニ付テ其明文アル者ニ付經同シテ指令ヲ請フコトヲ得
ス其明文ナキ者モ實際ノ事務ヲ延滞セサラシムル爲ニハ法律ノ精神ニ由リ處分施行スルヲ以テ當然トナス事
其他公文ノ底滞シテ或ハ歲月ヲ經過シ緩慢ニシテ故活ナラサルハ施政ノ大弊ニシテ公私ノ病患此レヨリ大ナルハナシ
今此ヲ救フノ要領ハ左ノ數點ニ外ナラサルヘシ

第一 文書交付往復ノ程限ヲ設ケ事ノ輕重緩急ニ從ヒ相當ノ期日ヲ定メ替滞ヲ以テ過失トシ主任ノ官吏其責ニ任セシムル事

第二 事務ノ各局課ニ關涉スル者ハ各局課ノ間或ハ會議法ヲ設ケ或ハ主任官互ニ面議ヲ行ヒ議決ノ即時ニ捺印シ從前ノ回覽往ニ換ヘ異議附屬ノ煩ヲ除ク事

第三 文書ニ記録ノ要用ト不要トヲ分テ其不要ナル者ハ件銘日時ヲ日記ニ登錄スルニ止メ原文ノ謄寫ヲナサスル事

第四 各局長ハ每週一次又ハ二次其局ノ文書往復ノ簿冊ヲ査閱シ替滞ヲ檢明シ各省次官ハ毎月一次又ハ二次其省ノ文書往復ノ簿冊ヲ査閱シ替滞ヲ檢明スルノ類ノ方法ヲ行フ事

第五 各局長以下ハ大臣又ハ次官ノ命ナクシテ定期ノ外交書ヲ留置クノ權ナキ事
以上ハ其大概ヲ略說スルニ止マル者ニシテ其實施ノ順序節目ニ至テハ固ヨリ各省ノ便宜ニ應ジ各省大臣其規程ヲ設ク

ルノ權内ニ在ル者タリ但タ此事各省ノ整理ニ關シ可成均一ヲ要スルヲ以テ茲ニ之ヲ提擧シテ以テ標準ヲ示ス

四 元費ヲ節スル事

凡ソ行政官務整頓廢雜ナルノ國ハ其經費必節省ナラサルハナシ蓋富強ノ道ハ多費ニ在ラスシテ施ス所其實ヲ務メ緩急其要ヲ得テ以テ成效ヲ永久ニ期スルニ在リ維新以來撤出ノ歳ヲ逐テ増加スルハ内外政務ノ多端ナル實ニ已ムコトヲ得サルニ由ルト雖モ明治六年ノ會計表ニ據リ此レヲ昨十七年度ノ撤出ト比較スルニ幾ント四分ノ一ヲ増加シタリ又俸給一項ヲ以テ之ヲ言フニ明治六年ノ概數ニ據リ之ヲ十七年度ニ比較スルニ即チ十分ノ六ヲ増加シ又九十年年度ノ概數ニ據リ之ヲ十六七年度ニ比較スルニ即チ三分ノ一ヲ増加シタリ實務ノ舉カル所成果ノ得ル所未タ經費ノ遞増ト相比例スルニ至ラス今宜シク務メテ制減ヲ行ヒ各省ノ定額ハ内閣ニ於テ事物ノ緩急ヲ料リ之ヲ總判畫定シ越ユヘカラサルノ限ヲ爲シ各省大臣ハ全局ノ平衡ヲ顧ミ以テ各々其省ノ費用ヲ節省スヘシ

奏任以上ハ官ニ定員アリ判任以下ハ各省大臣定額俸給項内ニ於テ便宜ニ使用スルコトヲ得令變更ノ際一タヒ節減ヲ行ヒ更ニ永久ニ繼續シテ濫弊ヲ防制スル爲ニ各省院府縣廳ハ毎月官吏ノ員數并俸給ヲ統計シ翌月十日迄ニ之ヲ検査院ニ報告セシメ検査院ニ於テ其制ヲ踰工限ニ過ル者ヲ檢出シタルトキハ内閣總理大臣ニ上申シテ處分ヲ請ハシムヘシ
検査院ハ單ニ會計出入ノ検査ニ止マルノミナラス需費ノ成績ニ就テ事業ノ得失ヲ察シ各廳内部ノ處務ニ注目シ務メテ儉省確實ノ方法ヲ計畫シテ内閣ニ提出シ以テ行政各部ノ注意ヲ促スコトヲ得セシムヘシ
各省ノ事務互相重複スル者ハ閣議ヲ經テ其一ヲ減省スヘシ

五 規律ヲ嚴ニスル事

官吏ノ品格ハ實ニ政府ノ威信ニ係リ官吏ノ忠慎慎密勤勉清廉ハ政務ノ得失ニ於テ密接ノ關係ヲ相爲ス此レ宜シク其規律ヲ嚴ニシ秩序ヲ正シクシ一ハ以テ官務ヲ整理シ一ハ以テ忠順廉潔ノ風ヲ維持セサルヘカラス九年ニ官吏懲戒例ヲ設ケテ而シテ監督審理ノ方法備ラス未タ具文ノ法タルコトヲ免レス將來懲戒裁判ヲ設ケ懲戒及罷免ノ規則ヲ定メ以テ官紀ヲ肅シ且以テ官吏ノ位置面目ヲ保護スルコト實ニ止ムヘカラサルノ必要タリ但タ此事他ノ官制ノ細目ト相關係スル

ヲ以テ現時未ク舉行シ易カラサル者アリ抑モ官吏ノ規律ヲ振リ其品格ヲ保ツハ以テ一日モ緩慢ニ付スヘカラス各省大臣ニ在リテ宜シク
 留意ヲ奉體シ各其權内ニ於テ振勵監督シ凡ソ官吏忠順誠實ノ大義ニ乖キ法律ヲ恪守セス機事ニ慎重ナラス務ヲ執テ勤
 勉ナラサル者其情狀ニ從ヒ之ヲ告戒懲責シ或ハ之ヲ懲罰スヘク贈遊ノ禁ハ細大ニ及ホシ職務曠廢ノ戒メハ其有意無心
 ナラハス老朽務メニ堪ヘサル者ハ其官ヲ退カシムヘク務メテ核實嚴明ニシテ効力アルコトヲ要スヘシ其規則ニ涉ル者
 ハ更ニ裁ヲ經テ制定スル所アルヘシ

●外務省官制沿革要領

明治元年二月五日布告ヲ以テ三職八局ヲ定メ外國事務局ヲ置キ職制ヲ定ム○同年閏四月二十七日布告外國事務局ヲ
 廢シ外國官ヲ置キ職制ヲ定ム○二年二月廿二日布告齋開港場ニ通商司ヲ置ク○同年五月十六日通商司ヲ會計官ニ附
 屬ス○同年七月八日布告ヲ以テ外國官ヲ廢シ外務省ヲ置キ職制並官位相當ヲ定ム○同月二十日官位相當ヲ改ム○三
 年五月七日布告外務省中ニ文書局ヲ置ク○同年閏十月二日布告外務省中大中少辨務使正權大少記ヲ置ク○四年八月
 十日布告外務省官制等級ヲ改定ス○同年十一月五日布告ヲ以テ外務省中總領事領事副領事ヲ置ク○五年四月
 第十六號布告外務省官等ヲ改定ス○同年十月第三百八號布告ヲ以テ外務省中大中少辨務使大少記等ヲ廢シ特命全權
 公使辦理公使代理公使書記官ヲ置ク○同月第三百二十六號布告ヲ以テ外務省中書記生ヲ置ク○六年二月第六十六號
 布告ヲ以テ外務省中代領事ヲ廢ス○九年五月第四十九號達ヲ以テ外務省職制章程ヲ定ム○十年九月第六十六號達ヲ
 以テ外務省中總領事領事副領事ノ官等ヲ改定ス○十二年十二月第四十六號達ヲ以テ外務省中三等書記官三等書記生
 ヲ置キ書記見習ヲ廢ス○十三年第六十號達ヲ以テ外務省職制章程ヲ改定ス○十四年第七十三號達ヲ以テ一等以下三
 等書記官及書記生ヲ廢シ更ニ書記官書記生ヲ置ク○同年十一月領事ノ官等ヲ改定ス○十五年三月第十九號達ヲ以テ
 特命全權公使ノ官等ヲ改正ス○十八年八月翻譯局ヲ置キ外務省ニ屬シ法律規則等ヲ外國語ニ翻譯發布ノトキ檢閱セ

シム○同年十二月第六十九號ヲ以テ大政大臣以下諸省ノ卿ノ職制ヲ廢シ各省大臣ヲ置キ總理大臣及諸省大臣ヲ以テ
 内閣ヲ組織ス○十九年二月勅令第二號ヲ以テ外務省官制ヲ頒布ス○同年三月勅令第五號ヲ以テ交際官及領事ノ官制
 ヲ定ム○二十年七月勅令第三十一號ヲ以テ前令第一條中ヲ改正ス

第十三 外務省官制 明治十九年二月二十六日(同二十七日公布) 勅令第二號各省官制ノ内

外務省

- 第一條 外務大臣ハ外國ニ對スル政略ノ施行及外國ニ於ケル我國貿易ノ保護ニ關スル事務ヲ管理シ交際官及領事ヲ監督ス
- 第二條 外務大臣官房ニ秘書官二人ヲ置ク
- 第三條 外務省ニ翻譯官五人ヲ置ク奏任トス
- 第四條 外務省總務局ニ書記官四人ヲ置キ通則ニ掲グルモノ、外政務課人事課及電信課ヲ置ク
- 第五條 政務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、政務ニ關スル訓令書及往復通信書ノ起案
 - 二、條約ノ施行及注釋ニ關スル事項
 - 三、在外我國臣民ニ關スル事項及外國旅行券ニ關スル事項
 - 四、外國臣民ノ携帶スヘキ内地旅行免狀ニ關スル事項
 - 五、交際官及領事ノ任免黜陟ニ關スル事項

六、交際官ノ委任狀赴任及再任國書解任狀及御親翰ニ關スル事項

第六條 人事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、外國交際官ノ謁見及其禮遇ニ關スル事項

二、本邦ニ駐劄スル外國交際官並領事ノ氏名爵位勳等及其赴任就職解任ノ年月日ヲ名簿ニ詳記シ及外國官吏並人民ノ叙勳ニ關スル事項

三、本邦ニ駐在スル各國領事ノ認可狀ニ關スル事項

第七條 電信課ニ於テハ省中ヨリ發送シ及省中ニ接受スル一切ノ電信ヲ取扱フ

通常電信ノ往復ハ課長ノ見込ニ依リ其課員ヲシテ處理セシムルコトヲ得ヘント雖モ暗號電信ノ往復ハ課長自ラ之ヲ取扱フヘシ

第八條 外務省參事官ハ無任所外交官ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 外務省中左ノ諸局ヲ置ク

通商局

取調局

翻譯局

記錄局

會計局

第十條 通商局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、通商航海條約ノ締結ニ關スル事項

二、領事權限ニ關スル事項

三、萬國ニ關涉スル電信郵便

四、前數項ニ關シ在外交際官領事及主務ノ各省ト商議スル事

五、外國ニ於ケル我國ノ貿易ニ關スル事項

六、領事管掌ノ事務施行ニ關スル事項

七、領事館ニ於テ徵收スヘキ手数料ニ關スル事項

八、領事ノ委任及解任ニ關スル事項

第十一條 取調局ニ第一課及第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十二條 第一課ニ於テハ萬國公法ニ關スル事項ヲ審按シ第二課ニ於テハ萬國私法ニ關スル事項ヲ審按ス

ル事項ヲ審按ス

第十三條 第一課及第二課ニ於テ審按ヲ要スル事項ハ大臣ノ時々指命スル所ニ依ル

第十四條 翻譯局ニ於テハ法律命令ノ發布アル毎ニ之ヲ外國文ニ翻譯シ又ハ本省ノ公文ヲ

國文若クハ外國文ニ翻譯スル事ヲ掌ル

第十五條 會計局ハ通則ニ掲グルモノ、外在外公使館及領事館ノ豫算並決算ノ事ヲ掌ル

第十六條 記錄局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、條約書國書及外交往復ノ文書ヲ保存スル事

二、本省各局課ノ文書ヲ編纂シ其事類ヲ分ツ事
三、事件ノ交錯シ若クハ記録ノ浩瀚ニ涉ルモノハ毎件提要書ヲ作り参照ニ便ナラシムル事

四、公使及領事ノ報告ヲ編纂シ及之ヲ公刊スル事

五、本省所屬ノ内外圖書書籍ヲ保存シ其目錄ヲ製スル事

六、文書圖書書籍出入ノ規定ヲ設クル事

〔一〕交際官及領事官制 明治十九年三月十七日公布
勅令第五號

朕交際官及領事官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年三月十六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
外務大臣伯爵井上 馨

勅令第五號

交際官及領事官制

第一條 交際官ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ

特命全權公使 勅任一等

辦理公使 勅任二等

代理公使 奏任一等

公使館參事官 奏任一等

公使館書記官 奏任二等三等四等五等二十年七月十一日同十二日公布
勅令第三十一號ヲ以テ本項ヲ改正ス

交際官試補 奏任五等六等

第二條 各公使館ニ書記生ヲ置ク判任トス專ラ公使館會計ノ事務ニ從事セシム

第三條 交際官ノ未タ任所ヲ命セラレサルモノハ無任所外交官トシテ外務省ニ出任シ外務大臣ノ指命スル所ニ就キ省務ニ従事ス

無任所外交官ハ公使五人參事官書記官交際官試補十六人ヲ超過スルコトヲ得ス

第四條 領事ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ

總領事 奏任一等

領事 奏任二等三等四等

副領事 奏任五等六等

領事館書記生 判任

第五條 領事ヲ置カサルノ地ニ於テハ便宜貿易事務官ヲ置クコトヲ得

貿易事務官ハ奏任三等以下トス

●内務省官制沿革要領

明治六年十一月第三百七十五號布告ヲ以テ内務省ヲ置ク○七年一月第一號布告ヲ以テ内務省中勸業警察保戸籍醫藥土

木地理ノ六寮及測量司ヲ置ク○同年八月測量司ヲ廢シ其事務ヲ地理寮ニ付ス○八年六月第百十二號布告ヲ以テ文部省管理衛生准刻ノ事務ヲ内務省ノ管理ニ付ス○同年九月第百六十七號達ヲ以テ地理寮中地誌課ヲ正院(附シ修史局)ニ合併ス○同月第百四十七號布告ヲ以テ内務省中圖書寮ヲ置ク○同年十一月第百七十七號布告ヲ以テ驛遞寮ヲ一等警保寮ヲ二等ニ改ム○同年十二月第百二十七號ヲ以テ十一月廿五日内務省職制章程改正ノ旨ヲ達ス○九年四月第百五十一號布告ヲ以テ戶籍警保圖書ノ三寮ヲ廢ス○十年一月第百四號布告ヲ以テ教部省東京警視廳ヲ廢シ其事務ヲ内務省ニ付ス○同月第三號達ヲ以テ各省中諸寮ヲ廢シ從前ノ事務ハ各省長官ノ見込ヲ以テ適宜ニ局ヲ置キ取扱ハシム○同月第七號達ヲ以テ東京府警察事務ハ内務省大警視ヲシテ直轄執行セシム○同月第十五號達ヲ以テ内務省中警視官ヲ置ク○同月内務省第一號達ヲ以テ省中局課ヲ廢置改稱ス○同年二月第三十一號達ヲ以テ郵便取扱役ノ等級ヲ改定ス○同年十一月第百八十三號達ヲ以テ警部ノ官等ヲ改ム○十一年二月第六號達ヲ以テ内務省中陵墓事務ヲ宮内省ヘ屬ス○同年四月第十二號達ヲ以テ警視局大警視以下ヲ廢シ更ニ警視以下ヲ置ク○同年九月内務省第七百五十九號達ヲ以テ取調局ヲ設置ス○十二年四月第十七號達ヲ以テ東京府下南葛飾郡小菅村宮城縣下宮城郡小泉村ヘ集治監ヲ置キ獄司以下ヲ置キ内務省ニ直轄セシム○同月第十九號達ヲ以テ前達中三等官長以下ヲ増設シ官等ヲ定ム○同年五月第十二十一號省達ヲ以テ省中ニ山林局ヲ置ク○同年七月第三十八號省達ヲ以テ監獄局ヲ置ク○同月二十二日達ヲ以テ内務省中ニ中央衛生會ヲ開設ス○同年十二月第五十號達ヲ以テ中央衛生會職制事務章程ヲ定ム○十三年三月第二十三號達ヲ以テ内務省中驛遞官ヲ置ク○同年四月第二十四號達ヲ以テ驛遞官職制ヲ定ム○同月第二十七號達ヲ以テ中央衛生會職制中ヲ改正ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ内務省職制並事務章程ヲ改定ス○同月第六十七號達ヲ以テ前令中追加ス○十四年一月第一號達ヲ以テ内務省中警視官ヲ廢シ警視局ヲ警保局ト改稱ス○同年三月第十四號達ヲ以テ集治監獄司以下ノ官等俸給ヲ改定ス○同月第十九號達ヲ以テ集治監職制ヲ定ム○同月第二十六號ヲ以テ農商務省設置ニ付内務省中ノ諸局管理替並廢止等ノ旨ヲ達ス○同年六月第五十九號達ヲ以テ地租改正事務局ヲ廢シ農務ハ大藏省ニテ取扱ハシム○同年八月第七十號達ヲ以テ開拓使管下石狩國樺戶郡ヘ已決監ヲ設置シ樺戶集治監ト稱シ

内務省ノ直轄トス○十五年六月第三十六號達ヲ以テ札幌縣下石狩國空知郡市來知村ヘ已決監ヲ設ケ空知集治監ト稱シ内務省ニ直轄セシム○十七年一月内務省第七百五號達ヲ以テ取調局ヲ廢ス○同年七月第六十二號達ヲ以テ兵庫縣下兵庫ニ假留監ヲ設置シ内務省ノ直轄トシ東京宮城三池ノ集治監中ニ假留監ヲ附設ス○同月第六十三號達ヲ以テ假留監ニ典獄以下ノ職員ヲ置キ官等俸給職制ヲ定ム○十八年九月第五十一號達ヲ以テ北海道釧路國川上郡ニ已決監ヲ設置シ釧路集治監ト稱ス○十八年十二月第六十九號ヲ以テ諸省卿ノ職制ヲ廢シ諸省大臣ヲ置キ總理大臣諸省大臣ヲ以テ内閣ヲ組織ス○十九年二月勅令第二號ヲ以テ内務省官制ヲ頒ツ○同月内務省令第十三號ヲ以テ土木監督官官制ヲ定ム○同年十一月勅令第六十九號ヲ以テ中央衛生會官制ヲ定ム○同年十二月勅令第七十七號ヲ以テ集治監官制ヲ定ム○二十年六月第十七號勅令ヲ以テ衛生試驗所官制ヲ定ム○同年十二月勅令第六十八號ヲ以テ造神宮使廳官制ヲ定ム○二十一年十二月勅令第八十二號ヲ以テ内務省官制第二十四條第二十七條ヲ改正ス

第十四 内務省官制

明治十九年二月二十六日(同二十七日公布) 勅令第二號各省官制ノ内

内務省

- 第一條 内務大臣ハ地方行政警察監獄土木衛生地理社寺出版版權戶籍賑恤救濟ニ關スル事務ヲ管理シ中央衛生會警視總監及地方官ヲ監督ス
- 第二條 内務大臣官房ニ秘書官二人ヲ置ク
- 第三條 内務省總務局ニ書記官五人ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外戶籍課及圖書課ヲ置ク
- 第四條 戶籍課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、戶口調査ニ關スル事項
 - 二、民籍ニ關スル事項

三、内外国人轉籍ニ關スル事項

四、恩給ニ關スル事項

五、奇特者賞與ニ關スル事項

第五條 圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、圖書ノ出版及版權ニ關スル事項

二、圖書保存ノ事

三、外國文書翻譯ノ事

第六條 内務省參事官ハ八人ヲ以テ定員トス

第七條 内務省ニ監獄巡閱官ヲ置キ參事官ヲ以テ之ヲ兼ネシメ監獄巡察ノ事ニ從ハシム

第八條 内務省中左ノ諸局ヲ置ク

縣治局

警保局

土木局

衛生局

地理局

社寺局

會計局

第九條 縣治局ニ府縣課郡區課及地方費課ヲ置キ共事務ヲ分掌セシム

第十條 府縣課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、府縣會ニ關スル事項

二、地方税賦課徵收及支出ニ關スル事項

三、地方税經濟ニ屬スル財産ニ關スル事項

四、賑恤救濟ニ關スル事項

五、地方行政事務ニシテ他ノ主管ニ屬セサル事項

第十一條 郡區課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、區町村會水利土功會ニ關スル事項

二、區町村費賦課徵收及支出ニ關スル事項

三、區町村共有物ニ關スル事項

四、徵發ニ關スル事項

五、行旅病人及行倒人ニ關スル事項

第十二條 地方費課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、府縣官郡區長俸給ニ關スル事項

二、府縣廳費ノ支辨ニ關スル事項

三、府縣廳舍建築修繕ニ關スル事項

- 四、備荒儲蓄ニ關スル事項
- 五、賦金ノ賦課徵收ニ關スル事項
- 第十三條 警保局ニ警務課保安課及監獄課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十四條 警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、行政警察ニ關スル事項
 - 二、警察ニ關スル府縣ノ成規及其施行ニ關スル事項
 - 三、警察官吏ノ職務ニ關スル事項
 - 四、警察署ニ關スル事項
 - 五、警察費ニ關スル事項
 - 六、警察上ノ褒賞及吊祭扶助療治料給與ニ關スル報告ノ事
- 第十五條 保安課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、新聞紙雜誌雜報等ノ檢閲並發行ニ關スル事項
 - 二、政治風俗ニ關スル圖書檢閲ノ事
 - 三、政治ニ關スル結社集會ノ事項
- 第十六條 監獄課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、監獄ノ管理ニ關スル事項
 - 二、監獄官吏ノ職務ニ關スル事項

- 三、監獄費ニ關スル事項
- 四、監獄建築ニ關スル事項
- 五、囚徒押送並發遣ノ事
- 六、囚徒假出獄ニ關スル事項
- 第十七條 土木局ニ治水課道路課及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十八條 治水課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、本省直轄ノ河川堤防港灣等ノ工事ニ關スル事項
 - 二、府縣ノ經營ニ屬スル河川堤防港灣等ノ工事ヲ監督スル事
- 第十九條 道路課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、本省直轄ノ道路橋梁等ノ工事ニ關スル事項
 - 二、府縣ノ經營ニ屬スル道路橋梁等ノ工事ヲ監督スル事
- 第二十條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、直轄工事ノ費用豫算決算並出納ニ關スル事項
 - 二、府縣ノ工事ニ付官費補助其他費用ニ關スル事項
- 第二十一條 衛生局ニ衛生課及醫務課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二十二條 衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、傳染病地方病豫防ニ關スル事項

- 二、檢疫停船規則施行ニ關スル事項
 - 三、住所飲食並職業ニ關スル公衆衛生ノ事項
 - 四、種痘及檢徽ニ關スル事項
 - 五、人體ノ衛生ニ關スル獸畜病豫防ノ事項
 - 六、地方衛生會ニ關スル事項
 - 七、貧民施療ニ關スル事項
- 第二十三條 醫務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、醫師藥劑師產婆ノ業務ニ關スル事項
 - 二、地方病院ニ關スル事項
 - 三、藥品並賣藥取締ニ關スル事項
 - 四、屍體解剖ニ關スル事項
 - 五、鑛泉取締ニ關スル事項
- 第二十四條 地理局ニ地籍課地誌課氣象課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
第百十二號ヲ以テ本條ヲ改正ス
 日二十一年十二月十八日同十九日布告勅令
- 第二十五條 地籍課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、地籍調整ニ關スル事項
 - 二、官有地管理ニ關スル事項

- 三、公用土地買上ニ關スル事項
 - 四、地所名稱並地種目變換ニ關スル事項
 - 五、官民有未定地及社寺地處分ニ關スル事項
 - 六、舊跡名所公園地等ニ關スル事項
 - 七、外國人居留地地所ニ關スル事項
 - 八、海面區域並水面埋立ニ關スル事項
 - 九、土石掘採ニ關スル事項
 - 十、官有地生産物ニ關スル事項
- 第二十六條 地誌課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、地誌編纂ノ事
 - 二、地圖調製ノ事
- 第二十七條 氣象課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
同上勅令ヲ以テ本條ヲ改正ス
- 一、氣象觀測ニ關スル事項
 - 二、氣象報告ニ關スル事項
 - 三、海陸氣象ニ關スル事項
 - 四、氣象觀測器械檢査ニ關スル事項
 - 五、天氣豫報ニ關スル事項

- 六、暴風警報ニ關スル事項
- 七、地震驗測ニ關スル事項
- 八、地磁氣驗測ニ關スル事項
- 九、空中電氣驗測ニ關スル事項
- 第二十八條 社寺局ニ神社課及寺院課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二十九條 神社課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、神宮及官國幣社ニ關スル事項
 - 二、神社社格及明細帳ニ關スル事項
 - 三、官社並招魂社ノ經費營繕等ニ關スル事項
 - 四、古社保存並神社財産ニ關スル事項
 - 五、神道各派ノ教規等ニ關スル事項
- 第三十條 寺院課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一、寺院明細帳ニ關スル事項
 - 二、古寺保存並寺院財産ニ關スル事項
 - 三、佛道各宗ノ宗制等ニ關スル事項
- 第三十一條 會計局ハ通則ニ據クルモノ、外本省所轄ニ屬スル廳府縣等ノ豫算並決算ノ事ヲ掌ル

〔一〕中央衛生會官制

明治十九年十一月六日公布
勅令第六十九號

朕中央衛生會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年十一月四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
內務大臣伯爵山縣有朋

勅令第六十九號

中央衛生會官制

- 第一條 中央衛生會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ各省大臣ノ諮詢ニ應シ公衆衛生獸畜衛生ニ關シテ意見ヲ述ヘ及其施行方法ヲ審議ス
- 第二條 中央衛生會ハ各省主管事務中衛生ニ關スル事項ニ就テハ其主任大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第三條 中央衛生會ハ衛生各般ノ事項ヲ警視總監北海道廳長官及府縣知事ニ尋問シ或ハ臨時會員ヲ各地方ニ派遣シテ檢察セシムルコトヲ得
- 第四條 中央衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ內務大臣ノ認可ヲ請フヘシ
- 第五條 中央衛生會ニ職員ヲ設クルコト左ノ如シ
 - 會長 內務次官ヲ以テ之ニ充ツ
 - 委員 左ノ各官ヲ以テ之ニ充ツ

陸軍省醫務局長

海軍省衛生部長

宮内省待醫局長官

帝國大學醫科大學長

警視總監

東京府知事

内務省衛生局長

内務省警保局長

内務省參事官 二人

其他醫師七人獸醫二人及化學家二人ヲ以テ委員トス

臨時委員

幹事 内務省衛生局長ヲ以テ之ニ充ツ

書記

第六條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ内務大臣及主任大臣

ニ具申ス

第七條 會長事故アルトキハ開會當日ノ上席人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

第八條 委員中醫師獸醫化學家内務省參事官及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ

於テ之ヲ命ス

第九條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第十條 書記ハ判任トシ會長之ヲ任免ス上官ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文書算計ニ從

事ス

二二 集治監官制

明治十九年十二月二日公布
勅令第七十七號

朕集治監官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御 璽

明治十九年十二月一日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋

勅令第七十七號

集治監官制

第一條 集治監ニ左ノ職員ヲ置ク

典獄

副典獄

書記

看守長

監獄醫

第二條 典獄一人奏任三等又ハ四等トス内務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ監獄ノ事務ヲ管理ス
第三條 典獄ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ判任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第四條 典獄ハ内務大臣ニ具狀シテ判任官ノ定員ヲ設ケ及ヒ臨時ノ須要ニ由リ判任官定員ノ外ニ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第五條 典獄ハ每會計年度末ニ於テ判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時須要ニ由リ使用シタル雇員ノ日數及ヒ金額ヲ細分統計シ内務大臣ニ報告スヘシ

第六條 典獄ハ一周年末ニ其監ノ豫算定額内ニ於テ判任官以下特別勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其判任官ニ係ルモノハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

第七條 典獄ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所屬官吏ヲ懲戒ス其判任官ニ係ルモノハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第八條 典獄ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第九條 副典獄一人判任一等トス典獄ノ事務ヲ佐ク典獄事故アルトキハ内務大臣ノ命ニ依リ其事務ヲ代理ス

第十條 書記ハ判任トス二等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ受ケ書記簿記計算ヲ掌ル
第十一條 看守長ハ判任トス二等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ受ケ監獄ヲ戒護シ看守ヲ指揮ス

第十二條 監獄醫ハ判任トス二等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ受ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス
第十三條 看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十四條 築治監ノ事務ヲ分掌スル爲メ庶務課、警守課、工役課、會計課、及ヒ醫務所ヲ置ク
第十五條 各課ニ課長一人醫務所ニ所長一人ヲ置ク

第十六條 課長所長ハ典獄ノ命ヲ受ケ主務ヲ處理ス
第十七條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 諸官廳其他往復文書ノ授受發送ニ關スル事
- 二 監獄ニ係ル公文圖書類ヲ保存スル事
- 三 監獄ノ構造方法ニ關スル事
- 四 囚徒ノ出入ニ關スル事
- 五 囚徒ノ名籍並ニ刑期ヲ調査スル事
- 六 囚徒ノ願訴ニ關スル事
- 七 囚徒ノ貨物領置ニ關スル事
- 八 給與品及ヒ差入品ニ關スル事
- 九 教誨並ニ衛生ニ關スル事
- 十 特赦及ヒ假出獄免幽閉ニ關スル事

- 十一 監獄ニ關スル統計表ヲ調製スル事
 - 十二 監獄ニ係ル事務ニシテ他課ノ主管ニ屬セサル事
- 第十八條 警守課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 囚徒ノ戒護ニ關スル事
 - 二 囚徒ノ書信接見ニ關スル事
 - 三 囚徒ノ疾病死亡逃走ニ關スル事
 - 四 囚徒ノ賞罰ニ關スル事
 - 五 囚徒ノ行狀録ヲ調製スル事
 - 六 囚徒ノ作業ヲ督勵スル事
 - 七 囚徒ノ願訴ヲ受付スル事
- 第十九條 工役課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 工業ニ關スル事
 - 二 服役囚徒ノ科程並ニ工錢ヲ定ムル事
 - 三 工業ニ要スル器具材料ヲ調査スル事
 - 四 製作物品ヲ審査スル事
- 第二十條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 經費ノ豫算決算ニ關スル事

- 二 金錢物品ノ出納ニ關スル事
 - 三 囚徒ノ工錢給與ニ關スル事
 - 四 製作品ノ販賣ニ關スル事
 - 五 監獄一切ノ需用品ヲ供給スル事
 - 六 監獄ノ建物其他ノ財産ヲ保管スル事
- 第二十一條 醫務所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 囚徒ノ疾病診察治療及ヒ藥劑ニ關スル事
- 〔三〕衛生試驗所官制 明治二十年六月一日公布
勅令第十七號
- 朕衛生試驗所ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 御名 御璽

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋

明治二十年五月三十一日

勅令第十七號

衛生試驗所官制

- 第一條 東京大阪横濱ニ衛生試驗所ヲ置ク
- 第二條 衛生試驗所ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ衛生上試驗ニ關スル事項ヲ取扱フ所トス
- 第三條 各衛生試驗所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

所長

技術官

屬

第四條 所長ハ内務技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理ス

第五條 技術官ハ所長ノ指揮ヲ受ケ検査ノ事務ヲ分掌ス

第六條 屬ハ上官ノ指揮ヲ受ケ書記計算等ニ従事ス

第七條 衛生試験所ニ檢明藥劑ノ二部ヲ置キ技術官ヲ以テ部長ニ充ツ

第八條 檢明部ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

一 大氣用水土壤衣服飲食物礦泉等ニ關スル事項

一 警察及裁判醫事ノ化學的ニ關スル事項

第九條 藥劑部ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

一 藥品ノ精粗眞贋及其醫藥用ノ適否ニ關スル事項

〔四〕造神宮使廳官制

明治二十年十二月二十七日公布
勅令第六十八號

朕造神宮使廳ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年十二月二十五日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

内務大臣伯爵山縣有朋

勅令第六十八號

造神宮使廳官制

第一條 造神宮使廳ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ新宮造營及神寶裝束調進ノ事ヲ主掌ス

第二條 造神宮使廳ニ左ノ職員ヲ置ク

造神宮使

造神宮副使

造神宮主事

造神宮屬

第三條 造神宮使ハ一人勅任トス神宮祭主ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廳

中ノ事務ヲ管理ス

第四條 造神宮使ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官ハ之ヲ

專行ス

第五條 造神宮副使ハ一人奏任トス内務省社寺局長ヲ以テ之ニ充ツ造神宮使ノ事務ヲ佐

ケ造神宮使事故アルトキハ内務大臣ノ命ヲ受テ其事務ヲ代理ス

第六條 造神宮主事ハ一人奏任三等以下トス使副使ノ命ヲ承ケ新宮造營神寶裝束等調進

ノ事務ヲ處辨ス

第七條 造神宮屬ハ判任トス上官ノ命ヲ受ケ造營ノ事務ヲ分任シ職工ヲ使役シ記録計算

ヲ掌ル

〔五〕假留監官制ハ集治監官制ニ準據ス 明治十九年十二月一日(同日布告) 閣令第三十三號

假留監官制ハ勅令第七十七號集治監官制ニ準據スヘシ

〔六〕土木監督區署官制 明治十九年七月十二日 閣令第三十三號 沖繩縣ヲ除ク

土木監督區署官制左ノ通定ム

土木監督區署官制

第一條 內務省直轄ノ工事及府縣土木ノ事業ヲ監督スル爲メ全國ヲ分子土木監督區ヲ置ク其區域名稱ハ左ノ如シ

第一區 武藏、上總、下總、常陸、上野、下野、安房、相模、伊豆、駿河、甲斐、遠江、信濃ノ内

第二區 磐城、岩代ノ内、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後

第三區 越後、岩代ノ内、越中、佐渡、能登、加賀、越前、飛騨ノ内、信濃ノ内

第四區 三河、尾張、美濃、信濃ノ内、飛騨ノ内、伊勢、志摩、伊賀、近江、若狹、山城、大和、攝津、河内

和泉、紀伊、丹波、丹後、但馬、播磨

第五區 淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐、備前、備中、備後、安藝、周防、長門、美作、因幡、伯耆、出雲、隱岐

石見

第六區 豐前、豐後、筑前、筑後、肥前、肥後、薩摩、大隅、日向、壹岐、對馬

第二條 土木監督區ニ土木監督署ヲ置キ內務大臣ノ管轄ニ屬シ職員ヲ置クコト左ノ如シ

土木巡視長

土木巡視

土木巡視補

第三條 巡視長ハ一等乃至三等ノ技師ヲ以テ之ニ充ツ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ土木ノ事務ヲ管理ス

第四條 巡視長ハ其管轄部内ヲ巡迴シ府縣土木事業ヲ監視シ其利害得失ヲ精査シ報告書ヲ內務大臣ニ呈出スヘシ

第五條 巡視長ハ內務省直轄ノ河川堤防道路橋梁港灣ニ係ル土功ヲ計畫シ其意見ヲ內務大臣ニ具申スヘシ

第六條 巡視長ハ內務大臣ノ命令ニ依リ特新設工事又ハ既成工事ノ變更等ヲ檢査スルトキハ其意見ヲ內務大臣ニ具申スヘシ

第七條 巡視長ハ內務大臣ノ招集ニ應ジ土木會議ヲ開キ全國土木事業ノ得失ヲ討論スルコトヲ得但會議ノ規則ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第八條 巡視ハ三等乃至六等ノ技師ヲ以テ之ニ充ツ巡視長ノ命ヲ承ケ土木ノ事務ヲ分掌ス

第九條 巡視補ハ技師又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ受ケ庶務及土木ノ事務ニ從事ス

●大藏省官制沿革要領

明治元年二月五日布告會計事務局ヲ置キ職制ヲ定ム○同年閏四月二十一日會計事務局ヲ廢シ會計官ヲ置キ出納用度
驛遞管轄稅銀貨幣民政ノ七司ヲ管セシメ職制ヲ定ム○同月布告前法司及租稅司ヲ置ク○同年七月二十五日布告大坂
銅會所ヲ鑛山局ト改稱ス○二年三月十五日布告前法司ヲ廢ス○同年五月八日會計官職制并條令ヲ定メ造幣局及監督
租稅出納用度管轄鑛山ノ六司ヲ管ス○同月十六日外國官附屬ノ通商司ヲ會計官ニ屬セシム○同年七月八日布告會計
官ヲ廢シ大藏省ヲ置キ職制並官位相當ヲ定メ造幣寮及出納租稅監督通商鑛山ノ五司ヲ管セシム○同年八月十一日租
稅監督通商鑛山ノ四司ヲ民政部省ノ管轄トス○同月十二日布告シテ民政部大藏二省ヲ合ス○同月二十日大藏省官位相當
ヲ改定ス○三年七月十日民政部大藏二省ヲ別チ大藏省ニ出納用度管轄造幣租稅監督ノ六司及度量衡改正掛ヲ管セシム
○同月二十日再ヒ通商司ヲ大藏省ノ管轄トス○同年八月布告ヲ以テ大藏省官制等級ヲ改定ス○四年七月五日布告ヲ
以テ通商司ヲ廢ス○同月二十七日大藏省中監督用度租稅ノ三司ヲ廢シ更ニ租稅勸業統計紙幣戶籍隱遞ノ六司ヲ置ク
○同年八月十日布告ヲ以テ大藏省中造幣租稅戶籍管轄紙幣出納統計檢査記録驛遞勸業ノ諸寮及正算司ヲ置キ官制

等級ヲ改正ス○同年二十三日勸業寮ヲ勸農寮ト改ム○同年十月八日管轄寮ヲ廢シ工部省所管ノ土木寮ニ合併シ大藏省ノ管轄トス○五年六月第八十四號布告ヲ以テ驛遞寮ヲ二等寮トス○同年十月第三十三號布告ヲ以テ勸農寮及正算司ヲ廢ス○六年七月第二百四十八號布告ヲ以テ國債寮ヲ置キ二等寮トス○六年八月第三百二號布告ヲ以テ郵便取扱人ノ等級ヲ設ケ官等ニ準ス○同年十月第三百五十八號布告ヲ以テ記録寮ヲ二等寮ト爲ス○同年十一月第三百六十九號ヲ以テ郵便取扱役ノ等級ヲ増置シ等外吏ニ準ス○七年一月九日大藏省ニ令シテ戶籍土木驛遞ノ三寮及租稅寮中地理勸農ノ事務ヲ内務省ニ引渡サシム○同年九月第三十八號達ヲ以テ内務大藏兩省ノ間ニ地租改正事務局ヲ置キ地租改正ニ關スル事務ヲ取扱ハシム○同年九月第五十六號達ヲ以テ正院中印書局ヲ大藏省ニ屬ス○同月第六十五號達ヲ以テ造幣寮技術等級ヲ定ム○同年十一月第八十八號達ヲ以テ出納寮ニ納金局ヲ置ク○同年十二月第十七號達ヲ以テ大藏省職制章程ヲ改正ス○九年二月第二十三號達ヲ以テ納金局ヲ現金納拂局ト改稱ス○同年十二月第十六號達ヲ以テ職制中ヲ改正ス○十年一月第三號達ヲ以テ各省中諸寮ヲ廢シ從前ノ事務ハ各省長官ノ見込ヲ以テ適宜ニ局ヲ設ケ事務ヲ分掌セシム○同月大藏省シ第四號達ヲ以テ省中更ニ九局ヲ設置ス○同年二月第二十三號達ヲ以テ造幣局技術官等給ヲ定ム○同年五月第四十二號達ヲ以テ監更監補ヲ置キ官等月俸ヲ定ム○十一月六月省達シ第七號ヲ以テ省中ニ常平局ヲ設置ス○同年十月第四十四號達ヲ以テ大藏省中ニ鑑定役同見習ヲ置キ月俸ヲ定ム○同年十二月第四十九號達ヲ以テ大藏省一等監更補以下ノ官等ヲ改定ス○同月第七十六號省達ヲ以テ紙幣局ヲ印刷局ト改稱ス○十二年一月大藏省達シ第一號ヲ以テ省中ニ前務局ヲ置キ從前内務省勸農局ノ事務ヲ扱ハシム○十二年十二月大藏省達シ第四十六號ヲ以テ議案課ヲ廢シ更ニ書記課案ノ兩局ヲ置ク○十三年三月第十八號達ヲ以テ太政官中ニ會計檢査院ヲ設置シ大藏省中檢査局ヲ廢ス○同年三月大藏省シ第十號達ヲ以テ精算課ヲ設置シ事務取扱方ヲ定ム○同年五月第七號省達ヲ以テ銀行課ヲ廢シ更ニ銀行局ヲ置ク○同年六月省達シ第二十五號ヲ以テ精算局ヲ調查局ト改稱ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ大藏省職制并事務章程ヲ改定ス○十四年四月第二十六號ヲ以テ農商務省ヲ設置シ付大藏省中諸局ノ管理換ヲ達ス○同年六月第五十七號達ヲ以テ大藏省中會計局ヲ置ク○同月第五十九號達ヲ以テ地租改正事務局ヲ廢シ其職務ヲ大藏省ニ於テ扱ハシム○十五年五月第三十號

達ヲ以テ大藏省中技術官等級并月給表ヲ定ム○同年十一月省達第四十三號ヲ以テ常平局ヲ廢シ庶務局ヲ置ク○十五年五月八日省達ヲ以テ庶務局ヲ廢止ス○同月第四十五號達ヲ以テ大藏省中主稅官ヲ置キ職制ヲ定メ十年第四十三號達ヲ廢止ス○同月第四十九號達ヲ以テ大藏省職制中追加ス○同月大藏省達第三十二號ヲ以テ租稅局ヲ置キ租稅關稅兩局并租稅局出張所ヲ廢止ス○十八年五月第十三號布告ヲ以テ大藏省ニ預金局ヲ置キ貯金積立金ヲ預リ保管利殖ノヲ扱ハシム○同年十一月大藏省第七十三號達ヲ以テ國債局ヲ書記局庶務課ト改稱ス○同年十二月第六十九號達ヲ以テ太政大臣以下諸省卿ノ職制ヲ廢シ諸省大臣ヲ置キ總理大臣諸省大臣ヲ以テ内閣ヲ組織ス○十九年一月内閣達第一號ヲ以テ三池佐渡生野鐵山ノ事務ヲ大藏省ノ管轄ニ付ス○同月大藏省達第三號ヲ以テ三池佐渡生野鐵山ニ各工業所ヲ置ク○同月大藏省達第四號ヲ以テ省中ニ官房及金庫局ヲ置キ議案局ヲ廢シ調查局ヲ主計局ト改稱ス○同月大藏省第五號ヲ以テ十五年第五號第十六號第十七號第十七年第五號第六十八號達中出納局ヲ金庫局ト改ムル旨ヲ達ス○同月大藏省達第六號ヲ以テ國債局大坂出張所ヲ廢ス○同月大藏省達第八號ヲ以テ出納局大坂出張所ヲ廢シ金庫局大坂出張所ヲ置ク○十九年二月勸令第三號ヲ以テ各省官制ヲ定メ三月大藏省官制ヲ頒布ス○同年三月勸令第七號ヲ以テ稅關官制ヲ定ム○同年四月勸令第十七號ヲ以テ造幣局印刷局ノ官制ヲ定ム○同月閣令第六號ヲ以テ三池佐渡生野三鐵山局官制ヲ定ム○二十年十二月勸令第六十號ヲ以テ造幣局ノ官制ヲ改正ス○同月勸令第六十九號ヲ以テ稅關官制第一條第三條中ヲ改正ス○二十二年四月閣令第十三號ヲ以テ佐渡生野兩鐵山局官制ヲ廢止ス

第十五 大藏省官制 明治十九年二月二十六日(同二十七日公布)

大藏省

第一條 大藏大臣ハ歲入歲出租稅國債貨幣及ヒ銀行ニ關スル事務ヲ管理シ地方ノ財務ヲ監督ス

第二條 大藏大臣官房ニ秘書官二人ヲ置ク

第一類 第四章 官制

第三條 大藏省總務局ニ書記官五人ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外傳票課監督課備荒儲蓄課及整理課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第四條 傳票課ハ左ノ規程ニ依リ國庫金ノ支出傳票ノ事ヲ掌ル

一、各廳經費金準備金及ヒ預ケ入金等ノ支出ニ關スル大臣ノ決裁書ニ依リ傳票ヲ調製ス
ヘシ

二、傳票ハ正副兩葉ニ認メ正ハ之ヲ金庫局ニ送付シ副ハ之ヲ課中ニ保存スヘシ

三、傳票調製ノ上ハ官房ニ就キ大臣官印ノ捺押ヲ求ムヘシ

四、毎月ノ初メニ於テ前月分ノ收入支出ヲ計表ニ登記シ主計出納金庫ノ三局長立會ノ上、大臣面前ニ於テ照査ヲ爲スヘシ

五、傳票計表ノ様式等ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依ルヘシ

第五條 監督課ハ左ノ規程ニ依リ保護會社ノ會計ヲ監督シ及ヒ官鑛工業ノ景況等ヲ調査スル事ヲ掌ル

一、日本鐵道會社各區興業ノ費額ヲ檢按スヘシ

二、前項會社營業上收入支出ヲ檢按スヘシ

三、日本郵船會社會計ニ屬スル事件ヲ監査スヘシ

四、前項會社收入支出及ヒ其所有ニ屬スル財産ヲ監督檢査スヘシ

五、官鑛工業ノ景況ヲ調査スヘシ

六、官鑛工業ニ關スル事項ヲ調理スヘシ

七、官鑛產出物ノ員額ヲ類別調査スヘシ

八、人民ヘ貸下又ハ拂下代金未済ノ各鑛山及ヒ工場ノ事業ヲ監査スヘシ

第六條 備荒儲蓄課ハ左ノ規程ニ依リ中央及ヒ府縣ノ備荒儲蓄金穀ニ關スル事ヲ掌ル

一、中央儲蓄金ノ事務ヲ調理シ及ヒ米穀ノ購賣交換ヲ處理スヘシ

二、府縣儲蓄金ノ出納報告ヲ精査シ及ヒ其金穀管守ノ檢査ヲ爲スヘシ

三、毎年度中央儲蓄金及ヒ府縣儲蓄金出納報告ヲ調理スヘシ

四、各所儲藏ノ米穀ヲ管守出納シ及ヒ米廩ヲ保護スヘシ

第七條 整理課ハ左ノ規程ニ依リ諸貸付金取立ノ事ヲ掌ル

一、諸貸付金補助ノ帳簿ヲ設ケ其事由ヲ詳記シ金額ノ徵收ニ係ル計算ヲ爲スヘシ

二、諸貸付金ノ取立高豫算ヲ立テ之ヲ徵收シテ國庫ニ上納スヘシ

三、諸貸付金ノ年賦割替或ハ棄捐或ハ利引一時上納等ノ事ヲ處理スヘシ

四、諸貸付金ニ對シ各廳ヨリ送付スル所ノ勘定帳及ヒ計表等ヲ査閲シ精算ノ證認ヲ爲スヘシ

第八條 大藏省參事官ハ五人ヲ以テ定員トス

第九條 大藏省ニ主計官十人ヲ置ク奏任トス主計局出納局國債局及ヒ金庫局ニ分屬シテ官金ノ管守出納并ニ簿記計算ノ事ヲ掌ラシメ各局ノ須要ニ從ヒ大臣ノ命ヲ承ケテ局中各課

ノ長ヲ兼ヌルコトヲ得

第十條 大藏省ニ主税官十六人ヲ置ク奏任トス主税局關稅局ニ分屬シテ諸稅ニ關スル事務ヲ掌ラシメ各局ノ須用ニ從ヒ大臣ノ命ヲ承ケテ局中各課ノ長ヲ兼ヌルコトヲ得

第十一條 大藏省中左ノ諸局ヲ置ク

主税局

關稅局

主計局

出納局

國債局

金庫局

銀行局

預金局

記録局

第十二條 主税局ニ調査課地租課酒稅課印紙稅課雜種稅課地方稅課監查課計算課徵稅費課及統計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十三條 調査課ハ左ノ規程ニ依リ稅則ノ執行ニ關スル事ヲ掌ル

一、稅則取扱ニ關スル文案ヲ調査スヘシ

第十四條 地租課ハ左ノ規程ニ依リ地租ニ關スル事ヲ掌ル

一、地租及ヒ地券ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

二、新々ニ地價ヲ定メ又ハ地價修正ニ關シ當否ヲ調査スヘシ

三、地租臺帳ヲ整理スヘシ

四、地租ノ免除ニ關スル事務ヲ調査スヘシ

五、開墾缺下年期荒地免租年期低價年期及ヒ其地價租額ノ當否ヲ調査シ其臺帳ヲ整理スヘシ

六、地租表ヲ調査スヘシ

第十五條 酒稅課ハ左ノ規程ニ依リ酒造稅等ニ關スル事ヲ掌ル

一、酒造稅醫麴稅醬油稅等ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

第十六條 印紙稅課ハ左ノ規程ニ依リ諸印紙稅等ニ關スル事ヲ掌ル

一、烟草稅菓子稅證券稅賣藥稅等ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

二、諸印紙地券用紙及ヒ鑑札用紙ノ製造管守出納ニ關スル事務及ヒ受拂計算表ヲ調査處理スヘシ

第十七條 雜種稅課ハ左ノ規程ニ依リ諸種ノ雜稅ニ關スル事ヲ掌ル

一、船稅車稅會社稅銃獵稅牛馬賣買免許稅度量衡稅等ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

第十八條 地方稅課ハ左ノ規程ニ依リ地方稅ニ關スル事ヲ掌ル

- 一、地方税ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ
 - 二、地方税ノ課目課額ヲ調査スヘシ
- 第十九條 監査課ハ左ノ規程ニ依リ府縣稅務監査ノ事ヲ掌ル
- 一、府縣ノ稅務及ヒ徵稅費支辨ノ實況ヲ監査スヘシ但監査規則ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 二、監査員ノ報告ヲ調査スヘシ
 - 三、府縣檢査區畫檢査員配置計畫及ヒ檢査事務取扱方法ノ適否ヲ調査スヘシ
 - 四、府縣徵稅費ノ配賦及ヒ増減ノ議ニ參スヘシ
 - 五、府縣檢稅ニ關スル諸規則ヲ檢閲スヘシ
- 第二十條 計算課ハ左ノ規程ニ依リ諸稅計算ノ事ヲ掌ル
- 一、租稅ノ豫算意見書ヲ編製スヘシ
 - 二、地租ヲ除キ其他ノ諸稅表ヲ調査スヘシ
 - 三、租稅收納金額報告書ヲ整理スヘシ
 - 四、租稅ノ缺損又ハ除却ニ關スル事項ヲ調査スヘシ
 - 五、年賦延納及ヒ過年度追納ニ關スル事項ヲ整理スヘシ
- 第二十一條 徵稅費課ハ左ノ規程ニ依リ府縣徵稅費ニ關スル事ヲ掌ル
- 一、府縣徵稅費ノ豫算ヲ調理スヘシ

- 二、府縣徵稅費配賦ノ事務ヲ調理スヘシ
 - 三、府縣徵稅費ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ
 - 四、府縣徵稅費ノ決算ヲ調理スヘシ
- 第二十二條 統計課ハ左ノ規程ニ依リ租稅ニ關スル諸統計ノ事ヲ掌ル
- 一、租稅ニ關スル事項ノ諸統計表ヲ編製スヘシ
 - 二、統計表編製ノ材料ヲ蒐集スヘシ
 - 三、租稅ニ關スル事蹟ヲ調査シ統計書及ヒ年報書ヲ編製スヘシ
 - 四、府縣收稅ノ統計表及ヒ年報書ヲ審查シ其要件ヲ簡拔シテ通覽表ヲ編製スヘシ
- 第二十三條 關稅局ニ常務課調査課及製表課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二十四條 常務課ハ左ノ規程ニ依リ海關稅諸規則ノ執行ニ關スル事ヲ掌ル
- 一、海關稅諸規則ノ執行ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ
 - 二、海關稅務ニ關シ諸官廳トノ往復文案ヲ取扱フヘシ
 - 三、稅關ニ屬スル地所建物船舶及ヒ其他諸物件ニ關スル事項ヲ調査スヘシ
 - 四、海關稅豫算意見書ヲ編製スヘシ
 - 五、海關稅收納金額報告書ヲ整理スヘシ
 - 六、物品貨幣輸出入ノ景況ニ依リ海關稅收入ノ増減ヲ調査スヘシ
 - 七、築地出張所ノ事務ヲ監査スヘシ

第二十五條 調査課ハ左ノ規程ニ依リ内外物品ノ市價及海關稅率ノ當否調査ノ事ヲ掌ル

一、内外物品ノ市價ヲ調査シテ海關稅率及課稅ノ當否ヲ勘按スヘシ

二、内外貿易ノ盛衰ヲ調査シテ定期報告書ヲ調製スヘシ

三、海外各國ノ通商條約及ヒ稅關規則ヲ調査スヘシ

四、海關稅務ニ關シ外國人ト往復スル文書及ヒ一切ノ洋文ヲ調理スヘシ

第二十六條 製表課ハ左ノ規程ニ依リ貿易ニ關スル諸表編製ノ事ヲ掌ル

一、輸出入物品貨幣及ヒ出入港船舶ノ統計ニ關スル事項ヲ調査スヘシ

二、外國貿易ニ關スル年表月表及ヒ諸表ヲ編製スヘシ

第二十七條 主計局ニ主簿課總豫算決算課歲入課歲出第一課歲出第二課地方財務課官有財

產物品會計課雜種金課及調査課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二十八條 主簿課ハ左ノ規程ニ依リ歲入歲出ノ原簿日記簿補助簿等登記ノ事ヲ掌ル

一、歲入歲出豫算原簿日記簿補助簿內譯簿ヲ備ヘ之レニ決定豫算及ヒ其増減額現收入現

支出ヲ登記スヘシ

二、國庫總原簿日記簿補助簿內譯簿ヲ備ヘ現收入現支出ヲ登記スヘシ

三、歲入歲出各廳區分簿ヲ備ヘ現收入現支出ヲ登記スヘシ

四、諸帳簿ノ計表報告表及報告書ノ名稱様式ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシ

五、歲入歲出豫算原簿日記簿補助簿國庫總原簿日記簿補助簿ノ登記計算及諸計表調理帳

整理ノ方法ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

六、各廳及ヒ府縣會計上計算記簿様式ニ係ル一切ノ事項ヲ處理スヘシ

第二十九條 總豫算決算課ハ左ノ規程ニ依リ國庫總體ノ歲入歲出豫算書及ヒ決算報告書調

製ノ事ヲ掌ル

一、各廳ノ歲計豫算書ニ據リ國庫總體ノ歲計豫算ノ概計ヲ爲スヘシ

二、歲入課歲出課及ヒ地方財務課ニ於テ調査セシ各廳ノ歲計豫算書ヲ再查シ國庫總體ノ

豫算書ヲ調製スヘシ

三、歲入課歲出課及ヒ地方財務課ニ於テ調査セシ各廳ノ決算報告書ヲ再查シ國庫歲入出

總決算報告書ヲ編製スヘシ

四、歲入歲出ノ科目ヲ調理スヘシ

第三十條 歲入課ハ左ノ規程ニ依リ各廳所屬歲入ノ豫算決算及收入調理ノ事ヲ掌ル

一、各廳ノ歲入豫算書ヲ檢案調理スヘシ

二、各廳ノ歲入豫算増減報告書ヲ檢案調理スヘシ

三、各廳歲入仕譯書ヲ檢案調理スヘシ

四、各廳ヨリ送付スル諸報告書ヲ前項ノ仕譯書ニ照合シ歲入ノ未納アルモノハ其督促ノ

手續ヲ爲スヘシ

五、各廳ノ收納報告書ヲ主簿課ノ歲入各廳區分簿ト對查照合スヘシ

- 六、各廳ノ歳入決算報告書ヲ檢案調理スヘシ
 - 七、大藏省證券ノ發行高及ヒ臨時借入金ヲ檢査スヘシ
- 第三十一條 歳出第一課ハ左ノ規程ニ依リ各廳歳出ノ豫算決算及ヒ支出調理ノ事ヲ掌ル
- 一、帝室内閣外務省大藏省陸軍省海軍省司法省文部省農商務省逓信省元老院所管ノ歳出豫算書ヲ檢案調理スヘシ
 - 二、前項各廳ノ歳出豫算流用豫算増減額及ヒ別途支出ヲ檢案調理スヘシ
 - 三、前項各廳歳出仕譯書ヲ檢案調理スヘシ
 - 四、前項各廳ヨリ送付スル支出報告書ヲ仕譯書ニ照合スヘシ
 - 五、前項各廳ノ支出報告書ヲ主簿課ノ歳出各廳區分簿ト對查照合スヘシ
 - 六、前項各廳ノ歳出決算報告書ヲ檢案調理スヘシ
- 第三十二條 歳出第二課ハ左ノ規程ニ依リ各廳歳出ノ豫算決算及ヒ支出調理ノ事ヲ掌ル
- 一、内務省北海道廳各府縣ノ歳出豫算書ヲ檢案調理スヘシ
 - 二、前項各廳ノ歳出豫算流用豫算増減額及ヒ別途支出ヲ檢案調理スヘシ
 - 三、前項各廳歳出仕譯書ヲ檢案調理スヘシ
 - 四、前項各廳ヨリ送付スル支出報告書ヲ仕譯書ニ照合スヘシ
 - 五、前項各廳ノ支出報告書ヲ主簿課ノ歳出各廳區分簿ト對查照合スヘシ
 - 六、前項各廳ノ歳出決算報告書ヲ檢案調理スヘシ

第三十三條 地方財務課ハ左ノ規程ニ依リ地方費ニ關スル收入支出ノ事ヲ掌ル

- 一、國庫支辨地方費ノ豫算書及ヒ其流用増減額ヲ檢案調理スヘシ
 - 二、地方稅ノ收入支出豫算書ヲ調査スヘシ
 - 三、國庫支辨地方費支出及ヒ其決算報告書ニ關スル事項ヲ處理スヘシ
 - 四、地方稅收入支出精算報告書ヲ調査スヘシ
 - 五、地方稅收入支出精算ニ關スル府縣會意見書ノ處分案ヲ審査スヘシ
- 第三十四條 官有財産物品會計課ハ左ノ規程ニ依リ政府所有ノ財産及各廳物品出納調理ノ事ヲ掌ル
- 一、官有財産ニ關スル事件ヲ檢案調理スヘシ
 - 二、物品ノ出納ニ關スル事件ヲ調理スヘシ

第三十五條 雜種金課ハ左ノ規定ニ依リ起業基金中山道鐵道基金其他各種別途金ノ事ヲ掌ル

- 一、起業基金中山道鐵道基金勸業資本金其他別途金ノ收入支出豫算決算ニ係ル事務ヲ處理スヘシ
- 二、準備金中央儲蓄金預リ金ノ收入支出ニ係ル主任官ノ稟議書ヲ檢案調理スヘシ
- 三、府縣勸業委託金ノ精算及ヒ増減棄捐等ノ申稟ヲ處理スヘシ
- 四、常用歳入歳出外特ニ金庫ノ一部ヲ設ケ之レカ收入支出ヲ爲スコトアルトキハ皆本課

ニ於テ處理スヘシ

五、營業資本ノ收入支出ヲ檢案調理スヘシ

第三十六條 調査課ハ左ノ規程ニ依リ各廳及ヒ府縣ノ會計規程及ヒ支給法ニ關スル事ヲ掌ル

一、各廳及ヒ府縣ノ會計規程ヲ調査スヘシ

二、旅費其他支給ノ事項ヲ成規ニ照ラシ調査スヘシ

第三十七條 出納局ニ配賦課準備金課及監査課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

東京金庫内扉ノ鎖鑰ハ出納局長之ヲ管守ス

第三十八條 配賦課ハ左ノ規程ニ依リ國庫金運轉配賦ノ事ヲ掌ル

一、現金ノ配賦ハ豫算決定額及ヒ豫算仕譯書ニ據リ之ヲ計畫スヘシ

二、前項收入支出金ハ金庫局ノ報告ニ據リ現金所在及ヒ各部ノ金種類ヲ區分記帳スヘシ但諸帳簿并ニ記帳ノ順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

三、各廳ノ支出金ハ其原議ニ依リ之ヲ支出命令簿ニ登記シ金庫局現金支出報告書ヲ得テ其整理ヲ爲スヘシ

四、現金配賦ノ爲メ之ヲ各地ニ回送スルトキハ大臣ノ命ヲ承ケ金庫局ニ通知ノ順序ヲ爲スヘシ

五、國庫金運轉及ヒ配賦上ニ關スル内外財務ノ狀況ヲ精査スヘシ

六、歳入ニ先チ歳出ヲ要スルトキハ大藏省證券ヲ發行シ或ハ一時借入金ヲ爲シ其利子ヲ定メ及ヒ之ヲ償還シ又ハ國庫ニ餘裕アリテ定期預ケ金ヲ爲ス等ノ案ヲ起艸スヘシ

第三十九條 準備金課ハ左ノ規程ニ依リ準備金ニ關スル事ヲ掌ル

一、金銀銅地金ノ購收及ヒ所管ノ公債證書諸株券等ノ取扱ヲ爲スヘシ

二、紙幣兌換基金交付ノ順序ヲ爲スヘシ但其方法ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

三、外國荷爲換ノ事ヲ取扱フヘシ但其方法ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

四、準備金ノ補助簿ヲ設ケ其出納ヲ登記スヘシ

第四十條 監査課ハ左ノ規程ニ依リ金庫國庫金取扱所現金支拂所監査ノ事ヲ掌ル

一、東京金庫ノ開閉及ヒ其現金ノ出納ヲ監査スヘシ

二、東京大阪金庫日本銀行(國庫金ニ屬スル部分)橫濱正金銀行(同上)各地國庫金取扱所現金支拂所ヲ監督シ及ヒ其收入支出ノ順序ヲ定メ其諸帳簿ヲ檢査スヘシ

第四十一條 國債局ニ公債課恩給課及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第四十二條 公債課ハ左ノ規程ニ依リ諸公債紙幣證券等ニ關スル事ヲ掌ル

一、内外公債ニ關スル各廳ノ文書ヲ處理スヘシ

二、内外公債證書大藏省證券發行及交換ノ事務ヲ處理スヘシ

三、内外公債及ヒ紙幣ノ補助簿ヲ設ケ其増減ヲ登記スヘシ

四、内外公債證書ノ記番號帳ヲ備ヘ之ヲ整理スヘシ

- 五、内外公債元利金償還及ヒ雜費ノ豫算ヲ調理スヘシ
 - 六、内外公債一時借入金紙幣償還ノ實況ニ由リ其方法更正ノ順序ヲ調理スヘシ
 - 七、内外公債一時借入金ノ元利金及ヒ雜費支拂ノ順序ヲ爲スヘシ
 - 八、内外公債抽籤滿期繰上ケ償還並ニ一時借入金ノ元利金償還及ヒ紙幣銷却ノ事務ヲ處理スヘシ
 - 九、紙幣交換基金ヲ日本銀行ニ交付シ及交換濟紙幣ヲ同銀行ヨリ受取り金庫局ニ送付スルノ手續ヲ爲スヘシ
 - 十、金庫局ヨリ交換濟紙幣調査濟ノ報告ヲ受ケ帳簿ヲ整理スヘシ
 - 十一、拂濟内國公債證書及ヒ利賦札ハ之ヲ記録局ヘ送付シ同局ノ證明ヲ得テ其決算ノ順序ヲ爲スヘシ
 - 十二、拂濟外國公債證書及ヒ利賦札ヲ燒却シタル報告ヲ得テ之レカ決算ノ順序ヲ爲スヘシ
 - 十三、内國公債證書及ヒ大藏省證券ニ關スル訓令告示ノ順序ヲ爲スヘシ
- 第四十三條 恩給課ハ左ノ規程ニ依リ文武官其他ノ恩給年金等ニ關スル事ヲ掌ル
- 一、賞勳年金官吏恩給扶助料退官賜金軍人恩給扶助料賑恤金給助金沖繩縣土族ノ金祿同縣社寺役俸ニ關スル文書ヲ處理スヘシ
 - 二、前項賜金ノ臺帳ヲ備ヘ之レヲ整理スヘシ

- 三、前項賜金ノ豫算ヲ調理スヘシ
 - 四、前項賜金交付ノ順序ヲ爲スヘシ
 - 五、諸祿追給ニ關スル申稟ヲ處理スヘシ
- 第四十四條 計算課ハ左ノ規程ニ依リ簿記計算整理ノ事ヲ掌ル
- 一、公債恩給等ニ關スル出納ノ計算ヲ調理スヘシ
 - 二、本局ノ原簿日記簿及ヒ補助簿ヲ備ヘ其登記ヲナスヘシ
 - 三、本局ノ收入支出ニ關スル金券ヲ管守シ及ヒ之カ出納ヲ爲スヘシ
 - 四、公債元利金償還并ニ年金恩給諸祿等ノ豫算ヲ編製シ及ヒ之カ決算ノ順序ヲ爲スヘシ
 - 五、各廳及ヒ銀行ヨリ送付シタル勘定帳ヲ査閲シ其精算證認ノ順序ヲ爲スヘシ
 - 六、本局主務ノ諸計表及ヒ報告書ヲ調製スヘシ
- 第四十五條 金庫局ニ主金課收支課及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 東京金庫外扉ノ鎖鑰ハ金庫局長之ヲ管守ス
- 第四十六條 主金課ハ左ノ規程ニ依リ金庫ノ開閉現金ノ出納及ヒ國庫金取扱所現金支拂所管理ノ事ヲ掌ル
- 一、東京金庫大阪金庫日本銀行(國庫金ニ屬スル部分)横濱正金銀行(同上)及ヒ各地國庫金取扱所現金支拂所ヲ管理スヘシ
 - 二、東京金庫現金ノ監守ニ從事スヘシ但其規程ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

- 三、各金庫現金ノ收入支出ハ出納規則及ヒ支出傳票ニ依リ之ヲ執行スヘシ但其順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 四、現金所在ノ移轉ニ係ル令達書ヲ調製スヘシ
 - 五、收支課ニ拂元金ヲ渡シタルトキハ證印簿ニ登記證印セシムヘシ但其順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 六、大阪金庫各地國庫金取扱所又ハ現金什拂所ヨリ計算課ヲ經テ送付スル毎日現金出納報告ヲ精査シ國庫ノ總現金在高及ヒ其種類ヲ記帳シ日計表ヲ調製スヘシ
 - 七、紙幣兌換基金ヲ日本銀行ニ交付シ豫備紙幣ノ受入及ヒ交換濟ノ紙幣燒却等ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 八、舊銅貨交換ニ關スル事務ヲ調理シ基金回送等ノ順序ヲ爲スヘシ
 - 九、收入金鑑定未濟ノ現金ハ收支課ノ請求ニ應ジ金庫ニ保護スヘシ
 - 十、諸抵當品ヲ預リ之ヲ金庫ニ保存スヘシ
- 第四十七條 收支課ハ左ノ規程ニ依リ各廳經費金ノ支拂及ヒ納付金ノ受入損傷紙幣交換ノ事ヲ掌ル
- 一、收入金ハ現金收入所ニ於テ鑑定受入濟ノ上受渡證印簿ニ登記シ之ヲ主金課ニ送付シ領收ノ證印ヲ受クヘシ但其順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 二、收入所ニ納入セシ上納證書ハ之ヲ計算課ニ送付スヘシ

- 三、國庫金取扱所其他ヨリ送付スル送金手形ハ之ヲ書留簿ニ記載シ其期日ニ至リ送金手形ノ取付ヲ爲スヘシ
 - 四、贋造貨幣及ヒ贋造描改紙幣ヲ發見シタルトキハ之レニ其事由書ヲ添へ警察官ニ通知ノ順序ヲ爲スヘシ
 - 五、損傷紙幣ノ交換ヲ爲シタルトキハ其都度國債局及ヒ計算課ニ通知スヘシ
 - 六、交換濟紙幣ヲ國債局ヨリ受取リタルトキハ其眞贋ヲ調査シ國債局ニ報告シ紙幣ハ之ヲ記録局ニ送付スヘシ
 - 七、廢棄紙幣ニハ大藏卿ノ印章及ヒ數位ノ打抜キヲ爲スヘシ
 - 八、各廳ヨリ支拂案内券到着スレハ支出傳票ト照査シ其支拂ノ順序ヲナスヘシ
 - 九、毎日支拂基金ノ豫算ヲ立テ之ヲ主金課ヨリ受取置キ各廳ノ支拂切符ニ引換現金ヲ交付スヘシ但支出金ヲ帳簿ニ登記シ之ヲ計算整理スルノ順序ハ別ニ定ムル所ニ依ル
 - 十、現金支拂濟ノ切符ハ之ヲ計算課ニ送付スヘシ
- 第四十八條 計算課ハ左ノ規定ニ依リ簿記計算整理ノ事ヲ掌ル
- 一、收支課ヨリ上納證書及ヒ支拂切符ヲ受取リタルトキハ之レニ依リテ收入支出ノ記帳ヲナスヘシ
 - 二、大阪金庫各地國庫金取扱所現金支拂所ヨリ送付スル毎日現金出納報告ニ由リ收入支出ノ金額ヲ記帳スヘシ但帳簿ノ組織登記ノ方法等ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

三、 每日收入支出ノ金額ハ各目各廳各金種類ニ區分シ之カ報告表ヲ調製シ主計局及ヒ出納局ニ報知スヘシ

四、 政府紙幣流通額及ヒ交換紙幣ノ員額ヲ調理シ之カ計算ヲ整理スヘシ

五、 國庫金運搬ニ係ル費用其他取扱料并ニ手数料等ハ之ヲ調査シ會計局ニ通知スヘシ

第四十九條 金庫局大阪出張所ハ左ノ規程ニ依リ大阪金庫現金ノ管守及ヒ日本銀行大阪支店(國庫金ニ屬スル部分)管理ノ事ヲ掌ル金庫ノ鎖鑰ハ出張所長之ヲ管守スヘシ

一、 大阪金庫ノ監守及ヒ日本銀行支店(國庫金ニ屬スル部分)ノ管理ヲ爲スヘシ

二、 本局ノ指揮ニ依リ現金ノ收支及ヒ諸抵當品ノ保管ヲ爲スヘシ

三、 本局ノ指揮若クハ各廳ノ請求ニ應シ各地ニ送金ノ取扱ヲ爲スヘシ

四、 送金案内券ニ對スル金員ヲ取付ケ又ハ交換紙幣ノ大藏卿印章及ヒ數位ノ打抜ヲ爲スヘシ

五、 贋造貨幣又ハ贋造描改紙幣ヲ發見シタルトキハ本局同様ノ手續ヲ爲スヘシ

六、 收支ノ證書ニ據リ帳簿ヲ整理シ各種ノ計表ヲ調製シテ本局ニ報告スヘシ

七、 金銀銅地金及ヒ成貨ノ受渡ヲ爲スヘシ但其順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第五十條 銀行局ニ常務課調査課及報告課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第五十一條 常務課ハ左ノ規程ニ依リ各銀行營業上ニ關スル事ヲ掌ル

一、 各銀行本支店ノ廢置移轉分合又ハ資本金増減等其他諸文書ヲ處辨スヘシ

二、 銀行ニ關スル文案ヲ起草調査スヘシ

三、 國立銀行頭取取締役ノ誓詞ヲ檢按シ支配人以上ノ姓名ヲ登錄シ其印鑑ヲ保存スヘシ

四、 諸銀行及之ニ類似スル會社營業上ニ關スル一切ノ事務ヲ處理スヘシ

五、 銀行ノ營業停止及鎖店處分ニ關シ其方案ヲ起草スヘシ

六、 諸銀行及之ニ類似スル會社營業上犯則ノ所爲アルトキハ之カ處分案ヲ起草スヘシ

七、 銀行紙幣日本銀行兌換券ニ係ル事件ヲ調理スヘシ

第五十二條 調査課ハ左ノ規程ニ依リ各銀行ノ景況ニ就キ統計報告ノ事ヲ掌ル

一、 諸報告及簿記計算等ニ關スル告示及達案ヲ起草調査スヘシ

二、 諸報告及簿記計算ニ關スル一切ノ文書ヲ調理スヘシ

三、 各銀行及交換所ノ報告及考課狀等ヲ調査スヘシ

四、 各銀行交換所及兌換券ニ係ル諸帳簿ノ記入法并ニ諸報告計表樣式ノ制定又ハ改正ヲ要スルトキハ其文案ヲ起草スヘシ

五、 銀行鎖店ノ場合ニ際シ其資産及負債ヲ精査シ實際ノ損益ヲ證明スヘシ

六、 諸銀行ノ金庫帳簿諸證書及營業ノ實況ヲ檢査スヘシ

第五十三條 報告課ハ左ノ規程ニ依リ各銀行ノ景況ニ就キ統計報告ノ事ヲ掌ル

一、 各銀行營業上貸借金ノ員額種類資本及諸手形ノ多寡増減其他ノ事項等各銀行ノ報告書考課狀ニ依リ每半季ニ區分統計シ其景況考察ノ用ニ便スヘシ但參考ノ爲メ歐米銀

行業務ノ景況等ヲ調査スルコトヲ得

二、交換所ニ於テ其交換ノ高ヲ調査シ手形ノ種類等ヲ區分統計スヘシ

第五十四條 預金局ニ勘査課收支課及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第五十五條 勘査課ハ左ノ規程ニ依リ各種預金ニ關スル運用利殖等ノ事ヲ掌ル

一、預金運用利殖ノ方案ヲ立ツヘシ

二、預金ノ利子額ヲ定メ或ハ之カ更正ヲ考案スヘシ

三、日本銀行ヘ交付スル手数料ヲ勘按スヘシ

四、日本銀行ヘ定期及ヒ當座預ケ入金ノ順序ヲ定ムヘシ

五、所管ニ屬スル正貨交換ノ方案ヲ立ツヘシ

六、所管ノ帳簿ヲ整理スヘシ

第五十六條 收支課ハ左ノ規程ニ依リ各種預金ノ出納ニ關スル事ヲ掌ル

一、預ケ入金領收交付ノ順序ヲ定メ及之ヲ處分スヘシ

二、驛遞局貯金ヲ受入レ及拂渡方ヲ處辨スヘシ

三、預ケ入金ノ通帳ヲ整理スヘシ

四、預ケ入金利子交付ノ順序ヲ爲スヘシ

五、預ケ入金ヲ國庫ニ納入シ及受取方ヲ處辨スヘシ

六、所管ノ諸帳簿ヲ整理スヘシ

第五十七條 計算課ハ左ノ規程ニ依リ各種預金ノ計算簿記ノ事ヲ掌ル

一、預金收支ノ計算ヲ總轄整理スヘシ

二、預金ノ種類ヲ區別スヘシ

三、公債證書及大藏省證券ノ價值ヲ類別シ其計算ノ方法ヲ立ツヘシ

四、所管ノ諸帳簿ヲ整理スヘシ

第五十八條 記録局ニ編輯課及照査課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第五十九條 編輯課ハ左ノ規程ニ依リ省中一切ノ諸公文原書及書籍ヲ保管スル事ヲ掌ル

一、支出傳票ノ原書及省中ノ諸公文原書ヲ保存スヘシ

二、各局ノ諸原書ヲ採輯スルハ其主任局ニ於テ事務完結後三十日以内タルヘシ但計算出納ニ屬スル原書ハ決算報告書完結ノ後タルヘシ

三、保存ノ原書類ハ各局ニ區別シテ之ヲ編輯シ其主任局課ノ需メニ應シ直ニ參觀ニ供スヘシ

四、本省所管ノ書冊ハ其目錄ヲ調製シ内閣記録局ヘ勘合スヘシ

五、省中需用ノ書籍ヲ購收スル事務ヲ處理スヘシ

六、本省外各廳ノ官吏ニシテ保管書類ノ借覽ヲ請求スルモノアルトキハ大臣ノ允許ヲ得テ之ヲ借覽セシムヘシ

七、省中ノ官吏ニシテ書籍ノ借覽ヲ請フモノアルトキハ其規約ヲ嚴ニシテ貸付スヘシ

八、總テ保存ノ書類簿冊等ハ其管守ノ法ヲ嚴正ニスヘシ
第六十條 照查課ハ左ノ規程ニ依リ各種公債證書紙幣及大藏省證券ノ押印又ハ消印ノ事ヲ掌ル

- 一、各種紙幣公債證書大藏省證券等ハ其種類記號番號ヲ照查シ其面ニ押印スヘシ又紙幣證書證券等ノ支消或ハ損傷若クハ抽籤等ニテ引上ケタルモノハ検査ノ後之カ消印ヲ了シ燒棄ノ手續ヲ爲スヘシ
- 二、國立銀行紙幣ノ損傷交換等ニ係ル事務ヲ處理スヘシ
- 三、諸證書證券等其種類ヲ變換スルカ爲メ新舊引換ノモノアルトキハ検査ノ後新證書類ヘハ例規ノ押印ヲナシ舊證書類ヘハ検査後二日以内ニ消印ヲ了シ直ニ燒棄スヘシ但其手續順序ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ
- 四、各公債證書ノ利札ハ検査後燒棄スヘシ其手續順序ハ前條ノ如シ

〔一〕稅關官制 明治十九年三月二十六日公布 勅令第七號

朕稅關官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年三月二十五日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第七號

稅關官制

第一條 各稅關ハ大藏大臣ノ管轄ニ屬シ職員ヲ置クコト左ノ如シ

稅關長

稅關副長

鑒定官 二十年十二月二十五日(同二十七日)布告 勅令第六十九號ヲ以テ本項ヲ追加ス

屬

監吏

鑒定吏

第二條 稅關長ハ奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ海關稅及諸收入ノ事ヲ掌理ス

稅關長ハ其主務ニ就キ關稅局長ト協辦スルコトアルヘシ

第三條 稅關副長ハ奏任トス橫濱神戸ノ兩稅關ニ限り之ヲ置ク

稅關副長ハ稅關長ノ事務ヲ佐ク稅關長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

鑒定官ハ奏任二等以下トス稅關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物鑒定ノ事ヲ掌ル 同上勅令ヲ以テ本項ヲ追加ス

第四條 屬ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ニ從フ

第五條 監吏ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ密商脫稅監視ノ事ニ從フ

監吏ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第六條 鑒定吏ハ判任トス各上官ノ指揮ヲ承ケ貨物鑒定ノ事ニ從フ

鑒定吏ハ便宜雇員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七條 各稅關ニ検査課鑒定課收稅課倉庫課監視課文書課製表課及會計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第八條 検査課ハ輸出入貨物ノ検査ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第九條 鑒定課ハ輸出入貨物ノ性質價直其他鑒定ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十條 收稅課ハ輸出入貨物ノ税金及船舶倉庫等ノ諸收入金收納ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十一條 倉庫課ハ倉庫上屋ヲ管守シ其開閉及貨物ノ出納ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第十二條 監視課ハ密商脫稅監視ノ事ヲ掌ル

第十三條 文書課ハ内外諸文書及職員ノ取扱免狀證書等捺印ノ事ヲ掌ル

第十四條 製表課ハ貿易ニ關スル諸表編製ノ事ヲ掌ル

第十五條 會計課ハ關稅諸收入及經費ノ豫算決算並經費ノ出納買上品官沒品ノ取扱財産ノ管守其他諸備人ノ身分ニ關スル事ヲ掌ル

〔二〕印刷局官制 明治十九年四月十七日公布
〔造幣局〕印刷局ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年四月十五日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
大藏大臣伯爵松方正義

二十年勅令第
六十號ヲ以テ
造幣局官制改
正ニ付除ク

勅令第十七號

印刷局官制

第一條 印刷局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ諸印刷抄紙ノ事ヲ掌ル

第二條 印刷局ニ職員ヲ置クニト左ノ如シ

事務長

事務次長

技術官

屬

第三條 事務長ハ一人奏任二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 事務次長ハ一人奏任トシ現任事務長ノ次等以下トス事務長ノ事務ヲ佐ク

第五條 技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス

第七條 印刷局ニ總務部會計部印刷部及抄紙部ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

〔三〕造幣局官制 明治二十年十二月二十二日公布
〔造幣局〕官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第一類 第四章 官制

明治二十年十二月二十一日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十號

造幣局官制

第一條 造幣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣鑄造及賞牌製造ノ事ヲ掌ル
第二條 造幣局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

局長

局次長

技術官

屬

第三條 局長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス
第四條 局次長ハ一人奏任トシ現任局長ノ次等以下トス局長ノ事務ヲ佐ク

第五條 技術官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ従事ス

第七條 造幣局ニ總務部會計部鑄造部試金所精製所ヲ置ク

第八條 總務部ハ内外ノ諸公文書類諸報告ノ取扱監察ノ事務職員ノ取扱及諸雜件調理ノ

事ヲ掌ル

第九條 會計部ハ各地金及成貨ノ出納計算營業費ノ豫算決算及其出納各工場諸官舎等所

屬建物ノ營繕ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 鑄造部ハ貨幣ノ鑄造極印ノ彫刻鐵工銅工等ノ工事ヲ掌ル

第十一條 試金所ハ地金及貨幣ノ品位ヲ試験スルノ工事ヲ掌ル

第十二條 精製所ハ金銀ヲ精製スル工事ヲ掌ル

第十三條 大藏省構内ニ造幣局東京出張所ヲ置キ各地金ノ受入及代リ貨幣拂渡ノ手續ヲ

分掌セシム

〔四〕三池鑛山局官制 明治十九年四月十六日(同十七日公布)

三池鑛山局(佐渡鑛山局生野鑛山局)ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ 二十二年三月三十一日(四月一日公布)
開令第十三號ヲ以テ佐渡鑛山局生野鑛山局ノ官制ヲ廢ス

三池鑛山局官制

第一條 鑛山局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ三池石炭採掘ノ事ヲ掌ル

第二條 三池鑛山局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

事務長

技術官

屬

第三條 事務長ハ一人奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ従事ス

第六條 三池鑛山局ニ工業課運輸課營繕課製作課及庶務課ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム